

OTO LOGY 2019 October 10-12 YAMAGATA

プログラム集

第29回 日本耳科学会 総会・学術講演会

会期 2019年10月10日(木)・11日(金)・12日(土)

会場 山形テルサ、ホテルメトロポリタン山形

会長 欠畑 誠治 山形大学医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科

OriginalからStandardへ

第 29 回日本耳科学会総会・学術講演会 会長挨拶

欠畑 誠治

山形大学医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座

このたび、第 29 回日本耳科学会を担当させていただくことになりました。日本耳鼻咽喉科の中で最大の会員数を誇る分科会である日本耳科学会を、わが山形大学が初めて担当することは大変名誉なことであると思っています。山形で開催されるこの学会を通じ、耳科学の魅力を発信することが重要なミッションだと考えています。

テーマは『Original から Standard へ』とし、コンセプトを表すポスターはオリジナルを生み出す情熱の赤、そしてそのオリジナルを世界へ広げるスピード感を表す光速の黄色としました。

OTOLOGY2019 YAMAGATA では、耳科学の世界の最先端を肌で感じてもらうその魅力を感じてもらうこと、耳科学をこれから担う世代を積極的に登用し、耳科学会をより活力のあるものとすることを目標にすえました。おかげさまで 370 題を超える多数の演題申し込みをいただきました。初めて耳科学会で発表する会員による『初めての耳科学会』セッションには 60 題もの応募があり、耳科学会の新規会員増加に一役買うことができたのではと考えております。

魅力的な International Faculty は 30 名強におよび、14 の Theme session では最新のトピックや議論の多いトピックについて、国内外のトップサージャンやリサーチャーが共演します。International Faculty による Keynote lecture に続けて、シンポジウムやラウンドテーブルの形式で、国内外の演者間で徹底的に議論していただく国際色豊かな学会になります。

40 歳代までの次世代の演者による公募型の 60 分間のセッション Next generation's session には、学会テーマ『Original から Standard へ』に沿った多数の企画をご応募いただき、プログラム委員会による選考の結果、11 演題が採択されました。頭蓋底外科手術などの臨床から再生医療に結びつく基礎研究まで幅広い分野における未来の耳科学について討論していただきます。

40 歳未満の演者による一般演題から選ばれた、臨床と基礎の各 6 演題から最優秀演題「Young Award」を競う Young Award session. このセッションと『初めての耳科学会』セッションは、皆さんのスマホを使って各演題へ『いいね!』ボタンを押して投票してもらい優秀者の選考を行う聴衆参加型のセッションです。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

Next generation や New generation の医師たちが、自分たちの Original を生みだし、それを世界へ発信し、そして世界の Standard にするための手がかりを、この学会で見つけて頂ければと考えています。

特別講演として、pre-digital era に内視鏡を世界に先駆けて中耳に導入した野村恭也先生、山形出身でフェラーリのチーフデザイナーも務めた世界的な工業デザイナー Ken Okuyama さん、韓国耳科学会理事長の Sung-Won Chae 先生、そして『Physiology of the Ear』の著者としても有名な Joseph Santos-Sacchi 先生にご講演いただきます。

そのほか本学会の目玉企画として『顔面神経麻痺 - 3D ビデオを観てつけてみよう、柳原 40 点法』セッションがあります。参加者とパネリストで柳原法の点数をつけてもらいます。特別コメンテーターとして柳原先生と村上先生からコメントをいただく企画で今から楽しみです。

ハンズオン企画としてこれまでと同様に、山形大学オリジナルの精巧な側頭骨 3D モデルを用いた側頭骨手術手技研修ワーキンググループによるハンズオンセミナーを行います。Exoscope や 4K

endoscopeなどの最新手術機器を用いて、国内外のトップサーजनがデモンストレーションを行う予定で、専攻医からエキスパートまで幅広い会員の皆様に興味を持っていただけるものと期待しております。さらに、『Dr. BABAのメディカルイラストレーションセミナー』を初めて行います。このハンズオンに出てもらえば、手術記録を書くのが楽しくなること請け合いです。

本学会では会場共通で画面のサイズを16:9のワイドサイズにし、一部会場では高解像度(4K, フルHD)投影や3D投影の対応を予定しております。3Dメガネをかけて立体的な動画を見ながら討論するセッションなど高品質な画像にもこだわっています。

また、当学会の会期中に山形国際ドキュメンタリー映画祭(10月10日-17日)が開催されます。山形市は2017年にユネスコ創造都市ネットワークの映画部門で加盟認定されており、当学会では山形国際ドキュメンタリー映画祭とのコラボレーションを企画しています。会員の皆様にはドキュメンタリー映画祭ジャパンプレミア上映への優待などの特典があります。学会に疲れたら街に出かけ映画でくつろがれたらいかがでしょうか。さらに山形駅前商店街のカフェや飲食店での特典も予定しています。

10月の山形はつや姫や雪若丸などの新米や季節の果物、芋煮などの食にも恵まれ、蔵王の紅葉が見事な季節です。ぜひとも山形で美味しいものを食べながら、耳科学の現在と未来について語り合いましょう。会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

◆会場最寄駅までの交通案内

●東京駅から

JR 東京駅 (山形新幹線) ▶ JR 山形駅 2時間 50分

JR 東京駅 (東北新幹線) ▶ JR 仙台駅 (高速バス または 仙山線) ▶ JR 山形駅 3時間

●空港から (バス)

山形空港 (空港シャトル JR 山形駅東口行) ▶ JR 山形駅 35分

仙台空港 (高速バス仙台空港線 JR 山形駅行) ▶ JR 山形駅 1時間 20分

会場周辺図 SITE MAP

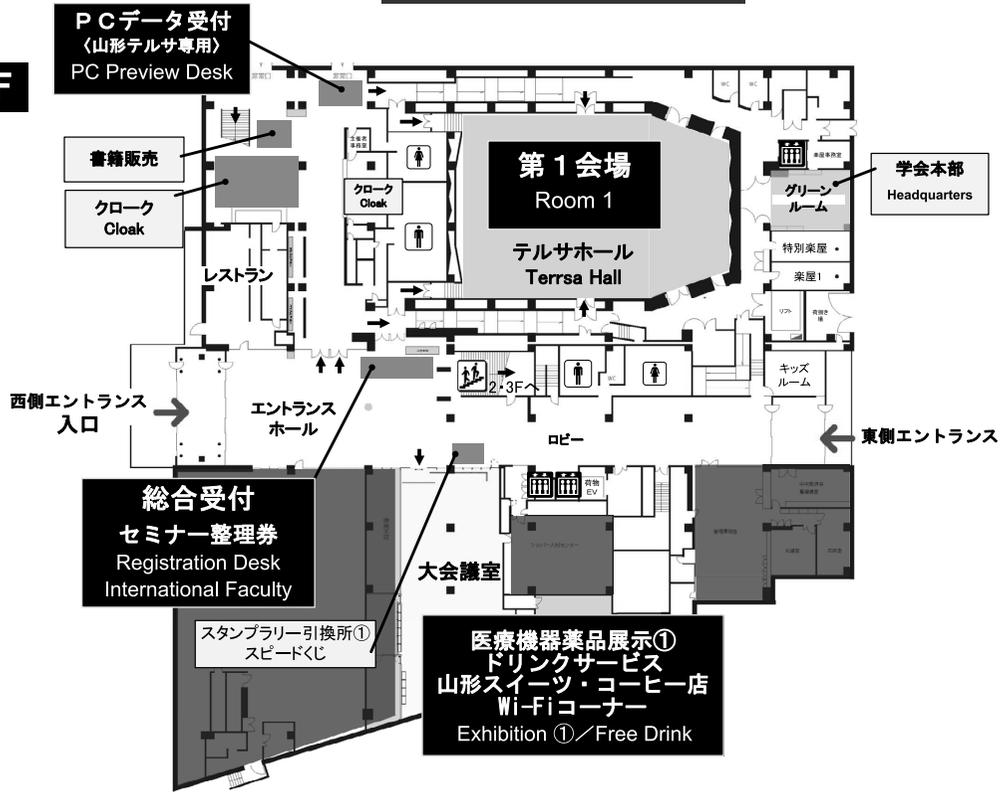
●山形テルサ～ホテルメトロポリタン山形間 徒歩・約10分



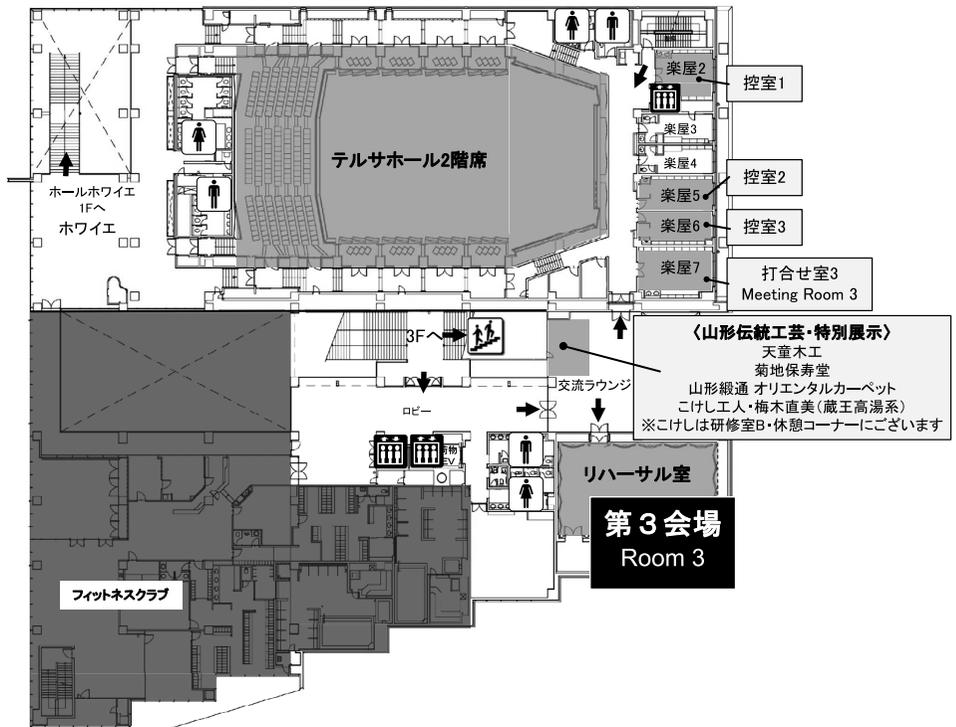
会場図 FLOOR GUIDE

山形テルサ YAMAGATA TERRSA

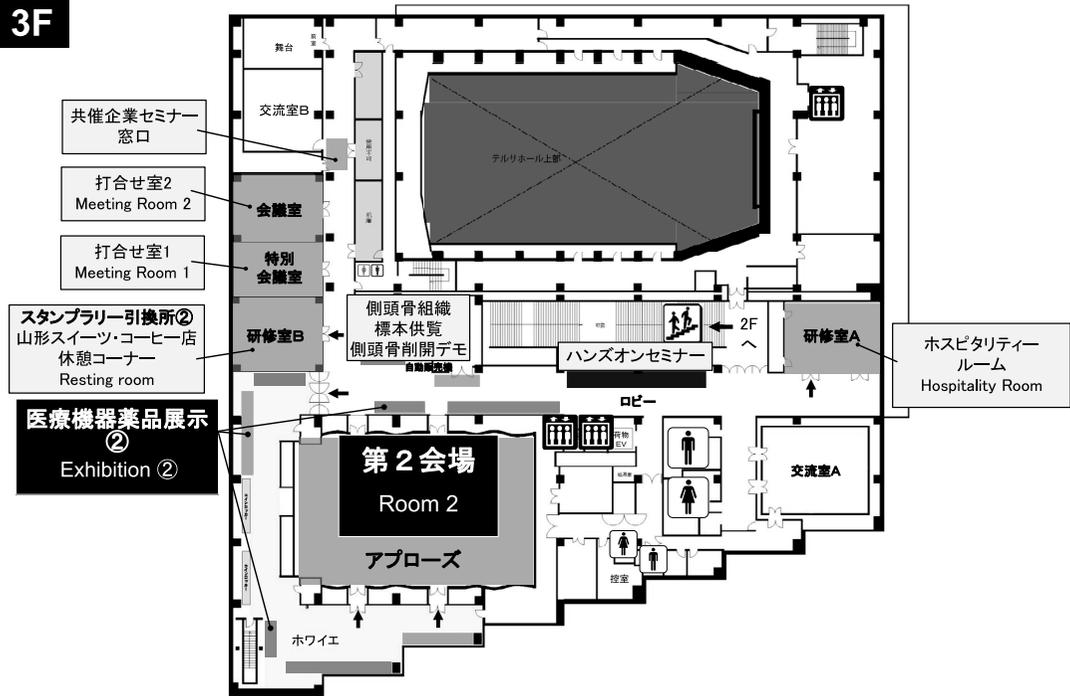
1F



2F



3F

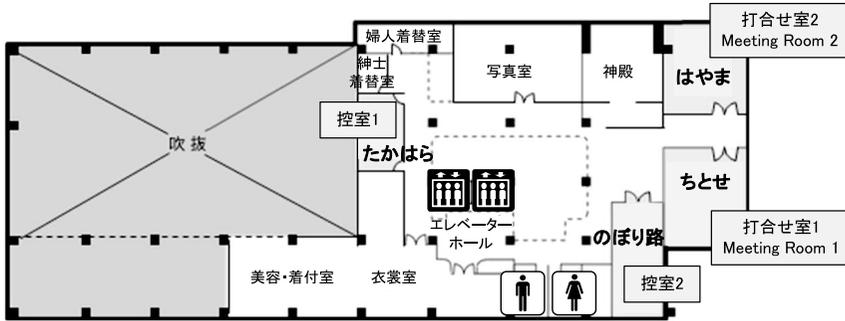


参加受付・ICカード単位登録・セミナー整理券は山形テルサのみです。ご注意ください。

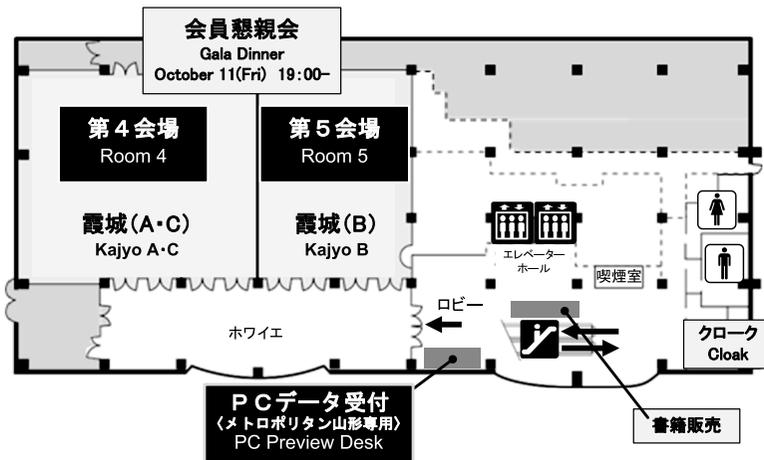
ホテルメトロポリタン山形
HOTEL METROPOLITAN YAMAGATA

5F

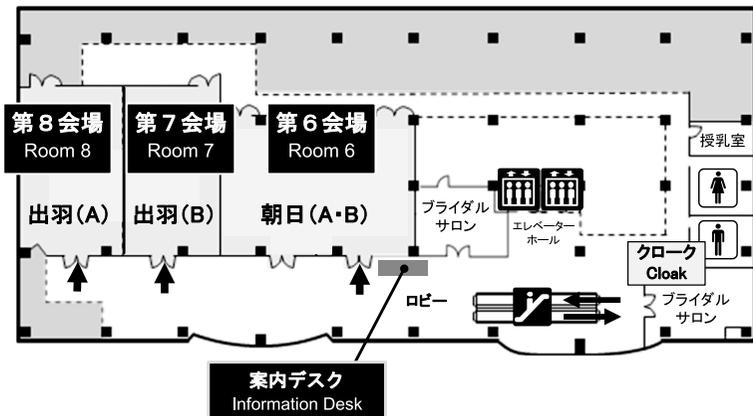
参加受付・ICカード単位登録・セミナー整理券は
ホテルにございません。山形テルサをご利用ください。



4F



3F



ご 案 内

参加者の皆様へ

1. 受付について

1) 受付時間

日にち	参加登録受付時間	日本耳鼻咽喉科学会会員カード (ICカード) 受付時間
10月10日(木)	9:00～17:00	9:00～17:00
10月11日(金)	7:30～17:00	7:30～17:00
10月12日(土)	7:30～14:00	7:30～14:00

2) 受付場所

山形テルサ 1階 エントランスホール (第1会場テルサホール前)

3) 参加費

18,000円です。ネームカードに、所属・氏名をご記入の上、必ずご着用ください。

※プログラム集を無料で配布しております。

4) 新医師臨床研修中の初期臨床研修医および医学部学生の皆さまへ

①参加費は無料です。

②参加希望の方は、事前に大会HPより申込用紙をダウンロードして必要事項を記入の上、医学部耳鼻咽喉科教授、耳鼻咽喉科研修指導責任者を通じて、運営事務局までメールでお申込みください。

5) 新入会費・年会費

総合受付内の日本耳科学会事務局受付にてお支払いください。

2. クローク

1) 場所：山形テルサ 1階テルサホール (第1会場)・ホワイエ

ホテルメトロポリタン山形 4階ロビー

※お預けになられた荷物は、当日中にお引き取りください。

3. 共催セミナー・セミナー整理券

1) ランチョンセミナー

① 10月10日(木) 13:15～14:05

② 10月11日(金) 12:50～13:40

③ 10月12日(土) 11:45～12:35

2) セミナー整理券を配布いたします。

①配布場所：山形テルサ1階・総合受付付近

②配布時間：10月10日(木) 9:00～12:15

10月11日(金) 7:15～11:50

10月12日(土) 7:15～10:45

配布時間の終了時点で残ってる整理券は、それぞれのランチョンセミナー会場前で配布いたします。

- 3) スイーツセミナー 10月11日(金) 15:45～16:45 山形テルサ・第2会場
山形の和菓子をご用意しております。整理券の配布はありませんので、当日直接会場にお越しください。

4. 学会参加による単位取得について

日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医制度による「関連する学会」(2単位)に認定されています。

〈新登録システムについて〉

2019年より学会参加登録と専門医講習受講登録に会員情報新システムが導入されました。

2018年11月末に全日耳鼻会員に郵送されました「日本耳鼻咽喉科学会会員カード(ICカード)」を持参してください。

「日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医証(旧カード)」は使用できません。これらの登録は専門医が対象です。



1) 「ICカード」による登録が必要な時

- ①学会参加登録：学会会場に来場時(山形テルサ・総合受付付近で行います)。
- ②専門医講習受講登録：耳鼻咽喉科専門医領域講習，専門医共通講習の受講の入退室時
※なお，②の登録のためには①の登録が必須です。

2) 「ICカード」の使用方法

ご自身のICカードをカードリーダーの上に置くと、コンピュータ画面に所有者名が表示されますので、必ず画面を確認してからカードを取ってください。

3) 「ICカード」を忘れた時

仮カードを発行いたします(有料，デポジット制)ので、仮ICカード発行窓口(総合受付)までお越しください。

〈耳鼻咽喉科領域講習対象のセッション〉

- 10月10日(木) 教育セミナー1・2
- 10月11日(金) 教育セミナー3・4・5・6
- 10月12日(土) 教育セミナー7・8

〈専門医共通講習対象のセッション〉

- 10月11日(金) 日常診療での医療倫理(倫理)
- 10月12日(土) 宿主病原体相互関係より考える感染症治療(感染)

5. 関連会議のご案内

1) 理事会

10月10日(木) 7時00分～ ホテルメトロポリタン山形3階・「出羽」(第8会場)

2) 代議員総会

10月10日(木) 8時00分～ ホテルメトロポリタン山形4階・「霞城」(第4会場)

6. 会員懇親会

10月11日(金) 19時00分～ ホテルメトロポリタン山形4階・「霞城」(第4・5会場)
※参加費は無料です。

7. 医療機器・薬品展示会, 書籍販売, ドリンクサービス

1) 医療機器・薬品展示会

場所: ①山形テルサ1階「大会議室」, ②山形テルサ3階ロビーの2箇所で実施しております。

日時: 10月10日(木) 9:30～17:00

10月11日(金) 8:00～17:00

10月12日(土) 8:00～13:00

2) 書籍販売

①山形テルサ1階 テルサホール(第1会場) ホワイエ

②ホテルメトロポリタン山形4階 エスカレーター脇

3) ドリンクサービス

①山形テルサ1階「大会議室」(医療機器・薬品展示会①場内)

8. スタンプラリー

1) 会期中に機器・薬品展示会を回り, シールを集めると珈琲・スイーツ引換券やスピードくじに参加できます。スピードくじは10日(木)・11日(金)のみ実施します。

2) シール3枚で珈琲・スイーツ引換券と交換します。1階, 3階の引換所にお越しく下さい。1日あたり引換券2枚を上限とします。

珈琲・スイーツ店舗の日時

10月10日(木)・11日(金) 10:00～17:00

10月12日(土) 10:00～14:00

※各店舗とも数に限りがありますのでご了承ください。

3) シール6枚(1階展示会場①, 3階展示会場②)でそれぞれ3枚ずつで豪華景品が当たるスピードくじに参加できます。1階引換所にお越しく下さい。くじには1日1回参加可能です。

9. ハンズオンセミナー(アドバンストコース, ベーシックコース)

1) 場所: 山形テルサ3階ロビー

2) 日時: ①10月10日(木) 10:30～12:00 ②14:30～16:00 ③16:15～17:45

④10月11日(金) 9:00～10:30 ⑤10:45～12:15 ⑥14:00～15:30

⑦10月11日(金) 15:45～17:15

⑧10月12日(土) 8:00～9:30 ⑨9:45～11:15

※事前申込制, 先着順となります。学会ホームページをご参照の上, お申し込みください。

10. 側頭骨削開デモンストレーション

1) 場所: 山形テルサ3階ロビー

2) 日時: ①10月10日(木) 11:00～11:45 ②12:15～13:00 ③16:00～16:45

④10月11日(金) 9:00～9:45 ⑤10:30～11:15 ⑥15:45～16:30

⑦10月12日(土) 8:00～8:45

※自由参加となります。詳細は学会ホームページをご参照ください。

11. ヒト・モルモット側頭骨組織インタラクティブ・レクチャーと組織標本自由観察

- 1) 場所：山形テルサ 3 階ロビー
- 2) 組織標本自由観察
 - ① 10 月 10 日（木） 11:00～12:30 ② 15:30～16:50（モルモット側頭骨標本観察も可能）
 - ③ 10 月 11 日（金） 11:30～12:30 ④ 15:15～16:00
- 3) 側頭骨組織インタラクティブ・レクチャー
10 月 11 日（金） 14:30～15:15（講師：高橋晴雄，鈴木聡明）

12. ハンズオンセミナー（Dr. BABA のメディカルイラストレーションセミナー）

- 1) 会場：第 6 会場（ホテルメトロポリタン山形 3 階「朝日」）
- 2) 日時：10 月 12 日（土） 13:00～15:00
- 3) 講師：馬場元毅（東埼玉総合病院附属清地クリニック 脳神経外科）
- 4) 受講料：5,000 円（色鉛筆などの画材費含む，終了後お持ち帰り頂けます）
※事前申込，定員制となります。学会ホームページをご参照の上，お申し込みください。

13. Breakfast サービス

朝食サービスとして，山ベーグル（山形の自然素材を使用した絶品ベーグルです）とつや姫のおにぎりをご用意しております。

日時：10 月 11 日（金）・12 日（土） 7:30～

場所：山形テルサ 1 階ホワイエ，ホテルメトロポリタン山形 4 階ロビー（おにぎりのみ）

※数に限りがございますが，是非この機会にご興味ください。

14. インターネット・Wi-Fi（無線 LAN）のご案内

- 1) 山形テルサ
 - ①山形テルサでは以下の 3 ヶ所をご利用いただけます。
 - a. 医療機器・薬品展示会①の場内（1 階「大会議室」）
 - b. 第 1 会場の付近（1 階「テルサホール」もしくは「ホールホワイエ」）
 - c. スタンプラリー引換所②（3 階「研修室 B」付近）
 - ② SSID：「FG_eventWi-Fi」 Password：「12345678」
- 2) メトロポリタン山形
 - ①メトロポリタン山形では以下の 3 ヶ所をご利用いただけます。
 - a. ホテル 3F・4F・5F のホワイエ
 - b. 第 4 会場の会場内（4 階「霞城 A・C」）
 - c. 第 5 会場の会場内（4 階「霞城 B」）
 - ②ホワイエ SSID：「metroy〇F」 Password：不要
第 4・5 会場 SSID：「otology29」 Password：不要

15. その他

- 1) 写真撮影・録音・録画
会場内では原則禁止とさせていただきます。撮影の希望者は運営事務局に事前申請ください。
- 2) 携帯電話・PHS
講演会場内では，電源をお切りいただくか，マナーモードへの設定をお願いいたします。

3) 質疑応答

質問・発言を希望される方は、あらかじめマイクの前で待機してください。

座長の指示に従い、所属・氏名を述べてからご発言ください。発言は簡潔にお願いします。

- 4) 会期中に開催している山形国際ドキュメンタリー映画祭（10月10日～17日）とのコラボレーション企画として、ジャパンプレミア上映への優待特典などがあります。詳細は当日会場でご確認ください。

16. 事務局

山形大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科

〒990-9585 山形市飯田西 2-2-2

TEL：023-628-5380 FAX：023-628-5382

E-mail：jika29@gakkai.co.jp

演者・司会・座長の皆様へ

1. 司会・座長の先生方へ

ご担当セッション開始 15 分前までに会場内の次座長席にご着席ください。定刻通り進行できますように時間厳守をお願いいたします。

2. 口演発表

1) 発表時間

- ① 「一般演題（口演）」「ヤングアワード」「初めての耳科学会」は 10 分（発表 7 分，質疑応答 3 分）です。
- ② 上記以外のセッションは，事前にお知らせした発表時間および司会の指示に従ってください。
- ③ 発表終了 1 分前に黄色ランプが点灯，終了時に赤ランプで合図いたします。時間を厳守してください。

2) 発表の開始時刻 30 分前までに，PC データ受付で発表データの確認を必ず済ませていただき，発表のセッション（群）の開始 15 分前までに会場前方の次演者席にご着席ください。

3) PC データ受付

①場所

山形テルサ（第 1～3 会場）：1 階テルサホール（第 1 会場）のホワイト
ホテルメトロポリタン山形（第 4～8 会場）：ホテル 4 階のロビー

②時間

日にち	データ受付時間
10 月 10 日（木）	9:00～17:30
10 月 11 日（金）	7:30～17:00
10 月 12 日（土）	7:30～13:30

※上記時間内であれば翌日のデータも受付いたします

4) 発表スライド・言語

海外演者がいるセッションによっては，発表スライドを英語・発表言語を任意にしております。事前にお知らせした情報をご確認ください。

3. 発表方法について

1) 発表はすべて PC プレゼンテーションで行います。

①発表に使用する PC は，全て画面のサイズを 16：9 に統一しております。

2) 発表者ツールは使用できません。

3) 会場には Windows 10 の PC をご用意しております。

4) 発表データは，Windows 版 PowerPoint2010，2013，2016，2019 で作成し，媒体（USB フラッシュメモリ等）に保存してご持参ください。

5) フォントは，文字化けを防ぐため，OS 標準フォントをご使用ください。

（MS ゴシック，MS P ゴシック，MS 明朝，MS P 明朝，Times New Roman，Arial など）

6) 発表データは USB メモリでお持ちください。CD，DVD 等につきましては受け付けできませんのでご注意ください。

7) PC データ受付で PC 技師がデータを受け取り，サーバーにコピーします。コピーしたデータ

はこちらで発表会場に転送します。なお、コピーしたデータは会期終了後、事務局にて責任をもって消去いたします。

4. 動画、音声を使用される方へ

- 1) 動画、音声を発表で使用される場合は、必ず PC 受付にてお申し出ください。
- 2) Windows Media Player12（標準コーデック）で再生可能なデータのみ受け付け可能です。
 - ①動画ファイルは WMV 形式を推奨いたします。PowerPoint の中で直接再生可能な状態にしてください。
- 3) 動画を含む発表データを USB メモリでお持ちいただく場合は、バックアップ用として必ずご自身の PC もご持参ください。
- 4) 動画に不具合が生じた場合、学会側は責任を負いかねますので予めご了承ください。

5. ノートパソコンをお持ち込みされる方へ

- 1) 会場のプロジェクターへは HDMI 端子での接続となります。
 - ① Macintosh や一部の Windows パソコンでは変換コネクタが必要となりますので、必ずご持参ください。外部出力のない機器もご使用出来ません。
 - ② D-sub15 ピン（ミニ）や Mini Display Port, USB-Type-C など HDMI 以外の接続はお受けできません。

HDMI



- 2) バッテリーのみでの駆動はトラブルの原因となる可能性がございますので、AC アダプターを必ずご持参ください。
- 3) スクリーンセーバーならびに省電力設定（Macintosh のホットコーナー）は予め解除してください。
- 4) PC データ受付にて動作確認後、パソコンを発表会場の左手前方の PC オペレーター席へお持ちください。
 - ①発表終了後、パソコンは発表会場の PC オペレーター席で返却いたしますので、忘れずにお持ち帰りください。
- 5) パソコンのトラブルにより映像の投影が不可能となっても、事務局では責任を負いかねます。必ずバックアップデータを USB メモリにてご持参ください。

第29回日本耳科学会総会・学術講演会

10月10日(木) 第1日目 山形テルサ・ホテルメトロポリタン山形

会場	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00
山形テルサ	第1会場 1F テルサホール			9:45~9:55 開会の挨拶	10:00~11:45 Theme Session 1 「INNOVATIONS IN OTOLGY」 TEES: Paradigm shift in ear surgery Moderator Mohamed Badr-El-Dine Chair 欠畑誠治				11:45~13:00 Theme Session 2 「AUDITORY IMPLANTS」 Pediatric, bilateral cochlear implant, bilateral perception, plasticity Moderator Blake C. Papsin Chair 内藤 泰		
	第2会場 3F アプローチ				10:00~11:00 教育セミナー1 「側頭骨手術解剖実習の基礎」 演者 平海晴一 (領)	11:05~12:05 ネクストジェネレーション セッション1 「AIが変える耳科学」 モデレーター 工 稔 松本 希	12:05~13:05 ネクストジェネレーション セッション2 「耳管治療新時代における耳管機能検査のNew Standard」 モデレーター 増田正次				
	第3会場 2F リハーサル室				10:00~11:00 第1群 「外耳・中耳基礎1」 O1-1~O1-6 座長 室伏利久 山本和央	11:00~11:50 第2群 「外耳・中耳基礎2」 O2-1~O2-5 座長 岩崎真一 角南貴司子	11:50~13:00 第3群 「画像・手術支援機器」 O3-1~O3-7 座長 春名真一 阿部靖弘				
ホテルメトロポリタン山形	第4会場 4F 霞城(A・C)					11:00~11:50 第4群 「聴覚障害1」 O4-1~O4-5 座長 鈴木秀明 田淵経司	11:50~12:40 第5群 「聴覚障害2」 O5-1~O5-5 座長 鈴木正志 曾根三千彦				
	第5会場 4F 霞城(B)				10:00~11:00 初めての耳科学会 セッション1 FG1-1~FG1-6 座長 黒野祐一 坂本達則	11:00~12:00 初めての耳科学会 セッション2 FG2-1~FG2-6 座長 兵頭政光 佐々木亮	12:00~13:00 初めての耳科学会 セッション3 FG3-1~FG3-6 座長 折館伸彦 片岡祐子				
	第6会場 3F 朝日(A・B)				10:00~11:00 第6群 「真珠腫1」 O6-1~O6-6 座長 福島典之 稲垣太郎	11:00~12:00 第7群 「真珠腫2」 O7-1~O7-6 座長 柿本章伸 内田真哉	12:00~13:00 第8群 「真珠腫3」 O8-1~O8-6 座長 田中康広 小森正博				
	第7会場 3F 出羽(B)				10:00~11:10 第9群 「聴覚障害3」 O9-1~O9-7 座長 川瀬哲明 内田育恵	11:10~12:00 第10群 「補聴器」 O10-1~O10-5 座長 仲野敦子 高橋真理子	12:00~12:40 第11群 「人工聴覚器」 O11-1~O11-4 座長 佐藤宏昭 松田圭二				
	第8会場 3F 出羽(A)				10:00~11:00 第12群 「症例1」 O12-1~O12-6 座長 西崎和則 竹内万彦	11:00~12:00 第13群 「症例2」 O13-1~O13-6 座長 鳴原俊太郎 鈴木幹男	12:00~13:00 第14群 「症例3」 O14-1~O14-6 座長 武田憲昭 山下 拓				
山形テルサ	展示会場① 1F 大会議室			9:30~17:00	医療機器・薬品展示会 (14:05~14:25 スタンブラーボーナスタイム)						
	展示会場② ハンスオン会場 3F ロビー				10:30~12:00 ハンスオンセミナー①	11:00~11:45 聴覚補聴器デモンストレーション	11:00~12:30 組織標本自由観察	12:15~13:00 聴覚補聴器デモンストレーション			

🗳️: 参加者が『いいね!』ボタンを押して投票

🗨️: 耳鼻咽喉科領域講習対象

🗨️: パネルディスカッション(テーマセッション)

13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00
13:15 ~ 14:05 ランチョンセミナー1 「ヘッドアップサージャリーによる耳科手術 ~4K 3Dイメージングがもたらす新たな可能性~」 司会 小島博己 演者 橋本寛伸 堀 剛 共催: オリンパス㈱ 4K・3D	14:25 ~ 15:40 Theme Session 3 「INNOVATIONS IN OTOTOLOGY」 Role of AI, AR and Robot in otology Moderator George B. Wanna Chair 松本 希	15:40 ~ 16:50 Theme Session 4 「EDUCATION」 Learning tools for otologic surgery; YouTube, apps, artificial temporal-bone models Moderator Rudolf Probst Chair 香取幸夫	17:05 ~ 17:30 特別講演1 「中耳針状鏡」 管見 司会 村上信五 演者 野村謙也	17:30 ~ 17:55 会長講演 「Ear Surgery - Now and in the Future」 司会 村上信五 演者 久堀誠治	18:00 ~ 19:00 特別講演2 「Original から Standardへ」 司会 小松崎篤 演者 奥山清行								
13:15 ~ 14:05 ランチョンセミナー2 「移動式コーンビームCTの耳科手術中における活用」 司会 東野哲也 演者 山本典生 共催: 株式会社製作所	14:30 ~ 15:30 教育セミナー2 「顔面神経減荷術」 演者 稲垣 彰 🗨️	15:40 ~ 16:40 ネクストジェネレーションセッション3 「内視鏡下耳科手術 -安全で確実な耳科手術の追求-」 モデレーター 山内大輔											
	14:30 ~ 15:30 第15群 「感染1」 O15-1 ~ O15-6 座長 折田頼尚 高橋邦行	15:40 ~ 16:50 第16群 「感染2」 O16-1 ~ O16-7 座長 川内秀之 深美 悟											
13:15 ~ 14:05 ランチョンセミナー3 「Cochlear Implantation: Pushing the Envelope」 司会 宇佐美真一 演者 George B.Wanna 共催: メドエルジャパン㈱	14:30 ~ 15:30 🗳️ Young Award セッション1 「基礎」 YA1-1 ~ YA1-6 座長 岩崎真一 福田智美	15:40 ~ 16:40 Theme Session 5 「INNOVATIONS IN OTOTOLOGY」 Hears-up Surgery, Ergonomics in ear surgery Moderator Daniel J. Lee Chair 水足邦雄 共催: カールストフアウデスコピージャパン㈱											
13:15 ~ 14:05 ランチョンセミナー4 「エキスパートに学ぶ手術用顕微鏡を用いた耳科手術」 司会 阪上雅史 演者 大石直樹 瀬浅 有 共催: カールツァイスメディテック㈱	14:30 ~ 15:30 🗳️ 初めての耳科学会セッション4 FG4-1 ~ FG4-6 座長 梅野博仁 小田桐恭子	15:40 ~ 16:40 🗳️ 初めての耳科学会セッション5 FG5-1 ~ FG5-6 座長 橋本 省 大谷真喜子											
13:15 ~ 14:05 ランチョンセミナー5 「難治性中耳炎治療の工夫と課題 -1型アレルギーとの関連も含めて-」 司会 藤枝重治 演者 山田武千代 共催: グラクソ・スミスクライン㈱	14:30 ~ 15:30 第17群 「真珠腫4」 O17-1 ~ O17-6 座長 高木 明 小森 学	15:40 ~ 16:40 第18群 「真珠腫5」 O18-1 ~ O18-6 座長 比野平恭之 山田啓之											
	14:30 ~ 15:30 第19群 「人工内耳1」 O19-1 ~ O19-6 座長 岩崎 聡 南修司郎	15:40 ~ 16:40 第20群 「人工内耳2」 O20-1 ~ O20-6 座長 河野 淳 櫻尾明憲											
	14:30 ~ 15:40 第21群 「前庭1」 O21-1 ~ O21-7 座長 肥塚 泉 伊藤 健	15:40 ~ 16:40 第22群 「前庭2」 O22-1 ~ O22-6 座長 山中敏彰 大塚康司											
医療機器・薬品展示会 (14:05 ~ 14:25 スタンプラリーボーナスタイム)													
	14:30 ~ 16:00 ハンズオンセミナー②	16:15 ~ 17:45 ハンズオンセミナー③											
		16:00 ~ 16:45 視察者招待デモンストラーション											
		15:30 ~ 16:50 組織標本自由観察(モルモット側頭骨標本観察も可能)											

第29回日本耳科学会総会・学術講演会

10月11日(金) 第2日目 山形テルサ・ホテルメトロポリタン山形

会場	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	
山形テルサ	第1会場 1F テルサホール	8:00~9:30 Theme Session 6 [SKULL BASE TUMORS] Treatment principles of vestibular schwannomas -Scientific evidence applied to the individual patients- Moderator Per Caye-Thomassen Chair 宮崎日出海		9:30~10:45 Theme Session 8 [MIDDLE EAR SURGERY] Ossiculoplasty based on biomechanics Moderator Alexander Huber Chair 羽藤直人		11:10~12:25 Theme Session 9 [MIDDLE EAR SURGERY] Stapes surgery for otosclerosis: scientific background and clinical results Moderator Robert Vincent Chair 小島博己		12:50~13:40 ランチョンセミナー6 [The Electro-Neural Interface: Perimodiolar Electrodes in Cochlear Implantation] 司会 伊藤壽一 演者 Blake C. Papsin 共催: 株式会社ココレア					
	第2会場 3F アプローチ	8:00~9:00 教育セミナー3 [耳小骨形成 (アブミ骨手術を含む)] 演者 羽藤直人 (領)		9:30~10:30 教育セミナー4 [人工聴覚器手術] 演者 野口佳裕 (領)		10:30~11:30 ネクストジェネレーション セッション5 [側頭骨頭蓋底外科手術 の再発展を目指して] モデレーター 大石直樹		11:35~12:35 教育セミナー5 [上半規管裂隙症候群 内耳瘻孔、外リンパ瘻の手術] 演者 山内大輔 (領)		12:50~13:40 ランチョンセミナー7 [スタンダードな治療へ適化する 鼓膜再生療法 鼓膜再生療法 の使用上の注意点とそのコツ] 司会 高橋晴雄 演者 金丸真一 共催: ノーベルファーマ株式会社			
	第3会場 2F リハーサル室	8:00~9:00 第23群 [小児難聴] O23-1~O23-6 座長 小林一女 坂田俊文		9:30~10:30 第24群 [腫瘍1] O24-1~O24-6 座長 猪原秀典 朝藤孝宏		10:30~11:30 第25群 [腫瘍2] O25-1~O25-6 座長 角田篤信 小川恭生		11:35~12:35 第26群 [腫瘍3] O26-1~O26-6 座長 吉崎智一 堤 剛					
ホテルメトロポリタン山形	第4会場 4F 霞城(A・C)	8:00~9:15 Theme Session 7 [INNER EAR/ MIDDLE EAR REGENERATION] From bench to bedside Moderator Joseph Santos-Sacchi Chair 金丸真一		9:30~10:30 ネクストジェネレーション セッション4 [内耳領域の 再生医療研究・温故知新 -OriginalからStandardへ-] モデレーター 大島一男		10:30~11:30 Young Award セッション2 [臨床] YA2-1~YA2-6 座長 大森孝一 神崎 晶		11:35~12:35 ネクストジェネレーション セッション6 [これからの人工内耳医療 -日本から世界への発信-] モデレーター 山本典生		12:50~13:40 ランチョンセミナー8 [VITOM™ 3D外視鏡を用いた Heads-up Ear Surgery] 司会 池田哲郎 演者 養田涼生 共催: カルストルプ インドコペー・ジャパン株式会社 (3D)			
	第5会場 4F 霞城(B)	8:00~9:00 初めての耳科学会 セッション6 FG6-1~FG6-6 座長 岩井 大 金沢弘美		9:30~10:30 初めての耳科学会 セッション7 FG7-1~FG7-6 座長 清水猛史 平海晴一		10:30~11:30 初めての耳科学会 セッション8 FG8-1~FG8-6 座長 坂田英明 高橋 辰		11:35~12:35 初めての耳科学会 セッション9 FG9-1~FG9-6 座長 志賀清人 塚原清彰		12:50~13:40 ランチョンセミナー9 [側頭骨手術における Stealth Station ENT™ の 「九大式」使い切り] 司会 飯野ゆき子 演者 松本 希 共催: 日本メトロニック株式会社			
	第6会場 3F 朝日(A・B)	8:00~9:00 第27群 [外耳] O27-1~O27-6 座長 河田了 室野重之		9:30~10:30 第28群 [中耳手術1] O28-1~O28-6 座長 小林泰輔 谷口雄一郎		10:30~11:30 第29群 [中耳手術2] O29-1~O29-6 座長 西池季隆 宮下武憲		11:35~12:25 第30群 [中耳手術3] O30-1~O30-5 座長 長谷川賢作 武田英彦		12:50~13:40 ランチョンセミナー10 [Relationship Between Cochlear Implant Electrode Positioning and Hearing Outcomes] 司会 土井晴美 演者 Alejandro Rivas 共催: 日本光電工業株式会社			
	第7会場 3F 出羽(B)	8:00~9:00 第31群 [人工内耳3] O31-1~O31-6 座長 吉田忠雄 白井杏湖		9:30~10:30 第32群 [鼓膜] O32-1~O32-6 座長 白馬伸洋 今泉光雅		10:30~11:30 第33群 [内耳(遺伝子)1] O33-1~O33-6 座長 石川浩太郎 高橋優宏		11:35~12:35 第34群 [内耳(遺伝子)2] O34-1~O34-6 座長 松原 篤 松永達雄					
	第8会場 3F 出羽(A)	8:00~9:00 第35群 [顔面神経1] O35-1~O35-6 座長 萩森伸一 濱田昌史		9:30~10:40 第36群 [顔面神経2] O36-1~O36-7 座長 松代直樹 高野賢一		10:40~11:30 第37群 [耳管] O37-1~O37-5 座長 伊勢桃子 池田特吉							
	山形テルサ	展示会場① 1F 大会議室	8:00~17:00 医療機器・薬品展示会 (13:40~14:00 スタンブラリーボーナスタイム)										
		展示会場② ハンズオン会場 3F ロビー	9:00~10:30 ハンズオンセミナー④		9:00~9:45 側頭骨腫瘍デモンストレーション		10:45~12:15 ハンズオンセミナー⑤		10:30~11:15 側頭骨腫瘍デモンストレーション		11:30~12:30 組織標本自由観察		

(共): 専門医共通講習対象

: 参加者が『いいね!』ボタンを押して投票

(領): 耳鼻咽喉科領域講習対象

: パネルディスカッション(テーマセッション)

14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00
14:00 ~ 15:15 Theme Session10 [AUDITORY IMPLANTS] Challenges in cochlear implant (expanding indications, hearing preservation) Moderator 宇佐美真一 Chair Alejandro Rivas		15:20 ~ 16:35 Theme Session11 [SUPERIOR SEMICIRCULAR CANAL DEHISCENCE SYNDROME] New treatment modality/Insights into cochlear mechanics and physiology Moderator Stephen P. Cass Chair 山下裕司		16:50 ~ 17:15 受賞講演 司会 村上信五 羽藤直人 学会賞 藤岡正人 奨励賞 李 信英		17:15 ~ 17:40 特別講演4 How to prepare the age-related hearing loss in the aging society of Japan-Korea? 司会 村上信五 演者 Sung-won Chae		17:45 ~ 18:45 共通講習 1 (倫理) [日常診療での医療倫理] 司会 大森孝一 演者 高橋晴雄 (共)				
14:00 ~ 14:30 特別講演3 [Listen up! The outer hair cell wiggle is shouting] 司会 山崎達也 演者 Joseph Santos-Sacchi	14:35 ~ 15:35 教育セミナー 6 [外耳道削除型 鼓室形成術] 演者 山本 裕 (領)		15:45 ~ 16:45 スイーツセミナー [6年間のプータン王国における耳科手術支援事業(SPIO承認を終えて)] 司会 小川 郁 演者 湯浅 涼 共催: 道: 上野耳科手術支援事業(SPIO承認)									
14:30 ~ 15:40 第 38 群 [聴神経腫瘍] O38-1 ~ O38-7 座長 伊藤真人 須納瀬弘												
14:30 ~ 15:30 ネクストジェネレーションセッション7 [難聴の Precision Medicine 一遺伝子診断から遺伝子治療へ] モデレーター 茂木英明		15:30 ~ 16:30 ネクストジェネレーションセッション8 [“新しい治療”を創り出す一産学官の“現場”の若手たち] モデレーター 藤岡正人		19:00 ~ 21:00 会員懇親会 ホテルメトロポリタン山形 4F [霞城]								
14:00 ~ 15:00 初めての耳科学会 セッション 10 FG10-1 ~ FG10-6 座長 星川広史 岡野高之												
14:30 ~ 15:30 第 39 群 [アブミ骨手術 1] O39-1 ~ O39-6 座長 植田広海 田邊牧人		15:40 ~ 16:40 第 40 群 [アブミ骨手術 2] O40-1 ~ O40-6 座長 奥野妙子 杉本寿史										
14:30 ~ 15:30 第 41 群 [内耳基礎(障害・保護)1] O41-1 ~ O41-6 座長 五島史行 菅原一真		15:40 ~ 16:40 第 42 群 [内耳基礎(障害・保護)2] O42-1 ~ O42-6 座長 北尻真一郎 稲垣 彰										
14:30 ~ 15:40 第 43 群 [奇形] O43-1 ~ O43-7 座長 鈴鹿有子 佐野 肇		15:40 ~ 16:50 第 44 群 [外リンパ瘻] O44-1 ~ O44-7 座長 堀井 新 野村泰之										
医療機器・薬品展示会 (13:40 ~ 14:00 スタンプラリーボーナスタイム)												
14:00 ~ 15:30 ハンズオンセミナー⑥			15:45 ~ 17:15 ハンズオンセミナー⑦									
			15:45 ~ 16:30 聴神経腫瘍デモンストラーション									
14:30 ~ 15:15 聴神経腫瘍インタラクティブクイズ		15:15 ~ 16:00 組織標本自由観察										

第29回日本耳科学会総会・学術講演会

10月12日(土) 第3日目 山形テルサ・ホテルメトロポリタン山形

会場		8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30		
山形テルサ	第1会場 1F テルサホール	8:00~9:00 Theme Session12 [MIDDLE EAR SURGERY] Classification of cholesteatoma and surgical strategies Moderator Matthew Yung Chair 東野哲也		9:00~10:10 Theme Session13 [AUDITORY IMPLANTS] Middle ear implant and auditory brainstem implant Moderator Joachim Müller Chair 土井勝美		10:15~11:30 Theme Session14 [MENIER DISEASE] MRI for hydrops/Treatment modality Moderator Brandon Isaacson Chair 北原 礼		11:45~12:35 ランチョンセミナー11 [メディカルイラストレーション講座~伝わる手術記録~] 司会 小川 郁 演者 馬場元毅 コメンテーター 二井一則 Daniele Marchioni 共催: マキチ工業					
	第2会場 3F アプローチ	8:00~9:00 ネクストジェネレーションセッション9 [内リンパ水腫画像検査—日本のOriginalから世界のStandard、そして新たな展開へ—] モデレーター 今井貴夫		9:00~10:00 教育セミナー7 「TEES」 演者 伊藤 史		10:15~11:15 教育セミナー8 「外耳道後壁保存型 鼓室形成術」 演者 我那覇章		11:45~12:35 ランチョンセミナー12 [薬物性(AMR)アクションプランに基づく急性中耳炎治療] 司会 村上信五 演者 保富宗城 共催: 富士フィルム 富山化学株					
	第3会場 2F リハーサル室												
ホテルメトロポリタン山形	第4会場 4F 霞城(A・C)	8:00~9:00 ネクストジェネレーションセッション10 [補聴器および人工聴覚器の適応の考え方のコンセンサス] モデレーター 新田清一		9:00~10:15 外来処置 パネルディスカッション 「術後の運命は処置で変えられるか—術前後の処置とそのキーポイント—」 司会 細田泰男		10:15~11:30 外来手術 パネルディスカッション 「耳科領域における 外来手術の適応と限界」 司会 湯浅 有		11:45~12:35 ランチョンセミナー13 [メニエール病の段階的治療—中耳加圧装置による中耳加圧治療を中心に—] 司会 武田憲昭 演者 將精日出夫 共催: 第一医科株					
	第5会場 4F 霞城(B)	8:00~8:50 第45群 「中耳手術4」 O45-1~O45-5 座長 野中 学 太田有美		8:50~9:40 第46群 「中耳手術5」 O46-1~O46-5 座長 小川 洋 物部寛子		9:50~10:40 第47群 「難治性中耳炎3」 O47-1~O47-5 座長 日高浩史 森田由香		11:45~12:35 ランチョンセミナー14 [難治性中耳炎の新展開] 司会 原淵保明 演者 森田由香 吉田尚弘 共催: 大鵬薬品工業株					
	第6会場 3F 朝日(A・B)	8:00~8:40 第48群 [難治性中耳炎1] O48-1~O48-4 座長 林 達哉 松延 毅		8:40~9:30 第49群 [難治性中耳炎2] O49-1~O49-5 座長 太田伸男 岡野光博		9:30~10:30 海外勤務セッション [My story as a Japanese ENT surgeon in the US medical society] 司会 池田勝久 演者 石山 明 牧嶋知子		10:30~11:30 英語論文 ワークショップ 司会 竹野幸夫 講師 Ron Read 共催: 英文校正エナゴ					
	第7会場 3F 出羽(B)				9:10~10:30 用語委員会報告		10:30~11:40 国内学術委員会セッションI [耳科手術に関わるQOL評価WG報告] [CI2004の標準化と人工聴覚器成績評価検査検討WG報告] [薬剤性難聴WG報告]						
第8会場 3F 出羽(A)	8:00~9:00 第50群 「内耳基礎(機能・再生)1」 O50-1~O50-6 座長 中川隆之 養田涼生		9:00~10:00 第51群 「内耳基礎(機能・再生)2」 O51-1~O51-6 座長 假谷 伸 大島一男										
山形テルサ	展示会場① 1F 大会議室	8:00~13:00 医療機器・薬品展示会											
	展示会場② ハンズオン会場 3F ロビー	8:00~9:30 ハンズオンセミナー⑧				9:45~11:15 ハンズオンセミナー⑨							
	8:00~8:45 聴覚補聴デモンストレーション												

—— 特別講演 1 ——

第 1 会場 (17:05 ~ 17:30)

第 1 日目 10 月 10 日 (木)

中耳針状鏡管見

司会：村上 信五 (名古屋市立東部医療センター)

演者：野村 恭也 (東京大学名誉教授/昭和大学)



村上 信五



野村 恭也

—— 特別講演 2 ——

第 1 会場 (18:00 ~ 19:00)

第 1 日目 10月10日 (木)

Original から Standard へ

司会：小松崎 篤 (東京医科歯科大学名誉教授)

演者：奥山 清行 (工業デザイナー / KEN OKUYAMA DESIGN 代表 /

イタリア ピニンファリーナ社 元デザインディレクター)



小松崎 篤



奥山 清行

奥山 清行

工業デザイナー / KEN OKUYAMA DESIGN 代表

1959年山形市生まれ。

ゼネラルモーターズ社 (米) チーフデザイナー, ポルシェ社 (独) シニアデザイナー, ピニンファリーナ社 (伊) デザインディレクター, アートセンターカレッジオブデザイン (米) 工業デザイン学部長を歴任。フェラーリ・エンツォ, マセラティ・クアトロポルテなどの自動車, ドゥカティなどのオートバイ, 鉄道, 船舶, 建築, ロボット, テーマパーク等, 数多くのデザインを手がける。

2007年より KEN OKUYAMA DESIGN 代表として, 企業コンサルティング, トランスイート四季島, 新幹線をはじめとする JR 東日本の旅客鉄道, ヤンマー全製品のデザイン, KEN OKUYAMA ブランド製品の開発から販売までを行う。

2013年 ヤンマーホールディングス株式会社取締役, 2019年 Osaka Metro Group チーフデザインオフィサーに就任。

2015年 ミラノ国際博覧会 日本館 基本計画策定委員会委員, 2013年-2016年 有田焼創業400年事業「ARITA 400project」プロデューサー, ものづくり日本大賞審査委員, 環境未来都市構想有識者検討会委員, レッドドットデザインアワード (独) 審査員を務める。

滋慶学園 COM グループ名誉学校長, 山形大学工学部客員教授, 金沢美術工芸大学名誉客員教授, 大阪工業大学客員教授, アートセンターカレッジオブデザイン (米国) 客員教授, 『フェラーリと鉄瓶』(PHP 出版社), 『伝統の逆襲』(祥伝社), 『人生を決めた15分創造の1/10000』(KEN OKUYAMA DESIGN) など著作や, 講演活動も行う。

—— 特別講演 3 ——

第 2 会場 (14:00 ~ 14:30)

第 2 日目 10 月 11 日 (金)

Listen up! The outer hair cell wiggle is shouting

司会：山嵜 達也 (東京大学)

Tatsuya Yamasoba (The University of Tokyo)

演者：Joseph Santos-Sacchi (Yale University School of Medicine, USA)



Joseph
Santos-Sacchi

—— 特別講演 4 ——

第 1 会場 (17:15 ~ 17:40)

第 2 日目 10 月 11 日 (金)

How to prepare the age-related hearing loss in the aging society of Japan-Korea?

司会：村上 信五 (名古屋市立東部医療センター)

Shingo Murakami (Nagoya City East Medical Center)

演者：Sung-won Chae (Korea University School of Medicine, Guro Hospital, Korea)



Shingo
Murakami



Sung-won
Chae

— Theme Session 1 —

INNOVATIONS IN OTOLOGY

TEES: Paradigm shift in ear surgery

第1会場 (10:00 ~ 11:45)

第1日目 10月10日 (木)

Moderator : Mohamed Badr-El-Dine (Faculty of Medicine, Alexandria University, Egypt)

Chair : 欠畑 誠治 (山形大学)

Seiji Kakehata (Yamagata University)

TM1-1/Keynote. The role of endoscopy in otologic surgery: from history to new perspectives of an innovative technique

Speaker : Livio Presutti (University Hospital of Modena, Italy)

TM1-2. The use of different angled-endoscopes in lateral skull base pathologies

Speaker : Daniele Marchioni (University of Verona, Italy)

TM1-3. What should we do to face challenges of paradigm shift in ear surgery?

Speaker : Yong Cui (Guangdong Provincial People's Hospital, China)

TM1-4. TEES in children: Is it really a paradigm shift?

Speaker : Adrian James (University of Toronto, Canada)

TM1-5. Changing trends. Getting more accustomed to the TEES

Speaker : Jong Woo Chung (Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine, Korea)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Mohamed Badr-El-Dine (Faculty of Medicine, Alexandria University, Egypt)

Chair : 欠畑 誠治 (山形大学)

Paradigm is a widely accepted belief or concept. To achieve a paradigm shift, it should be changed the same way it was created, i.e. by repetition of information. Currently we are observing a paradigm shift that is revolutionizing the way medical care is provided in the field of otology. The challenge is what should we do when faced with such paradigm shift? Open our mind and tolerate changes, embrace new ideas and concepts, experience new instrumentations and technologies, and evaluate short and long terms outcome are the main-stays in such situation.

TEES have proved significant advantages over classic microscopic ear surgery. Using EES, surgeon can complete work exclusively via transcanal approach and avoid unnecessary dissection only for the sake of visualization, resulting in functional ear surgery and better control over the pathology. Progressive endoscopic technological and optical innovations have brought minimally invasive TEES to the forefront in the last decade. However, we are still in the process of anticipating future trends in ear surgery. With the increased development of technology, refinement of surgical techniques, and conduction of short and long-term prospective studies, EES will likely be incorporated into widespread practice in otology and a paradigm shift may occur in the near-future.

(Mohamed Badr-El-Dine)

微細な構造を可視化できる手術用顕微鏡の登場が、耳科手術の概念を根本的に変える最初のパラダイムシフトを引き起こしたのは1950年代である。顕微鏡により病変を明視・拡大視することで、確実に病変を取り除くだけでなく、中耳機能を温存し改善する手術が可能となった。「命を守るための手術」から、「命と機能を守る手術」への大転換が起きた。

第2のパラダイムシフトを引き起こしたのが、広角な視野を持ち、対象への接近・拡大が可能で、死角の少ない手術支援機器、内視鏡の登場である。さらに高精細ビデオカメラシステムと組み合わせることにより、人間の「眼」を超える「目」を手に入れた。外耳道の中耳や内耳へのアクセスルートとして再発見した経外耳道的内視鏡下耳科手術 (TEES) により、低侵襲な機能的耳科手術を安全確実に行うこと可能となった。

このセッションでは、TEESの現況とその最先端について各国の Leading surgeon に紹介してもらい、これからの耳科手術について語り合う。

(欠畑 誠治)



Mohamed
Badr-El-Dine



Seiji
Kakehata



Livio
Presutti



Daniele
Marchioni



Yong Cui



Adrian
James



Jong Woo
Chung

— Theme Session 2 —

AUDITORY IMPLANTS

Pediatric, bilateral cochlear implant, bilateral perception, plasticity

第1会場 (11:45 ~ 13:00)

第1日目 10月10日 (木)

Moderator : Blake C. Papsin (Hospital for Sick Children, Canada)

Chair : 内藤 泰 (神戸市立医療センター中央市民病院)

Yasushi Naito (Kobe City Medical Center General Hospital)

Keynote. Neuroplasticity and Bilateral Cochlear Implantation

Speaker : Blake C. Papsin (Hospital for Sick Children, Canada)

Panelist : 樫尾 明憲 (東京大学)

Akinori Kashio (The University of Tokyo)

Panelist : Joachim Müller (University of Munich, Germany)

Panelist : 内藤 泰 (神戸市立医療センター中央市民病院)

Yasushi Naito (Kobe City Medical Center General Hospital)

Panelist : 吉村 豪兼 (信州大学)

Hidekane Yoshimura (Shinshu University)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Blake C. Papsin (Hospital for Sick Children, Canada)

Chair : 内藤 泰 (神戸市立医療センター中央市民病院)

The intention of this session is that the attendees along with the panelists are given the material required to explore the documented benefits of bilateral cochlear implantation. Next we will strive to understand the factors which most greatly affect and predict outcome. To do this we will present material that allows the attendees to consider for example both the positive effect of bilateral implantation on language and socialization as well as the negative effects on balance and residual hearing. Importantly, the obstacles preventing early bilateral implantation will be debated and most importantly, thought and guidance offered regard when bilateral implantation is not indicated.

(Blake C. Papsin)

本邦の小児人工内耳手術は1990年代前半に始まり、その成績の蓄積に伴い、低年齢手術と両側人工内耳装用の有用性が確認されてきた。さらに2014年の小児人工内耳適応基準改定で「両耳聴実現のために両耳装用を否定しない」とされたことから両側同時手術も定着しつつある。このテーマセッションでは難聴小児の聴覚、音声言語発達に両側人工内耳がどのように貢献するかを概括するとともに、逆にこのような臨床知見から小児の聴覚発達に関して何が新しく明らかになったのかを考える。本セッションはトロント大学のPapsin教授が小児人工内耳の臨床成績と生理学的知見について基調講演を行い、次いでパネリストが各々の施設における人工内耳プログラムの概要と両側人工内耳に関する考え方を述べる。総合ディスカッションでは両側人工内耳の利点だけでなく、両側人工内耳が勧められない状況、両側人工内耳の障害となる要因、逐次手術の適否についても議論を深める。

(内藤 泰)



Blake C.
Papsin



Yasushi
Naito



Akinori
Kashio



Joachim
Müller



Hidekane
Yoshimura

— Theme Session 3 —

INNOVATIONS IN OTOLOGY

Role of AI, AR and Robot in otology

第1会場 (14:25 ~ 15:40)

第1日目 10月10日(木)

Moderator : George B. Wanna (New York Eye and Ear and Beth Israel of Mount Sinai,
USA)

Chair : 松本 希 (九州大学)

Nozomu Matsumoto (Kyushu University)

**Keynote. The Use of Mixed Reality and the Extracorporeal Video Microscope
“Exoscope” in Otology and Skull Base Surgery**

Speaker : George B. Wanna (New York Eye and Ear and Beth Israel of Mount Sinai,
USA)

TM3-1. Robots in Otologic Surgery

Speaker : Alejandro Rivas (Vanderbilt University Medical Center, USA)

TM3-2. Application of the Artificial intelligence in otology field

Speaker : Jae Ho Chung (Hanyang University, Korea)

TM3-3. An augmented reality interface for transcanal endoscopic ear surgery

Speaker : 松本 希 (九州大学)

Nozomu Matsumoto (Kyushu University)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : George B. Wanna (New York Eye and Ear and Beth Israel of Mount Sinai, USA)

Chair : 松本 希 (九州大学)

The use of mixed reality, artificial intelligence, robotic surgery and machine learning in the field of otology is in its infancy; in fact, most current initiatives are in the research stage. However, some major centers from around the world have begun to use these technologies which appear to be feasible and reliable in the proper setting. The benefits of employing these technologies shows great promise but a good deal of work still needs to be completed before it is proven to have a positive impact on outcome. Nonetheless, it will be challenging to implement these innovative techniques in most hospitals.

We are very excited about the theme of this session and look forward to the presentations of our esteemed speakers who are joining us from major Otolaryngology centers all over the world. It is our hope that these sessions will provide an opportunity to examine different innovations in Otology thereby generating lively and stimulating discussions as we consider areas of limitation, improvement and future directions.

(George B. Wanna)

混合現実, 人工知能, ロボット手術, マシンラーニングは耳科学の分野ではまだ誕生したばかりであり, 事実これらを主導するほとんどの分野は研究段階である. しかし世界のいくつかの主要な研究施設においてこれらの技術を使い始めており, 適切に選ばれた環境下では使用可能で信頼性もあることが判明しつつある. これらの技術を使うことによるメリットは疑う余地がないが臨床結果に有益な結果をもたらすと証明するためにはまだ多くの努力が必要である. しかしながらこれら先進的な技術を導入することは多くの病院にとって困難だがやりがいのある作業になるであろう.

このテーマセッションでは世界の主要な耳鼻咽喉科の研究施設からの発表をいただけることになり大変興奮している. 異なる施設で行われたこれらのイノベーションを評価する機会を通して, この分野の限界, 改善案, 展望について活発で刺激的な議論が行われことを期待している.

(松本 希)



George B.
Wanna



Nozomu
Matsumoto



Alejandro
Rivas



Jae Ho
Chung

— Theme Session 4 —

EDUCATION

Learning tools for otologic surgery; YouTube, apps, artificial temporal-bone models

第1会場 (15:40 ~ 16:50)

第1日目 10月10日 (木)

Moderator : Rudolf Probst (University Hospital Zürich, Switzerland)

Chair : 香取 幸夫 (東北大学)

Yukio Katori (Tohoku University)

Keynote. Education in otologic surgery and the role of artificial temporal-bone models

Speaker : Rudolf Probst (University Hospital Zürich, Switzerland)

TM4-1. Online Videos for Endoscopic Ear Surgery Education

Speaker : Nirmal Patel (University of Sydney/Macquarie University, Australia)

TM4-2. Temporal bone Educational Apps about 3D Layer Anatomy and CT/MRI imaging

Speaker : 平賀 良彦 (慶應義塾大学/静岡赤十字病院)

Yoshihiko Hiraga (Keio University/Japanese Red Cross Shizuoka Hospital)

TM4-3. The situation of surgical training using donated cadavers in Japan

Speaker : 香取 幸夫 (東北大学)

Yukio Katori (Tohoku University)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Rudolf Probst (University Hospital Zürich, Switzerland)

Chair : 香取 幸夫 (東北大学)

Learning and training of temporal bone (TB) surgery is both key for safe and effective otologic surgery and demanding because of the highly complex structure of the TB. Traditional means included mainly textbooks and dissection of cadaveric human temporal bones. Given the limitations of these traditional tools, today's digital possibilities led to the creation of many new tools, including instructional videos available universally on YouTube, Apps dedicated to specific purposes such as combining anatomy and imaging, virtual reality dissections, or 3D-printing of TB models. This session intends to present, critically evaluate, and discuss a relevant selection of these many new teaching and learning tools.

(Rudolf Probst)

側頭骨手術はその取り扱う構造が精緻で、三次元的に複雑に配置していることから、解剖学的理解をすすめて手術手技を習得するまでに多くの経験を有する。それゆえ他領域の手術にも増して、実際の手術を実施しつつ経験を積む on-the-job training に従事する前に、教科書や診断画像 (CT, MRI), 手術動画, 精緻なモデル, ご遺体などを用いた実習, すなわち off-the-job training を実施することが、術者の育成ならびに患者の安全を担保する上で有用である。本セッションでは側頭骨手術の教育に関して経験の豊かな Rudolf Probst 教授が講演を行い、引き続きオンライン動画を用いた教育について Nirmal Patel 先生が、画像を用いた教育アプリケーションについて平賀良彦先生が、ご遺体を用いた手術研修について香取幸夫が解説を行う。セッションを通して側頭骨手術教育の発展の可能性にふれ、学会に参加される方々の施設において手術教育の一助となることを目的とする。

(香取 幸夫)



Rudolf
Probst



Yukio
Katori



Nirmal
Patel



Yoshihiko
Hiraga

—— **Theme Session 5** (スポンサードセミナー) ——

INNOVATIONS IN OTOTOLOGY

Heads-up Surgery: Ergonomics in ear surgery

第4会場 (15:40 ~ 16:40)

第1日目 10月10日 (木)

(共催: カールストルツ・エンドスコーピー・ジャパン株式会社)

Moderator: Daniel J. Lee (Harvard Medical School, USA)

Chair: 水足 邦雄 (防衛医科大学校)

Kunio Mizutari (National Defense Medical College)

Keynote. Surgeon safety: “Heads-up” endoscopic (EES) and exoscopic (ExES) approaches for ear and lateral skull base surgery

Speaker: Daniel J. Lee (Harvard Medical School, USA)

TM5-1. The Effects of Prolonged Microscopic Work on the Neck and Back

Speaker: Matthew Yung (Ipswich Hospital, United Kingdom)

TM5-2. Endoscopic/ Microscopic Ear Surgery: One-hand or two-hands?

Speaker: Michael CF Tong (The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Daniel J. Lee (Harvard Medical School, USA)

Chair : 水足 邦雄 (防衛医科大学校)

The introduction of the operating microscope in the early 20th century expanded our surgical reach into the temporal bone, providing both brilliant optics and two-handed dissection capabilities. Studies by Yung and others, however, suggest a high prevalence of chronic neck and back strain among microscopic surgeons, especially Otologists. We are now poised for significant disruption in our field with the growing adoption of “heads-up” surgical approaches that rely on endoscopes and exoscopes. Two-dimensional (2D) rigid endoscopes have wide-field high-resolution optics and are ideally suited for small-corridor approaches (endoscopic ear surgery or EES). Exoscopes (extracorporeal video microscopes) provide an expansive 3D view of the operative field without the bulkiness of traditional optics and are emerging as a viable alternative to the microscope or loupes for large-corridor surgical approaches (exoscopic ear surgery or ExES). A rapid increase in adoption of EES worldwide has been foundational to the introduction of exoscopes to otology and neurotology, with the first studies using ExES published in 2019. Potential advantages of ExES include superior ergonomics, compact size, and an equal visual experience for surgeons and observers. Limitations include low lighting in small surgical corridors and pixilation at high magnification. Exoscopes are viable alternatives to the microscope in otologic and neurotologic surgery and are complementary to endoscopic ear techniques.

(Daniel J. Lee)

耳科手術の歴史は顕微鏡の使用により大きく発展してきたことは言うまでも無い。しかし、顕微鏡は術野を観察するために接眼レンズをのぞき込む必要があり、手術部位によっては術者の体位や頭位が不自然となる事がしばしばある。この手術姿勢のため、顕微鏡手術による術者の頸部に負担がかかることがあるだけでなく、部位によっては手術操作そのものが困難となることもある。

本セッションでは、世界トップレベルの otologist である Daniel J. Lee 先生, Matthew Yung 先生, Michael Tong 先生により、新しい耳科手術の潮流である “heads-up Surgery” についてシンポジウム形式で議論を進める。顕微鏡手術での術者の頸部・背部への負担、内視鏡および新しいデバイスである exoscope (外視鏡) を用いた手術の利点等について、卓越した耳科手術の名手による見解が議論される予定である。

(水足 邦雄)



Daniel J.
Lee



Kunio
Mizutari



Matthew
Yung



Michael CF
Tong

— Theme Session 6 —

SKULL BASE TUMORS

Treatment principles of vestibular schwannomas

-Scientific evidence applied to the individual patients-

第1会場 (8:00 ~ 9:30)

第2日目 10月11日 (金)

Moderator : Per Caye-Thomasen (Copenhagen University Hospital, Denmark)

Chair : 宮崎日出海 (耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科 宮崎クリニック/
東京女子医科大学東医療センター)

Hidemi Miyazaki (Miyazaki ORL Clinic/
Tokyo Women's Medical University Medical Center East)

Keynote. Treatment principles in vestibular schwannomas

- scientific evidence applied to the individual patient

Speaker : Per Caye-Thomasen (Copenhagen University Hospital, Denmark)

TM6-1. Value of endoscope, used as an adjunct to the microscope, in improving surgical outcome of patients with vestibular schwannoma

Speaker : Mohamed Badr-El-Dine (Faculty of Medicine, Alexandria University, Egypt)

TM6-2. Treatment of vestibular schwannomas: endoscopic combined and exclusive approaches to the inner ear and cerebello-pontine angle

Speaker : Livio Presutti (University Hospital of Modena, Italy)

TM6-3. Management of vestibular schwannoma in Samsung Seoul Hospital

Speaker : Yang Sun Cho (Sungkyunkwan University School of Medicine, Samsung
Medical Center, Korea)

TM6-4. Role of hearing preservation surgery for small and medium-sized vestibular schwannomas: hearing-focused strategy

Speaker : 大石 直樹 (慶應義塾大学)

Naoki Oishi (Keio University)

TM6-5. New Research Concepts for Vestibular Schwannoma

Speaker : In Seok Moon (Yonsei University College of Medicine, Korea)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Per Caye-Thomasen (Copenhagen University Hospital, Denmark)

Chair : 宮崎日出海 (耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科 宮崎クリニック/
東京女子医科大学東医療センター)

Surgical treatment of large vestibular schwannomas remains undisputed. However, data on the natural history of small and medium-sized vestibular schwannomas have shown that only one third of tumors grow after diagnosis, within 5 years of observation. Around 50% of the patients have good hearing at diagnosis and 60% will keep this during observation. Hearing preservation is even better in patients with normal discrimination at diagnosis, as 85% will keep their good hearing within 5 years and 70% within 10 years.

Results on tumor growth control by radiotherapy vary from 80 to 95%. However, a number of studies include patients without documented pre-therapy tumor growth. The quality of data for reported hearing preservation after radiotherapy is poor and results vary considerably, from 7 to 94%, on average 50-55%. Hearing preservation following surgery range from 20 to 85%, on average around 55%.

Thus, the overall conclusion is that active treatment, i.e. radiotherapy or surgery, should await documented tumor growth. However, a number of individual factors should be applied in the decision-making, e.g. age, co-morbidity, exact tumor size and mass effect, tumor localization within the IAC, hearing (pure tone and discrimination), vestibular system function, trigeminal nerve symptoms, etc.

In addition, new equipment and methods of continuous, near real-time cochlear nerve monitoring during hearing preservation surgery have improved results significantly and implementation of this novel system is likely to be the golden standard of future treatment.

(Per Caye-Thomasen)

まさに国際学会の如くの頭蓋底外科ビッグセッションが実現した。欧州頭蓋底外科学会を代表する3名と、韓国からは欧米で鍛えたトップリーダー2人、ここに日本の気鋭の術者が加わり計6名の術者から頭蓋底外科のカッティングエッジをご披露頂く。耳科医による頭蓋底外科の今の世界的潮流を一度に知ることができる絶好の機会となることであろう。これから頭蓋底外科を学ぼうと思っている先生方、耳科手術を始めたばかりの先生方にも是非参加して頂きたいセッションである。研究に従事する若い耳科医の先生方にも興味を持って頂こうと、各講師には聴神経腫瘍の基礎研究、疫学研究の内容も組み込んで頂く。トップサーजनである彼らが治療に結び付く研究をどう組み立ててきたか、そのアプローチも拝聴したい。日本では頭蓋底外科は脳神経外科の領域のように囚われがちであるが、このセッションを聞けばそうではないことに気付いて頂けるはずである。

(宮崎日出海)



Per Caye-Thomasen



Hidemi Miyazaki



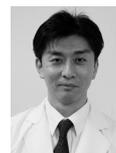
Mohamed Badr-El-Dine



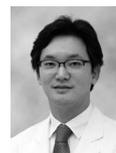
Livio Presutti



Yang Sun Cho



Naoki Oishi



In Seok Moon

— Theme Session 7 —

INNER EAR/ MIDDLE EAR REGENERATION

From bench to bedside

第4会場 (8:00 ~ 9:15)

第2日目 10月11日 (金)

Moderator : Joseph Santos-Sacchi (Yale University School of Medicine, USA)

Chair : 金丸 眞一 (北野病院 / 神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター)

Shin-ichi Kanemaru (Kitano Hospital/Translational Research Center for Medical Innovation)

Keynote. Bedside tales from the bench: the dilemma of the basic scientist

Speaker : Joseph Santos-Sacchi (Yale University School of Medicine, USA)

TM7-1. Hair Cell Regeneration and Stem Cells: Historical and Recent Advances

Speaker : 大島 一男 (大阪大学)

Kazuo Oshima (Osaka University)

TM7-2. Regeneration of inner ear synapses with novel bone-binding neurotrophin analogues

Speaker : Judith Kempfle (Massachusetts Eye and Ear Infirmary, Harvard Medical School, USA)

TM7-3. Regeneration of auditory hair cells as a therapeutic for sensorineural hearing loss

Speaker : 藤岡 正人 (慶應義塾大学)

Masato Fujioka (Keio University)

TM7-4. Nanoparticle-based intratympanic drug delivery for treatment of inner ear disease

Speaker : Dong-Kee Kim (Daejeon St. Mary's Hospital, College of Medicine, The Catholic University of Korea, Korea)

TM7-5. Regeneration of the middle ear gas exchange function for treatment of the intractable otitis media

Speaker : 金丸 眞一 (北野病院 / 神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター)

Shin-ichi Kanemaru (Kitano Hospital/Translational Research Center for Medical Innovation)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Joseph Santos-Sacchi (Yale University School of Medicine, USA)

Chair : 金丸 眞一 (北野病院/神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター)

This session is an exciting one that focuses on regenerative approaches to circumvent the devastation of hearing loss. Following a basic scientist's (Santos-Sacchi) perspective on translational research, several translational research groups will report on their efforts to influence recovery following cell death, or damage in the auditory periphery. For many years now, the otologist has hoped for methods to regenerate hair cells in the clinic. Much research has arisen. Dr. Oshima will provide an historical overview of this research, as well as touch on recent advances. Of course, any hair cell without neural connections is a physiologically useless cell. Dr. Kempfle will tell us about her exciting efforts to promote spiral ganglion neurite outgrowth and synapse formation on hair cells using novel modifications to traditional neurotrophic molecules. Next, Dr. Fujioka will detail his efforts to remove endogenous "regenerations inhibitors" and promote recovery from hair cell loss with small molecules. We are excited to hear about progress in current clinical trial using these molecules. Selective delivery of therapeutic molecules to inner ear tissues remains a challenge. Dr. Kim will tell us about advances in using nanoparticles to enhance uptake and persistence of drugs delivered by middle ear perfusion. Finally, it is important to get proper acoustical stimulation to all those regenerated hair cells and auditory neurons when they arrive! Hence, we need a well-functioning middle ear. Dr. Kanemaru will tell us about efforts to regenerate mastoid air cells to enable proper middle-ear pressure, and combat otitis media. All topics of this session are exciting because expectations are to make new ears from old ears with new cells, a worthy goal. Come and hear!

(Joseph Santos-Sacchi)

本シンポジウムは、中耳・内耳の再生を主題とし、現時点で再生研究がどの段階まで進んでいるかを様々な角度から明らかにすることを目的にしたものです。

Joseph Santos-Sacchi 先生には Key Note Lecture で「研究者のジレンマ」と題した講演。大島一男先生には、過去半世紀の内耳再生の歴史と最近の進歩、臨床面における蝸牛の機能的再生を達成するための内耳細胞と幹細胞の基礎的生物学の探求の有用性について、続いて Judith Kempfle 先生には、神経線維の伸長とそのシナプスの温存に有効である BDNF (brain-derived neurotrophic factor) と NT3 (neurotrophin-3) の効果を持続させる新薬剤開発、そして藤岡正人先生には、過去15年にわたる内耳有毛細胞の再生研究の概要とその成果、ヨーロッパで臨床試験を展開している支持細胞からの有毛細胞への分化を妨げる内因性「再生阻害因子」をターゲットにした治療法の開発。Dong-Kee Kim 先生には、内耳に薬剤、遺伝子、成長因子を届けるための担体や徐放調整などナノパーティクルに関する知見、そして私金丸眞一が、難治性中耳炎の根本治療として中耳ガス交換能の回復を目的とした、乳突蜂巢再生の臨床研究についてお話ししたいと思います。

(金丸 眞一)



Joseph Santos-Sacchi



Shin-ichi Kanemaru



Kazuo Oshima



Judith Kempfle



Masato Fujioka



Dong-Kee Kim

— Theme Session 8 —

MIDDLE EAR SURGERY

Ossiculoplasty based on biomechanics

第1会場 (9:30 ~ 10:45)

第2日目 10月11日 (金)

Moderator : Alexander Huber (University Hospital Zürich, Switzerland)

Chair : 羽藤 直人 (愛媛大学)

Naohito Hato (Ehime University)

Keynote. MIDDLE EAR SURGERY, Ossiculoplasty based on biomechanics

Speaker : Alexander Huber (University Hospital Zürich, Switzerland)

TM8-1. Ossiculoplasty based on measurement and simulation

Speaker : 小池 卓二 (電気通信大学 情報理工学研究科/脳・医工学研究センター)

Takuji Koike (Graduate School of Informatics and Engineering, The University of Electro-Communications Center for Neuroscience and Biomedical Engineering (CNBE))

TM8-2. Current state of ossiculoplasty in Japan and clinical factors related to the hearing results

Speaker : 山本 裕 (東京慈恵会医科大学)

Yutaka Yamamoto (Jikei University School of Medicine)

TM8-3. Ossiculoplasty in Missing Malleus : The Malleus Replacement Prosthesis

Speaker : Robert Vincent (Causse Ear Clinic, France)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Alexander Huber (University Hospital Zürich, Switzerland)

Chair : 羽藤 直人 (愛媛大学)

The session will be held as a symposium with experts in the field of ossiculoplasty and middle ear mechanics. The lectures will touch the basic principles of biomechanics of hearing and how this influences ossiculoplasty from a theoretical point of view. It will further include how vibrations and other properties of the middle ear may be objectivized intraoperatively and how mathematical modeling help to get a clearer view on how we may optimize our way of reconstructing the ear. The current status in hearing outcome in Japan is then reviewed. In particular, the influence of the eardrum, columella, prosthesis material and other factors will be explored and how theoretical considerations may be translated to the clinical setting by a malleus replacement in ossicular reconstruction. At the end, the panelists and the audience will be invited to give their view on specific and typical questions that arise during patient counselling and during the operation.

(Alexander Huber)

1964年の前回東京オリンピックの頃、日本は中耳伝音メカニクス研究の先進国であり、多くの新規知見が世界に向けて発信されていました。鼓膜や耳小骨の振動様式や役割に関する研究は、後に鼓室形成術の手技改善や人工耳小骨、人工中耳の開発に生かされました。それ以降、残念ながら本邦の中耳伝音メカニクス研究は衰退し、欧米に後れを取っているのが現状です。特に日本では未だに使用できないチタン製人工耳小骨の開発、改良が欧米で進み、より良い聴力改善を目指して多様な人工耳小骨が使い分けられているのが現状です。本シンポジウムでは1960年代生まれの4名のシンポジストが各国、各領域代表として、中耳メカニクス研究および臨床の金メダルを目指してバトルを繰り広げてくれると期待しています。2020年の東京オリンピックに向け、中耳伝音メカニクスを正しく理解し、関連研究を行うことの重要性を再認識いただければ幸いです。

(羽藤 直人)



Alexander
Huber



Naohito
Hato



Takuji
Koike



Yutaka
Yamamoto



Robert
Vincent

— Theme Session 9 —

MIDDLE EAR SURGERY

Stapes surgery for otosclerosis: scientific background and clinical results

第1会場 (11:10 ~ 12:25)

第2日目 10月11日 (金)

Moderator : Robert Vincent (Causse Ear Clinic, France)

Chair : 小島 博己 (東京慈恵会医科大学)

Hiroimi Kojima (Jikei University School of Medicine)

Keynote. Complications in Stapes Surgery – Techniques and Results

Speaker : Robert Vincent (Causse Ear Clinic, France)

Panelist : Sune Land Bloch (Copenhagen University Hospital, Denmark)

Panelist : Alexander Huber (University Hospital Zürich, Switzerland)

Panelist : Brandon Isaacson (UT Southwestern Medical Center, USA)

Panelist : 小島 博己 (東京慈恵会医科大学)

Hiroimi Kojima (Jikei University School of Medicine)

Panelist : Joachim Müller (University of Munich, Germany)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Robert Vincent (Causse Ear Clinic, France)

Chair : 小島 博己 (東京慈恵会医科大学)

Primary stapes surgery is usually associated with excellent postoperative hearing outcomes specially in case of otosclerotic stapes fixation. However some complications could be encountered during surgery such as obliterative otosclerosis, overhanging and dehiscent VIIth nerve, simultaneous epitympanic malleus head ankylosis, perilymphatic gusher, persistent stapedial artery and middle ear malformations etc.. The author will present his technique for surgical management of these difficult situations using HD surgical videos. Postoperative hearing results in a personal series of more than 6000 cases will also be presented. Following the keynote lecture, a panel will discuss challenging cases where the appropriate treatment is open to debate.

(Robert Vincent)

アブミ骨手術の目的は後にも先にも聴力改善であり、どの施設の聴力成績も90数パーセントと満足すべきものである。しかし1つ1つの術操作は非常に繊細であり、一歩間違えると高度感音難聴をきたすため、経験を積みば積むほど術者にプレッシャーがかかる手術でもある。一連の操作がスムーズに終われば良いが、obliterative otosclerosisや顔面神経の走行異常、中耳奇形の合併、gusherなど様々なアクシデントが術中に発生した場合、これらに対処する技術・経験を持ち合わせる必要がある。

このセッションでは日本の施設では考えられない7000例以上の経験をもつRobert Vincent教授にまずKey note lectureをしていただき、これらの合併症に遭遇した時の対処法について伺う。続いて各パネリストの短いプレゼンテーションの後に総合討論を行う。内容は前述の合併症に対する対処に加え、内視鏡下アブミ骨手術と記憶形状合金素材について検討する予定である。

当パネルディスカッションが今後の診療に役立つことができれば幸いである。

(小島 博己)



Robert
Vincent



Hiromi
Kojima



Sune Land
Bloch



Alexander
Huber



Brandon
Isaacson



Joachim
Müller

— Theme Session 10 —

AUDITORY IMPLANTS

Challenges in cochlear implant (expanding indications, hearing preservation)

第1会場 (14:00 ~ 15:15)

第2日目 10月11日 (金)

Moderator : 宇佐美真一 (信州大学)

Shin-ichi Usami (Shinshu University)

Chair : Alejandro Rivas (Vanderbilt University Medical Center, USA)

Keynote. Factors Affecting Hearing Preservation

Speaker : 宇佐美真一 (信州大学)

Shin-ichi Usami (Shinshu University)

TM10-1. Predictive Factors for short and long term hearing preservation in cochlear implantation

Speaker : George B. Wanna (New York Eye and Ear and Beth Israel of Mount Sinai, USA)

TM10-2. ECoG – A monitor for hearing preservation?

Speaker : Alexander Huber (University Hospital Zürich, Switzerland)

TM10-3. Cochlear volume as a predictive factor for hearing preservation after EAS surgery

Speaker : 高橋 優宏 (国際医療福祉大学三田病院)

Masahiro Takahashi (International University of Health and Welfare, Mita Hospital)

TM10-4. Analysis of the Etiology and Indications for Cochlear Implantation in Children with Single-Sided Deafness

Speaker : Blake C. Papsin (Hospital for Sick Children, Canada)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator：宇佐美真一（信州大学）

Chair：Alejandro Rivas（Vanderbilt University Medical Center, USA）

現在、残存聴力のある患者への人工内耳あるいは一側性難聴に対する人工内耳など、人工内耳の適応拡大が進んでいる。低侵襲手術および柔らかな電極を用いることにより内耳機能（残存聴力）を温存したまま人工内耳手術ができることが明らかになり、残存聴力活用型人工内耳（EAS）として現在臨床に広く定着しつつある。EASの残存聴力温存（hearing preservation）の概念は内耳の構造保存（structure preservation）の考え方につながることから、すべての人工内耳に通じる考え方として重要である。全周波数にわたる重度難聴患者に対しても蝸牛損傷を避けることは将来的な聴神経の変性を予防する意味からも重要である。聴力温存には患者の年齢、蝸牛長、蝸牛容積、原因、使用する電極など様々な要因が関係していることが知られている。本テーマセッションでは、それぞれの施設における低侵襲手術の現状と聴力温存に及ぼす因子について討論する予定である。

（宇佐美真一）



Shin-ichi
Usami



Alejandro
Rivas



George B.
Wanna



Alexander
Huber



Masahiro
Takahashi



Blake C.
Papsin

— Theme Session 11 —

SUPERIOR SEMICIRCULAR CANAL DEHISCENCE SYNDROME

New treatment modality/Insights into cochlear mechanics and physiology

第1会場 (15:20 ~ 16:35)

第2日目 10月11日 (金)

Moderator : Stephen P. Cass (University of Colorado, USA)

Chair : 山下 裕司 (山口大学)

Hiroshi Yamashita (Yamaguchi University)

Keynote. Transmastoid Repair of Superior Semicircular Canal Dehiscence

Speaker : Stephen P. Cass (University of Colorado, USA)

TM11-1. Middle fossa craniotomy approach for repair of superior canal dehiscence following failed round window surgery

Speaker : Daniel J. Lee (Harvard Medical School, USA)

TM11-2. The technique and benefits of plugging by using underwater endoscopic ear surgery for superior semicircular canal syndrome

Speaker : 山内 大輔 (東北大学)

Daisuke Yamauchi (Tohoku University)

Special commentator : Joseph Santos-Sacchi (Yale University School of Medicine, USA)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Stephen P. Cass (University of Colorado, USA)

Chair : 山下 裕司 (山口大学)

In this session we will review of the 3rd window theory for superior semicircular canal dehiscence in the context of cochlear mechanics and physiology. Advances in diagnosis and treatment of SSCD will be presented with an emphasis on CT classification and new diagnostic approaches. Surgical techniques for SSCD repair including the middle fossa approach, and novel surgical repair techniques including transmastoid and endoscopic approaches will be presented. Informative cases will be discussed by the presenters in a panel format to provide state of the art tips and pearls for managing patients with this interesting disorder.

(Stephen P. Cass)

Superior Canal Dehiscence Syndrome (上半規管裂隙症候群 : SCDS) では, 上半規管を被っている中頭蓋窩天蓋や上錐体洞近傍の上半規管周囲に骨欠損を生じ, 瘻孔症状, Tullio 現象, 難聴などさまざまな臨床症状を呈する. 瘻孔症状や Tullio 現象は上半規管の刺激によって生じるため, 特徴的な眼球偏倚が認められる. すなわち, 回旋成分を含んだ垂直性の動きで, 上半規管が正に刺激されると上方に, 負に刺激されると下方に眼球が偏倚する. 難聴は伝音難聴も感音難聴も生じうる.

本セッションでは, SCDS の手術療法に注目して講演を行なっていただき, 病態解明にアプローチしたい. Dr. Stephen P. Cass からは, transmastoid canal plugging 法を中心に, キーノートレクチャーを行なっていただく. Dr. Daniel J. Lee からは, Round window occlusion 法の不成功例に対する Middle fossa craniotomy approach 法について解説していただく. 山内大輔先生には, 内視鏡を用いた手術法について紹介していただく. Dr. Joseph Santos-Sacchi からは, 3 人の先生の講演に対するコメントをいただく.

(山下 裕司)



Stephen P.
Cass



Hiroshi
Yamashita



Daniel J.
Lee



Daisuke
Yamauchi



Joseph
Santos-Sacchi

— Theme Session 12 —

MIDDLE EAR SURGERY

Classification of cholesteatoma and surgical strategies

第1会場 (8:00 ~ 9:00)

第3日目 10月12日 (土)

Moderator : Matthew Yung (Ipswich Hospital, United Kingdom)

Chair : 東野 哲也 (宮崎大学)

Tetsuya Tono (University of Miyazaki)

Keynote. From endoscopic ear surgery to mastoid obliteration in cholesteatoma surgery: the Ipswich strategies

Speaker : Matthew Yung (Ipswich Hospital, United Kingdom)

TM12-1. Introduction to the EAONO/JOS staging system for middle ear cholesteatoma and the IOOG categorization for tympanomastoid surgery

Speaker : 東野 哲也 (宮崎大学)

Tetsuya Tono (University of Miyazaki)

TM12-2. Results from the Japan Otological Society registry data set

Speaker : 小森 学 (東京慈恵会医科大学附属第三病院)

Manabu Komori (Jikei University Daisan Hospital)

TM12-3. International collaboration validates EAONO/JOS cholesteatoma classification

Speaker : Adrian James (University of Toronto, Canada)

TM12-4. Simple Data Entry for the IOOG SAMEO-ATO Framework and the EAONO/JOS System

Speaker : 松本 有 (東京大学)

Yu Matsumoto (The University of Tokyo)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Matthew Yung (Ipswich Hospital, United Kingdom)

Chair : 東野 哲也 (宮崎大学)

The EAONO/JOS consensus based Classification and Staging of Middle Ear Cholesteatoma was created at the 2016 International Cholesteatoma Conference. This is a modification of the original JOS system. Since then, the EAONO/JOS system has gained international acceptance and popularity. Based on this success, the International Otology Outcome Group was formed in 2018 to facilitate international collaboration of auditing surgical outcome using a common otology dataset (www.ioog.net).

In this session, Prof Tetsuya Tono from Miyazaki will start by giving a brief introduction to EAONO/JOS system and IOOG framework. Dr. Matthew Yung from United Kingdom will then give his keynote lecture on how the EAONO/JOS system has help him to formulate his surgical strategy on cholesteatoma.

Dr. Manabu Komori from Tokyo will present the results from the JOS registry data set that was done previously to show the benefit of multi-centre collaboration amongst a number of Japanese otology centres. Prof Adrian James from Canada will then present the very recent work of an international collaboration from centres in US, Canada, UK and Japan on validation of the EAONO/JOS staging system. Finally, Dr. Yu Matsumoto will introduce the automated data entry of the EAONO/JOS system and IOOG framework that he has created in order to facilitate easy data entry.

Each speaker in this session has been asked to keep the presentation short so that sufficient time is allowed for discussion with the audience.

(Matthew Yung)

日本耳科学会から提案された真珠腫進展度分類や術式名称は、真珠腫治療に関わる医療者が統一された病態分類とステージ分類を共有することにより、術式選択や術後成績、また施設間の診療情報交換の適正化を図る目的で作成された。これらの分類案は、真珠腫分類のEAONO/JOS joint consensus (2017) や中耳手術の国際分類 IOOG Categorization of Tympanomastoid Surgery (2018) の土台として大きな役割を演じた。本セッションでは、これらの国際プロジェクトを日本耳科学会と共に主導した Matthew Yung 先生と Adrian James 先生を迎え、多施設登録研究の成果から見えてくる真珠腫進展度分類の意義や術式分類の問題点を明らかにするとともに、本進展度分類が術式選択に海外でどのように活用されているのか Yung 先生のご経験を紹介頂く。このセッションが、我が国における本国際分類の適切な理解と今後の普及促進に寄与できるよう5名のパネリストによる討論を深めたい。この機会にフロアからも建設的なご意見を頂戴できれば幸いである。

(東野 哲也)



Matthew
Yung



Tetsuya
Tono



Manabu
Komori



Adrian James



Yu
Matsumoto

— Theme Session 13 —

AUDITORY IMPLANTS

Middle ear implant and auditory brainstem implant

第1会場 (9:00 ~ 10:10)

第3日目 10月12日 (土)

Moderator : Joachim Müller (University of Munich, Germany)

Chair : 土井 勝美 (近畿大学)

Katsumi Doi (Kindai University)

Keynote. AUDITORY IMPLANTS—Middle ear implant—

Speaker : Joachim Müller (University of Munich, Germany)

Panelist : 土井 勝美 (近畿大学)

Katsumi Doi (Kindai University)

Panelist : 岩崎 聡 (国際医療福祉大学三田病院)

Satoshi Iwasaki (International University of Health and Welfare, Mita Hospital)

Panelist : Kristianna Mey (Copenhagen University Hospital, Denmark)

Micro-structured thin-film technology for the development of conformal auditory brainstem implant (ABI) electrode arrays

Commentator : Daniel J. Lee (Harvard Medical School, USA)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Joachim Müller (University of Munich, Germany)

Chair : 土井 勝美 (近畿大学)

Active middle ear implants are surgically implanted prosthesis, which are intended to directly stimulate the ossicular chain or the inner ear fluids through the oval or round windows. These implants may be useful for the treatment of patients with sensorineural hearing loss as well as for conductive or mixed hearing loss. This Round Table attempts to summarise the current knowledge concerning the basic characteristics and indications of the most commonly used middle ear implants.

Combined hearing loss is an essential indication for implantable hearing devices. Depending on the bone conduction threshold, various options to couple active middle ear implants to vibratory structures of the middle ear are available. Surgical details of coupling are discussed as well as proper selection criteria.

Patients with mild sensorineural deafness usually benefit from transcutaneous bone conduction implants (BCI), while percutaneous BCI systems are recommended also for moderate hearing loss. For combined hearing losses with moderate and high-grade cochlear hearing loss, active middle ear implants are recommended. For patients with incompatibilities or middle ear surgery, these implants are a valuable and proven addition to the therapeutic options.

(Joachim Müller)

国内では、伝音難聴・混合性難聴に対する人工聴覚器として、それぞれ多施設臨床治験を経て、2016年に人工中耳 VSB (Vibrant Soundbridge[®], メドエル社) が、2013年に植込型骨導補聴器 BAHA (Bone-Anchored Hearing Aid, Baha[®], コクレア社) が保険承認され、症例の蓄積が進むとともに、その安全性と有効性の検証が進んでいる。本セッションでは、人工聴覚器医療に関して豊富な経験を有する Joachim Müller 先生 (ドイツ) による keynote lecture に続いて、岩崎 聡先生 (国際医療福祉大) と私、さらに Kristianna Mey 先生 (デンマーク) の3名が、各施設における人工聴覚器医療の現状について紹介する。

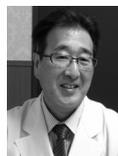
(土井 勝美)



Joachim
Müller



Katsumi
Doi



Satoshi
Iwasaki



Kristianna
Mey



Daniel J.
Lee

— Theme Session 14 —

MENIER DISEASE

MRI for hydrops/Treatment modality

第1会場 (10:15 ~ 11:30)

第3日目 10月12日 (土)

Moderator : Brandon Isaacson (UT Southwestern Medical Center, USA)

Chair : 北原 糺 (奈良県立医科大学)

Tadashi Kitahara (Nara Medical University)

TM14-1/Keynote. Evaluation of endolymphatic hydrops on MRI

Speaker : 曾根三千彦 (名古屋大学)

Michihiko Sone (Nagoya University)

TM14-2. Is it time to change the taxonomy of Ménière's Disease?

Speaker : Rudolf Probst (University Hospital Zürich, Switzerland)

TM14-3. Changes in vertigo frequency and endolymphatic volumes after endolymphatic sac surgery

Speaker : 北原 糺 (奈良県立医科大学)

Tadashi Kitahara (Nara Medical University)

TM14-4. Surgery in Menieres disease: Retrolabyrinthine vestibular neurectomy and endolymphatic duct clipping

Speaker : Søren Hansen (ENT clinic Frederiksberg/Copenhagen University Hospital, Denmark)

Special commentator : Joseph Santos-Sacchi (Yale University School of Medicine, USA)

■企画意図 (The intention of this session) ■

Moderator : Brandon Isaacson (UT Southwestern Medical Center, USA)

Chair : 北原 糺 (奈良県立医科大学)

Meniere's disease is an idiopathic disorder of the membranous labyrinth that presents with episodic vertigo, fluctuating hearing, tinnitus, and ear fullness. Endolymphatic hydrops is the pathologic correlate for Meniere's disease and up until recently could only be definitively diagnosed on post-mortem histopathological examination of the temporal bone. High resolution magnetic resonance imaging of the membranous labyrinth is now a well-established technique for confirming the presence of endolymphatic hydrops and to evaluate efficacy of treatment. This symposium will review the following topics in addition to discussion on MRI imaging and management of Meniere:

- 1) Michihiko Sone, MD, PhD – Significance of endolymphatic hydrops on MRI
- 2) Rudolf Probst, MD – Is it time to change the taxonomy of Meniere's Disease?
- 3) Tadashi Kitahara, MD, PhD – Changes in vertigo frequency and endolymphatic volumes after endolymphatic sac surgery
- 4) Søren Hansen – Retrolabyrinthine vestibular neurectomy and Endolymphatic Duct Clipping
(Brandon Isaacson)

大阪の山川, ロンドンの Hallpike らにより, メニエール病患者の側頭骨病理組織に内リンパ水腫が報告されてから 80 年が過ぎた. しかしながら, 内リンパ水腫の発生原因およびメニエール病の発症原因はいまだ不明であり, 神経耳科医はメニエール病の診断と治療において苦慮を強いられてきた.

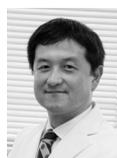
今世紀に入り, 名古屋大学の画像診断グループの功績により, 内耳造影 MRI 法が確立され, 内リンパ水腫の画像診断がいよいよ可能となった. 今度は, 神経耳科医がこの内耳造影 MRI 法による内リンパ水腫の描出を, メニエール病の診断と治療においてどのように扱うべきか, 熟慮を重ねていく必要がある.

Theme Session 14 では, 内耳造影 MRI 法による内リンパ水腫の画像診断について, 現時点での進捗を理解するとともに, 診断および治療における貢献の可能性について discussion したい.

(北原 糺)



Brandon
Isaacson



Tadashi
Kitahara



Michihiko
Sone



Rudolf
Probst



Søren
Hansen



Joseph
Santos-Sacchi

—— ネクストジェネレーションセッション 1 ——

AI が変わる耳科学

第 2 会場 (11:05 ~ 12:05)

第 1 日目 10 月 10 日 (木)

モデレーター：工 穰 (信州大学)
松本 希 (九州大学)

NJ1-1. 難聴患者を統計学的手法で分類する方法

演者：鈴木 伸嘉 (なのはな みみ・はな・のどクリニック)

NJ1-2. 耳疾患の画像診断はどこまで可能か？

演者：工 穰 (信州大学)

NJ1-3. AI 技術を用いた GRBAS 尺度の自動推定

演者：李 庸學 (九州大学)

NJ1-4. スマートホンの音声認識技術を AI として利用する手法

演者：松本 希 (九州大学)



工 穰



松本 希



鈴木 伸嘉



李 庸學

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：工 穰 (信州大学)
松本 希 (九州大学)

100 年来の技術革新といわれる深層学習 (ディープラーニング) 技術により, 人工知能 (AI) の研究分野が急速に発展し, 医療の世界にも大きく入り込んできている. 医療画像解析・クリニカルシーケンス解析など様々な分野においてその活用が期待されており, 大量の医療情報を統合して革新的医療システムを確立するには AI 技術が不可欠であると考えられる.

長きにわたり顕微鏡による職人芸とされてきた耳科手術にも技術革新の波が襲い, 内視鏡や外視鏡による Head-up surgery が注目されてきている. 同時に画像の高解像度化, 3D 化も進んできており, 大量の情報を短時間で効率的に解析してよい診療へつなげるためにも, AI 技術の発展は欠かせない.

本企画では, 「AI が変える耳科学」と題し, AI とは何か? から, AI によって純音聴力データを分類できるか?, 中耳炎の診断はどこまでできるか? 音声の聴覚印象を判定できるか? など, 近い将来耳科学に導入/応用が見込まれる AI 研究の現状, 進捗と将来の臨床応用の展開について講演いただく.

With the deep learning technology which is regarded as the technical innovation that happens once in 100 years, the artificial intelligence (AI) became a rapidly expanding subject in various research fields, which certainly includes the field of medicine. The expected practical use are not limited to the already known fields of medical image analysis and clinical sequence analysis. AI technology is thought to play a critical role in integrating a large quantity of medical information, and to establish innovative medical system.

Ear surgery has been regarded as a microscopic craftsmanship by experts for a long time. But recent emergence of head-up surgery using endoscopes or exoscopes is changing the required skills in otologic surgeries. These new digital devices provide high-resolution and 3-dimensional images that contain much more information than those perceived by our eyes through surgical microscopes. In order not to waste the vast amount of information and utilize them to help patients, AI technology is crucial.

In this session entitled “AI innovates otology”, we will discuss the present status of the AI research and introduce the vision of the near future. The presenters will discuss (1) can AI classify pure tone audiogram data?, (2) how correct can AI be in diagnosing otitis media? and (3) can AI judge the human’s hoarse voice that had been exclusively judged by human experts?

—— ネクストジェネレーションセッション2 ——

耳管治療新時代における耳管機能検査の New Standard

第2会場 (12:05 ~ 13:05)

第1日目 10月10日(木)

モデレーター：増田 正次 (杏林大学)

NJ2-1. 耳管開放症とその精神特性

演者：伊勢 桃子 (熊本大学)

NJ2-2. 音響法を活用した体位変換耳管機能検査 (大田法)

演者：大田 重人 (兵庫医科大学)

NJ2-3. 耳管の画像検査

演者：吉岡 哲志 (藤田医科大学)

NJ2-4. 耳管開放症に対する耳管ピン手術—有効性・安全性向上のための工夫

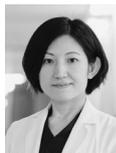
演者：池田 怜吉 (仙塩利府病院)

NJ2-5. 中耳—鼻咽腔細菌叢関門としての耳管機能について解説 (細菌叢のメタゲノム解析結果から)

演者：南 修司郎 (東京医療センター)



増田 正次



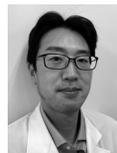
伊勢 桃子



大田 重人



吉岡 哲志



池田 怜吉



南 修司郎

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：増田 正次 (杏林大学)

耳管は解剖学的に観察，処置が困難であるがゆえ，検査・治療法の開発が進み難い領域であった。しかし近年，精鋭たちの開発した Original な方法が New Standard へと進化を遂げ，耳管医療は新たな局面を迎えている。耳管ピン挿入術や耳管バルーン拡張術など，耳管に対する外科的治療法が今後普及することが予想される。本セッションではこれらの新しい治療の適応決定に必須となるであろう検査法の New Standard を紹介する。また，今後解明すべき病態生理や開発すべき治療法について議論を行う。会員は，耳管医療の実践には包括的検査法を要することが認識できるであろう。また，少しの工夫によりだれもが利用可能で有用性の高い医療が創出できることに気づくであろう。本セッションが耳管医療発展の起爆剤となることを願う。

The Eustachian tube (ET) is hard to access due to the anatomical complexity, and hence it has been a hard field to develop new techniques for examinations and treatments. However, nowadays, smart doctors sublimate their originals into new standards in the ET medicine. New treatments for ET dysfunction like trans-tympanic plugging of the ET and ET balloon dilatation are emerging in Japan. We will present new standards of ET functional tests that will be essential for choosing the new treatments. Afterwards, we will discuss about pathophysiology that we should reveal and the upcoming treatments for ET dysfunction. The audience will renew their understanding how much comprehensive examinations are mandatory for ET medicine. Furthermore, young doctors will notice that they can also invent really easy-to-use and versatile tests and treatments by themselves. I hope that this session will be the big bang of developing ET medicine.

—— ネクストジェネレーションセッション 3 ——

内視鏡下耳科手術 —安全で確実な耳科手術の追求—

第2会場 (15:40 ~ 16:40)

第1日目 10月10日(木)

モデレーター：山内 大輔 (東北大学)

NJ3-1. 中耳の解剖学的微細構造と内視鏡下耳科手術
演者：岡野 高之 (京都大学)

NJ3-2. これから TEES をはじめるために
演者：松本 有 (東京大学)

NJ3-3. Powered TEES の安全性と有効性について
演者：伊藤 吏 (山形大学)

NJ3-4. 当科における中耳内視鏡手術について
演者：山本 和央 (東京慈恵会医科大学)

NJ3-5. 水中内視鏡手技の適応や実際の方法
演者：山内 大輔 (東北大学)



山内 大輔



岡野 高之



松本 有



伊藤 吏



山本 和央

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：山内 大輔（東北大学）

近年、内視鏡性能の飛躍的な向上とともに、多くの診療科で内視鏡下手術が低侵襲手術として脚光を浴び、急速に普及している。耳鼻咽喉科領域についても例外ではなく、特に耳科領域では経外耳道的内視鏡下耳科手術（TEES; transcanal endoscopic ear surgery）に代表される内視鏡を用いた低侵襲な耳科手術の発展が目覚ましい。本セッションでは、耳科手術のパラダイムシフトを実際に感じながら日々臨床、研究の最前線で活躍している術者が、内視鏡下耳科手術の安全性・確実性について、それぞれの視点から講演する。

最初は、TEESを安全におこなうための側頭骨標本解剖について、京都大学の岡野高之先生にご担当いただく。京都大学での側頭骨解剖実習での貴重な研究成果をもとに、TEESを安全に行うために必要な解剖の知識と、実際の症例への応用について講演いただく。

次に、これからTEESをはじめめるために必要なこと、器具の使用のコツについて、東京大学の松本有先生にご担当いただく。TEESの利点である広角視野を意識した湾曲型の器械、TEESの欠点である片手操作を補うための吸引付きの器械、また演者が開発した骨鋭匙保持具について解説いただく。

後半はTEESの応用編として、Powered TEESの有用性と手技について山形大学の伊藤 吏先生、TEESによる中耳粘膜移植について東京慈恵会医科大学の山本和央先生、水中内視鏡耳科手術の手技については小生がそれぞれ講演する。伊藤先生には、ソノペットによるPowered TEESの留意点、内視鏡光源による温度上昇に関する研究についてご呈示いただき、実践的な症例を提示いただく。山本先生には中耳粘膜移植の実際の手技、その効果、今後の展望などについて解説いただく。山内は水中内視鏡手技の適応や実際の方法について、わかりやすく講演する。

最後に壇上にて、テーマである“安全で確実な内視鏡下耳科手術”をどのようにはじめ、また追求していけばよいのか意見を交換する。演者を含めた“次世代”の術者が今後研鑽を積むために、本セッションが大いに参考になれば幸いである。

In recent years, endoscopic surgery has been spotlighted as a minimally invasive surgery in many medical departments along with dramatic improvement in endoscopic performance and is rapidly spreading. The field of otorhinolaryngology is not an exception, and particularly in the field of otology, the scope of minimally invasive endoscopic ear surgery represented by the transcanal endoscopic ear surgery (TEES) has been developed remarkably. In this session, next-generation doctors who are actively working at the forefront of clinical and research daily while thinking the paradigm shift of otologic surgery will speak each from points of view about the safety and certainty of endoscopic ear surgery.

At first, Dr. Takayuki Okano from Kyoto University will speak about “The dissection of the temporal bone specimens for the safe implementation of TEES”. Based on valuable research results in the temporal bone anatomy training at Kyoto University, he will demonstrate the anatomical knowledge necessary for safely performing TEES and its application to actual cases.

Next, Mr. Yu Matsumoto from the University of Tokyo will speak about “What you need to do to start TEES?” and “Tips on how to use the instruments”. He will demonstrate about curved instruments and instruments with suction that are advantageous to TEES compensate for the one-hand operation that is a disadvantage of TEES. The bone sharpening holder designed by him will be also explained.

In the second half, as the application of TEES, the usefulness and technique of Powered TEES will be shown by Dr. Tukasa Ito from Yamagata University and the middle ear mucous membrane transplantation by TEES will be shown by Dr. Kazuhisa Yamamoto from Jikei University School of Medicine. Dr. Ito will present about “Tips of Powered TEES with SONOPET”, “Study on temperature rise by endoscopic light sources”, and present some practical cases. Dr. Yamamoto will explain “The actual procedure of middle ear mucosal transplantation, its effects, prospects, etc”. Yamauchi will speak about “The adaptation and practical methods of underwater endoscopic ear surgery” intelligibly.

Finally, on the platform, exchange ideas on how to start and pursue the theme “safe and secure endoscopic ear surgery”. I hope that this session will be a great reference for the “next generation” practitioners, including the speakers, to further study.

—— ネクストジェネレーションセッション 4 ——

内耳領域の再生医療研究・温故知新 —Original から Standard へ—

第 4 会場 (9:30 ~ 10:30)

第 2 日目 10 月 11 日 (金)

モデレーター：大島 一男 (大阪大学)

NJ4-1. 内耳領域における幹細胞研究の歴史と現状と未来

演者：大島 一男 (大阪大学)

NJ4-2. 蝸牛有毛細胞再生促進因子の探索—Notch シグナルから網羅的解析まで

演者：山本 典生 (京都大学)

NJ4-3. 幹細胞医学・再生医療の実用化研究：創薬の立場から

演者：藤岡 正人 (慶應義塾大学)



大島 一男



山本 典生



藤岡 正人

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：大島 一男（大阪大学）

かつての教科書には「内耳の感覚上皮の細胞は再生しない」と書かれてあったものだが、時代は移ろい、今や「内耳の再生」という言葉が人口に膾炙する時代となった。魚類の有毛細胞が生涯を通じて発生し続けることが示されたのが1981年。その後、鳥類、爬虫類などでも有毛細胞など感覚上皮の細胞が再生する能力を持っていることが分かってきた。1993年には、ついに哺乳類の感覚上皮も限定的ながら再生能を持っていることが示された。哺乳類での内耳再生の発見から四半世紀を経て、どのように内耳再生研究は進んできたのか？キーとなる研究を解説しながら、OriginalからStandardへの変遷について解説する。これから学ばれる方、あまりなじみのない方にも、内耳再生研究の面白さを感じて頂ければ幸いである。

当セッション内では、モデレーター自身により、これまでの内耳再生研究の歴史を振り返り、モデレーター自身が研究してきた内容を含めて解説する。すなわち、「内耳にはないと思われていた幹細胞が実は存在した」という内容および「ES/iPS細胞といった万能幹細胞から内耳系の細胞、特に有毛細胞へ分化誘導させる方法の確立」という内容である。次いで山本先生より「有毛細胞の再生促進因子の探索」というテーマで、Notchシグナルの話から現在注目されている単一細胞解析を用いた網羅的解析の話題までお話しいただく。そして、藤岡先生より「幹細胞医学・再生医療の実用化研究」というテーマで、幹細胞学の技術、特にヒトiPSの分化誘導技術を用いての創薬・新規治療法開発についてお話しいただく。我々3名だけをとっても互いの研究が連続性を持っていることを感じて頂きつつ、現在進行形で発展している内耳再生領域の一端に触れていただければ幸甚である。

It had been believed that the cells in the sensory region of the inner ear do not regenerate. After a number of breakthrough researches, those cells are now known to regenerate, even in mammals. In this session, we look back on and discuss the past, present and future years of inner ear regeneration research in an audience-friendly manner.

—— ネクストジェネレーションセッション5 ——

側頭骨頭蓋底外科手術の再発展を目指して

Road to lateral skull base surgery for young otologists

第2会場 (10:30 ~ 11:30)

第2日目 10月11日 (金)

モデレーター：大石 直樹 (慶應義塾大学)

Naoki Oishi (Keio University)

NJ5-1. 側頭骨頭蓋底外科医を目指して

演者：山田 啓之 (愛媛大学)

Hiroyuki Yamada (Ehime University)

NJ5-2. 側頭骨頭蓋底外科手術の再発展を目指して

演者：稲垣 彰 (名古屋市立大学)

Akira Inagaki (Nagoya City University)

NJ5-3. 聴神経腫瘍の手術を受けて始まったこと

演者：高田 雄介 (順天堂大学)

Yusuke Takata (Juntendo University)

NJ5-4. Lateral skull base surgery for young otologists in Denmark

演者：Martin Nue Møller (Copenhagen University Hospital, Denmark)



Naoki
Oishi



Hiroyuki
Yamada



Akira
Inagaki



Yusuke
Takata



Martin
Nue Møller

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：大石 直樹（慶應義塾大学）

本学会における側頭骨頭蓋底外科領域の手術演題は、2000年ごろより明らかな減少傾向にある。本年の学術講演会のテーマ「Original から standard へ」に側頭骨頭蓋底手術の現状を当てはめてみると、1. 1960–70年代の黎明期の後、柳原尚明先生、小松崎篤先生、神崎仁先生をはじめとする現在70–80歳代になられている耳科学の巨人の先生方は、数百例の聴神経腫瘍手術経験を有し多くの頭蓋底手術をなさっていたが、2. 現在60歳代のご定年前後の先生方がご活躍の時代を経て、3. いまの現役世代で「側頭骨頭蓋底外科医」は国内全体でごくわずかしおらず、極めて先細りの状況である。つまり、20年から30年前にはむしろ「standard」になりつつあったが、現在はごく一部の術者のみが施行する「original」な状況に逆戻りしている感がある。

時代背景として、放射線化学療法の発展や、疾患の自然経過の解明などによる手術適応症例自体の減少があり、さらに脳神経外科領域での microsurgery の発展により、潜在的に耳科医が頭蓋底手術を行うべき症例自体が減少している事実は存在する。しかしながら、様々な神経耳科的症状を呈する聴神経腫瘍をはじめとする側頭骨頭蓋底外科領域の疾患は、本来であれば耳科医がもっと診断や治療に積極的に関与すべき領域であり、それが患者の利益にもつながると信じている。

今後の教育環境の整備、手術の安全性の向上などを目指していけば、再度耳科医による側頭骨頭蓋底外科が発展する時代が来ることは期待できる。本企画では、現在40歳代で頭蓋底手術を志してご活躍中の先生方に、1. いままでどのような経験を経て側頭骨頭蓋底手術を志すようになったか、2. いま感じている最大の壁はなにか、3. 手術の安全性はどのように担保してきているか（どのような工夫をしているか）、4. 今後の目指す方向、などについてご発表いただく予定である。そして、国内のみの視点に偏らないよう、耳科医が取り組む聴神経腫瘍臨床の先進国であるデンマークからも、Lateral skull base surgery for young otologists in Denmark のタイトルでご講演をお願いした。

5年前の第24回日本耳科学会（高橋姿会長）において、シンポジウム「聴神経腫瘍への対応－明日の側頭骨外科医のために－」を当時一人の聴衆として、各演者の先生方のご発表に心を熱くして、ご講演を拝聴した。そのシンポジウムでは、高橋姿先生が司会をされ、村上信五先生、橋本省先生、宮崎日出海先生そして小林俊光先生がご発表され、ご自身の聴神経腫瘍診療に関わってこられた歴史を振り返り、若手を鼓舞されていた（Otol Jpn 25(3) 2015 に特集あり）。そのシンポジウムは、私自身にとって、側頭骨頭蓋底手術への積極的関与に向けて背中を押していただいた機会であったと感じている。

本企画が、若手耳科医の心を鼓舞し、側頭骨頭蓋底外科領域への若手の参入につながり、本領域の発展に寄与し、そして一人でも多くの患者の利益につながることにできれば幸いである。

This symposium aims to inspire young otologists in Japan who potentially have a desire to work in the field of lateral skull base surgery, although there are only several Japanese neurotologists nowadays in this field. Three neurotologists in their 40s from Japan are going to give presentations regarding their motivations, their education history, and their future plan in lateral skull base surgery. Besides, we invite a speaker from Denmark, which is one of the leading countries in the field of vestibular schwannoma, in order to understand the current status of lateral skull base surgery for young otologists in Europe.

—— ネクストジェネレーションセッション 6 ——

これからの人工内耳医療 —日本から世界への発信—

第4会場 (11:35 ~ 12:35)

第2日目 10月11日 (金)

モデレーター：山本 典生 (京都大学)

NJ6-1. 術前シミュレーションで蝸牛の方向を厳密に特定する意義

演者：松本 希 (九州大学)

NJ6-2. 術中コーンビーム CT による人工内耳電極の評価

演者：山本 典生 (京都大学)

NJ6-3. 遠隔マッピング・遠隔言語訓練の試み

演者：高野 賢一 (札幌医科大学)

NJ6-4. 人工内耳装用者の発声コントロールに関する研究

演者：山崎 博司 (大阪赤十字病院)



山本 典生



松本 希



高野 賢一



山崎 博司

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：山本 典生（京都大学）

世界で人工内耳装用者が60万人を越え、両側人工内耳装用、残存聴力活用型人工内耳など、人工内耳医療は近年多様な発展を遂げている。これらの新しい人工内耳医療は海外で発展して本邦に導入されている。一方、日本においては、人口当たりの装用者数が他国と比べて少なく世界における日本の人工内耳医療の占める位置は決して高くない。

しかし、本邦で人工内耳医療が発展を遂げていないわけではない。本企画では、世界の人工内耳医療の発展に貢献できる日本発のオリジナリティを持った技術、試み、研究を取り上げ、それらを議論することにより、日本から世界に向けて新たな人工内耳医療の提案を行えるきっかけを作りたい。数多くある日本発の人工内耳医療の中から、術前シミュレーション（松本希先生、九州大学）、遠隔マッピング、遠隔（リ）ハビリテーション（高野賢一先生、札幌医科大学）、人工内耳装用者の発声のピッチコントロール（山崎博司先生、大阪赤十字病院）、術中CTの使用（山本、京都大学）の4つのトピックを議論する。

More than six hundred thousand people use cochlear implants in the world. Since the first cochlear implant system came out to the market 35 years ago, the indication of cochlear implantation (CI) has been updated, for example, with applying bilateral CI for adult and pediatric patients and electrical-acoustic stimulation for the patients with residual hearing. These updates originated from abroad and were introduced into Japan. Although the number of CI users per unit population in Japan is significantly smaller than those in Europe and the USA, many kinds of innovation regarding CI have been established in Japan. In this session, we will discuss over the innovative CI medicine originated from Japan, including pre-operative simulation, remote mapping and habilitation or rehabilitation, voice pitch control of CI users, and intra-operative cone-beam CT for CI surgery.

—— ネクストジェネレーションセッション7 ——

難聴の Precision Medicine — 遺伝子診断から遺伝子治療へ —

第4会場 (14:30 ~ 15:30)

第2日目 10月11日 (金)

モデレーター：茂木 英明 (相澤病院/信州大学)

NJ7-1. バイオインフォマティクスによる遺伝子変異の評価検討

演者：西尾 信哉 (信州大学)

NJ7-2. 同定されたバリエントに対する生物学的な検討の意義

演者：和佐野浩一郎 (東京医療センター)

NJ7-3. 遺伝性難聴に対する遺伝子治療の展望

演者：吉村 豪兼 (信州大学)



茂木 英明



西尾 信哉



和佐野浩一郎



吉村 豪兼

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：茂木 英明（相澤病院／信州大学）

感音難聴を対象とした分子生物学的な治療アプローチに関する研究は多い。しかし、感音難聴の原因は様々である。そのうちの一つである遺伝性難聴は、昨今のゲノム研究の発展により、原因遺伝子変異のみならず、変異から発症する難聴のメカニズムの解明が急速に進んでいる。このような背景から、特異的な遺伝子治療の開発が期待されている疾患でもある。本セッションで、感音難聴の遺伝子診断から遺伝子治療の開発への筋道を示したい。

まず必要なことは、感音難聴の原因診断である。現在、ゲノム医療の分野で、Dryなバイオインフォマティクスは必須である。超並列遺伝子解析から見出される数万の遺伝子変異の中から、高度なコンピュータ処理によって真の病的変異を絞り込み突き止める。しかしながらこれは生物学的な裏付けに乏しく、見出された遺伝子変異が生体内でどのような異常をもたらすかは評価し得ない。Wetな細胞生物学的な実験が、原因遺伝子変異の病原性、程度、発症のメカニズムを検討するためには有用であるが、スループットの低さを考えると、バイオインフォマティクスによる候補遺伝子の絞り込みが必要である。両者を組み合わせることで、原因遺伝子変異の絞り込みから、生物学的な特性の評価、遺伝子治療法の選択へと、効率の良い研究へつながる。昨今、ヒトで見出されているのと同じ遺伝子変異による難聴モデルマウスにたいして、遺伝子治療を行う研究が盛んに行われており、多くの成果が報告されている。それぞれ異なる原因遺伝子による難聴を患う患者さんに対しての個別化医療、Precision Medicineが、根本的治療として、感音難聴の克服へとつながる。

Sensorineural hearing loss (SNHL) is the most common sensory deficit, and is a critical public health concern. Among SNHL patients, genetic factors are estimated to be responsible for more than half of all cases. Rapid progress of genetic analysis has been made in both the accuracy and accessibility to genetic testing, and genetic diagnosis also provides essential information for cochlear gene therapies in the last few years. Bioinformatics can be used to identify the disease-causing variant, however, biological hypotheses of SNHL caused by each variant remain unclear. Combining bioinformatics and high-throughput biological functional screening are key components of research strategy, and gene therapy based on advanced viral vector technology is applied to validate the therapeutic efficacy of molecular targets in clinically relevant animal models of SNHL. Development of diagnosis and treatment strategy for each individual with SNHL based on genomic information is a goal of precision medicine.

—— ネクストジェネレーションセッション 8 ——

“新しい治療”を創り出す —産学官の“現場”の若手たち—

第4会場 (15:30 ~ 16:30)

第2日目 10月11日 (金)

モデレーター：藤岡 正人 (慶應義塾大学)

演者：武内 俊樹 (慶應義塾大学 小児科 / 元内閣官房 健康・医療戦略室)

黒川 友哉 (千葉大学 / 医薬品医療機器総合機構)

阿部 圭悟 (東京都戦略政策情報推進本部)

長倉 晃 (アステラス製薬株式会社 研究本部)



藤岡 正人



武内 俊樹



黒川 友哉



阿部 圭悟



長倉 晃

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：藤岡 正人（慶應義塾大学）

Translational Research という言葉を耳にするようになり久しい。このセッションでは、本学会のテーマである“Original to Standard”をまさに具現化すべく、治療法に乏しい疾患への開発研究に携わっている、産・学・官の第一線の若手プレイヤーをお招きした。

はじめに各人のご経験と視点、現在進めているアプローチと、聴衆の若手へのメッセージをいただき、続いてシンポジウム形式で討議をする。

討議ではまず、「患者さんへの solution の提供」という最終目標は共通しても、立場が異なると見方がときに大きく異なるという現実を具体的に共有したい。続いて、多くの異なる stakeholder が関与する中、日本発で新しい医療を創り出すための仕組み・環境（いわゆる eco-system）を、国家や地方自治体、行政がどのように整備しようとし、実践しているか、あるいは大学や企業体はどう関わっているのかを提示していただく。

今回お呼びした演者の方々は、医師、研究者、AMED、PMDA、地方自治体、大手製薬企業、バイオベンチャーと、異なるバックグラウンドを持ち、かつそれぞれの中で実務を精力的に進める“実働部隊”である。互いの質疑応答を交えながら、産・学・官それぞれの“事件の現場”発の論点を整理し、議論を深めたい。

医師が行う基礎研究の多くは、将来の治療につながりうる発見や発明を伴う、いわゆる“シーズ”を含むが、この実用化には上述の相異なる視点を呑み込んだ形での“translation”が必要となる。そして、一大学人として残念なことだが、新しい医療の開発という激動のフィールドにおいて、アカデミアは多くの場面で最も遅れている組織と言われがちである。本シンポジウムを通して、柔軟な思考と吸収力を持つ耳科領域の physician scientists の聴衆の方々が、何かを感じ取り、何らかの鳥瞰した視野・スタンスを得て、各人の研究に活かしていただければ、望外の幸せである。

In this session, the younger players from industry, academia, government and government agency who are engaged in biomedical development research for intractable diseases, will talk about their experiences, perspectives, and current approaches for building up new era of medicines. Topics of this session contain followings:

1. In general, sometime, views are completely different when we are in different positions, even though the stakeholders share the same goal. This may also happen in the field of biomed, in fact, frequently.

2. Motivations and struggles of young ages in the government and its agency will be shared to the public.

3. Current and future environment of biomed / healthcare in Japan will be discussed. What is the goal of Japan's biomedical research? How to achieve it? What is the strong point?

Hope all audiences participating in the session, especially young otologists and physician scientists in the field of ENT, achieve his/her own bird's-eye views and obtain some stance, eventually that may help research of each individual.

—— ネクストジェネレーションセッション 9 ——

内リンパ水腫画像検査 —日本の **Original** から世界の **Standard**, そして新たな展開へ—

第2会場 (8:00 ~ 9:00)

第3日目 10月12日 (土)

モデレーター：今井 貴夫 (大阪大学)

NJ9-1. 内耳造影 MRI での水腫の有無とめまい発作時の眼振の性状からの内リンパ水腫の分類

演者：今井 貴夫 (大阪大学)

NJ9-2. 内耳造影 MRI はメニエール病の診断に有用か

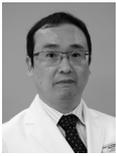
演者：伊藤 妙子 (奈良県立医科大学)

NJ9-3. MRI 評価にて半規管内へ内リンパ腔が突出しヘルニア状所見を呈する例の検討

演者：杉本 賢文 (名古屋大学)

NJ9-4. 内リンパ水腫からみるメニエール病の新たな側面

演者：福嶋 宗久 (関西労災病院)



今井 貴夫



伊藤 妙子



杉本 賢文



福嶋 宗久

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：今井 貴夫 (大阪大学)

名古屋大学が、メニエール病における内耳の内リンパ水腫を造影 MRI にて画像化する「内リンパ水腫画像検査」を開発した (Nakashima T et al. *Laryngoscope* 2007). 当検査は当初、シーメンス社製の 3 テスラ MRI を用いた名古屋大学 original の検査として開発された. その後, このシーメンス社製 MRI 用のプロトコールは世界へ広く普及した. しかし, 当検査のさらなる普及のためには他社製の MRI 機種でも実施できる必要がある. 現在 GE 社製の MRI でも当検査は可能となった (Imai T et al. *Eur Arch Otorhinolaryngol* 2017). 健康成人でのコントロールデータはすでに存在し, メニエール病症例では当検査にて高率に内リンパ水腫が検出される. メニエール病診断における当検査の感度, 特異度は極めて高いことが示されているので (宇野, 今井他. *日耳鼻* 2013; Ito T et al. *Acta Otolaryngol* 2016), 当検査はすでにメニエール病診断における世界の standard になっている. 当検査は現在, メニエール病の診断のみならず研究のツールとしても用いられている. 日本で開発された検査であるので, これを用いた研究に関し我々日本耳科学会会員は優位な立場にあり, 世界をリードすべきである. 当企画では, 内リンパ水腫画像検査を用いてメニエール病に関する最先端の研究を行っているシンポジストに, その研究内容を紹介してもらい, 耳科学会会員に興味を持ってもらい, 多くの施設で当検査を実施してもらえようように導く. その結果として, 内リンパ水腫に関する新しい仮説を日本から世界へ発信する体制作りへとつなげることが当企画の目的である.

Nagoya University has developed new original method for visualizing endolymphatic hydrops in inner ear using 3 tesla magnetic resonance imaging (MRI) with intravenous gadolinium. This method is now standard test for diagnosis of Ménière's disease and is essential for the diagnosis of certain Ménière's disease. Recently, the method is used not only for the diagnosis of Ménière's disease but also for research of Ménière's disease. In this symposium, we will show leading-edge research about Ménière's disease that was performed using MRI with intravenous gadolinium.

—— ネクストジェネレーションセッション 10 ——

補聴器および人工聴覚器の適応の考え方のコンセンサス

第4会場 (8:00～9:00)

第3日目 10月12日(土)

モデレーター：新田 清一 (済生会宇都宮病院)

NJ10-1. 補聴器および人工聴覚器の適応の考え方のコンセンサス：人工内耳

演者：南 修司郎 (東京医療センター)

NJ10-2. 補聴器および人工聴覚器の適応の考え方のコンセンサス：人工中耳 VSB

演者：高橋 優宏 (国際医療福祉大学三田病院)

NJ10-3. 補聴器および人工聴覚器の適応の考え方のコンセンサス：骨固定型補聴器 (Baha®)

演者：我那覇 章 (宮崎大学)

NJ10-4. 補聴器および人工聴覚器の適応の考え方のコンセンサス：軟骨伝導補聴器

演者：西山 崇経 (慶應義塾大学／川崎市立川崎病院)

**NJ10-5. 補聴器および人工聴覚器の適応の考え方のコンセンサス：残存聴力活用型人工内耳
EAS (electric acoustic stimulation)**

演者：大崎 康宏 (近畿大学)



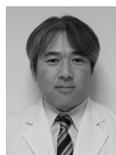
新田 清一



南 修司郎



高橋 優宏



我那覇 章



西山 崇経



大崎 康宏

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：新田 清一（済生会宇都宮病院）

近年、難聴に対する医療として、人工内耳、人工中耳、骨導インプラント、軟骨伝導補聴器などの選択肢が出てきた。また従来の気導補聴器の性能も向上しており、高度難聴に対してもその装用効果を認めることができる。ただ、それぞれの適応がオーバーラップしており、臨床の現場ではどの器機を選択すれば患者にとって最良なのか、悩むことが少なくない。

本セッションでは、まず演者が各人工聴覚器の基本的な適応について紹介する。次に、適応に迷う症例を提示する。各症例において、聴衆に自分の選択を回答してもらう予定である。その後各演者が治療選択の考え方および結果を報告する。明確に適応を決めるのは難しいと思われるので、適応決定における考え方を共有できれば幸いである。

In recent years, several types of auditory implants, such as cochlear implant, middle ear implants, bone anchored hearing aids, etc., have come out. The performance of the air conduction hearing aids has been improved very much. However, we are sometimes confused with the indications of these auditory devices, because their indications overlap each other.

In this session, at first, the panelists will present the basic indication of each auditory implant. Next, the moderator will present the puzzling cases which can be indicated for several auditory implants or hearing aids. In each case, the audience will show their opinions by the answer pads. Finally, the facility of the case will show the result of the treatment. Since it seems difficult to decide on the precise indication, we would like to share the ideas of the process to decide the indications.

—— ネクストジェネレーションセッション 11 ——

騒音性聴覚障害研究の新展開 —病態の最新知見と治療法開発にむけて—

第1会場 (12:55 ~ 13:55)

第3日目 10月12日(土)

モデレーター：水足 邦雄 (防衛医科大学校)

NJ11-1. Cochlear synaptopathy と耳鳴発生メカニズムの解明

演者：水足 邦雄 (防衛医科大学校)

NJ11-2. 騒音性難聴の発症とその予防に対する、転写因子 NRF2 の機能の解明

演者：本蔵 陽平 (東北大学)

NJ11-3. “Hidden hearing loss” の治療法開発にむけて

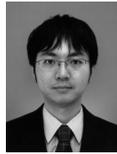
演者：鈴木 淳 (東北大学)



水足 邦雄



本蔵 陽平



鈴木 淳

■企画意図 (The intention of this session) ■

モデレーター：水足 邦雄（防衛医科大学校）

近年、若手医師の基礎研究離れが指摘されているが、このセッションでは実際に基礎研究を続けている我々が、どのような姿勢で耳科学研究を行っているか、研究での困難を克服するための工夫などを若手研究者に伝え共有したい。

近年、騒音性聴覚障害の研究は新しい局面を迎え、「古くて新しい」研究領域となっている。東北大学の本蔵先生から酸化ストレス防御に関わる NRF2 遺伝子に注目して、遺伝子改変マウスを用いた研究がどのようにヒトでの表現型に関わっているかを解説する。さらに騒音性聴覚障害の病態として cochlear synaptopathy という全く新しい概念が 2009 年に提唱され、“hidden hearing loss” とも呼ばれている。この病態について、防衛医大の水足が臨床的な意義、東北大学の鈴木先生が将来的な展望も含めて解説する。

In this session, we aim to share our experiences about basic research for noise-induced hearing loss with young researchers. There are several conceptual changes in noise-induced hearing loss, including the application of genetic study, or introducing cochlear synaptopathy concept. We will discuss these new concepts.

References

Yohei Honkura, Kunio Mizutari, et al., Sci Rep 6: 19329, 2016

Katsui Niwa, Kunio Mizutari et al., Sci Rep 6: 31754, 2016

Jun Suzuki, et al., Sci Rep 6: 24907, 2016

—— Young Award セッション 1 (基礎) ——

第4会場 (14:30 ~ 15:30)

第1日目 10月10日 (木)

座長：岩崎 真一 (東京大学)

福田 智美 (東京慈恵会医科大学)



岩崎 真一



福田 智美

YA1-1. ラット中耳への鼻腔粘膜細胞シート移植モデルの開発：中耳粘膜再生治療の作用機序解明に向けて

演者：森野常太郎 (東京慈恵会医科大学／東京女子医科大学)

YA1-2. 衝撃波管および Laser-induced shock wave による内耳爆傷モデルの病態生理学的差異の比較

演者：木村 栄子 (防衛医科大学校)

YA1-3. 蝸牛器官培養聴神経障害モデルにおける ROCK 阻害薬の効果の検討

演者：小泉 優 (山形大学)

YA1-4. DFNA1 疾患マウスモデルを用いた DIA1 分子の局在と病態メカニズムの解明

演者：二之湯 弦 (京都府立医科大学／神戸大学バイオシグナル総合研究センター
分子薬理分野)

YA1-5. EYA4 遺伝子変異 4 症例から樹立した iPS 細胞由来内耳細胞のストレス脆弱性の検討

演者：松崎佐栄子 (山王病院／慶應義塾大学)

YA1-6. ペンドレット症候群モデルマウスに対する胎生期遺伝子治療

演者：竹田 大樹 (熊本大学)

—— Young Award セッション 2 (臨床) ——

第4会場 (10:30 ~ 11:30)

第2日目 10月11日 (金)

座長：大森 孝一 (京都大学)

神崎 晶 (慶應義塾大学)



大森 孝一



神崎 晶

YA2-1. 小児における外耳道径の年齢変化の検討

演者：渡邊 千尋 (山形大学／山形市立病院済生館)

YA2-2. 当科耳管専門外来を受診した耳管開放症 (確実例) の検討

演者：原 将太 (日本大学)

YA2-3. 好酸球性中耳炎に対する鼓膜形成術

演者：江洲 欣彦 (自治医科大学さいたま医療センター)

YA2-4. 内視鏡下でのアブミ骨筋反射閾値の検討

演者：岡上 雄介 (天理よろづ相談所病院)

YA2-5. 当院におけるCTP検査陽性症例の検討

演者：中野 光花 (河北総合病院)

YA2-6. 人工知能を用いた術後聴力予測システムの開発

演者：小山 一 (近畿大学)

—— 外来処置パネルディスカッション ——

術後の運命は処置で変えられるか —術前後の耳処置とそのキーポイント—

第4会場 (9:00 ~ 10:15)

第3日目 10月12日(土)

司会：細田 泰男 (細田耳鼻科 EAR CLINIC)

OT-1. 耳管機能から見た術後フォロー

演者：細田 泰男 (細田耳鼻科 EAR CLINIC)

OT-2. 術後移植片トラブルへの対処法

演者：河野 浩万 (河野耳鼻咽喉科 Ear Surgi Clinic)

OT-3. 「術後の運命は処置で変えられるか？」・・・

「運命が左右されないような、術後トラブルに対する耳処置とそのための手術」

演者：田邊 牧人 (老木医院 山本中耳サージセンター)

OT-4. 当クリニックでの耳科手術の術前後の処置とその工夫

演者：小西 将矢 (こにし耳鼻咽喉科 Konishi Ear Clinic)

OT-5. 耳漏を止める術前処置の重要性とダウンステー징

演者：松田 圭二 (宮崎大学／まつだ耳鼻咽喉科・宮崎サージクリニック)



細田 泰男



河野 浩万



田邊 牧人



小西 将矢



松田 圭二

■企画意図 (The intention of this session) ■

司会：細田 泰男（細田耳鼻科 EAR CLINIC）

手術の結果を左右する因子として一番に挙げられるのは手術の方法論であり、これまでに様々な術式に対する成績が多数報告されてきた。しかし、実際の臨床の現場では、同じ病態で同じ術者が同じ手術をしても、その後のフォローの違いで異なった結果になることもあり得ると思われる。今回、欠畑誠治耳科学会会長から「オフィスでできる正しい耳処置のやり方、術後のみかた」という点について掘り下げてほしいとの指示を受け、改めて周術期の管理に着目した。これまで術後の観察や耳処置のやり方、患者指導などといった点には光が当てられることが少なく、各術者や施設で独自のスタイルが存在し、共通のコンセンサスを得ているものは少ないように思われる。しかし、通常の術後経過から逸脱した場合の対策など、術後フォローには幾つかの重要なポイントがあると考えられる。また、耳領域の医療事故の20%は診療所での小手術や処置によるもので、このような事象に対する対策についても検討したい。

今回、何が正しいのか結論を出すまではできないにしても、豊富な経験を持つパネリストと共に「術後の耳のみかた」のポイントをまとめ、少しでも明日の臨床に役立つものになりたいと考えている。

—— 外来手術パネルディスカッション ——

耳科領域における外来手術の適応と限界

第4会場 (10:15 ~ 11:30)

第3日目 10月12日(土)

司会：湯浅 有 (仙台・中耳サージセンター)

OS-1. 耳科領域における外来手術の適応と限界 —無床診療所において—

演者：小山 悟 (こやま耳鼻咽喉科)

OS-2. 有床診療所で行う耳科領域の外来手術について

演者：高橋 辰 (高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック)

OS-3. 東京女子医科大学東医療センターの耳科手術の現状と日帰り手術について

演者：貞安 令 (東京女子医科大学東医療センター)



湯浅 有



小山 悟



高橋 辰



貞安 令

■企画意図 (The intention of this session) ■

司会：湯浅 有（仙台・中耳サージセンター）

耳科領域では低侵襲で外来でも施行可能な手術が多く存在するが、最近の医療訴訟件数の増加傾向の影響もあり、本来手術適応となる症例に対しても保存加療に終始する施設が増加している。逆に手術の過大適応や術後対応の不備等により医療問題に発展する症例も存在する。欧米では鼓室形成術や乳突削開術を日帰り手術として施行しているが、10%前後の症例で出血やめまい等による入院が必要となる。このため症例の多くは総合病院に付設された日帰り手術センターで行われており、術後の問題に速やかに対応すべく体制が整備されている。一方日本における一般的な無床診療所では、同じ日帰り手術であっても上記のような手術に際する十分な体制確立は困難である場合が多い。つまり同じ手術であっても、病床の有無などの施設設備やその管理体制によってその適応が異なると考えられる。本パネルディスカッションでは、耳鼻咽喉科単科の無床診療所および有床診療所、そして総合病院というバックグラウンドが異なる施設で勤務されている3名の先生に、それぞれの施設における外来手術の現況と適応、安全性の担保等に関して討論していただく。

—— 聴衆参加型パネルディスカッション ——

顔面神経麻痺 —3Dビデオを観てつけてみよう, 柳原 40点法

第4会場 (12:55 ~ 13:55)

第3日目 10月12日(土)

司会: 萩森 伸一 (大阪医科大学)

稲村 博雄 (いなむら耳鼻咽喉科クリニック)

パネリスト: 濱田 昌史 (東海大学)

松代 直樹 (大阪警察病院)

山田 啓之 (愛媛大学)

阿部 靖弘 (山形大学)

稲垣 彰 (名古屋市立大学)

特別コメンテーター: 柳原 尚明 (愛媛大学名誉教授)

村上 信五 (名古屋市立東部医療センター)

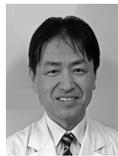
話題提供: 堀 龍介 (天理よろづ相談所病院)



萩森 伸一



稲村 博雄



濱田 昌史



松代 直樹



山田 啓之



阿部 靖弘



稲垣 彰



柳原 尚明



村上 信五



堀 龍介

■企画意図 (The intention of this session) ■

司会：萩森 伸一（大阪医科大学）
稲村 博雄（いなむら耳鼻咽喉科クリニック）

顔面神経麻痺の診療では、麻痺の重症度評価が最も重要である。本邦では顔面表情運動の評価に、柳原40点法が広く使われている。これは安静時の左右対称性と9項目の表情運動をそれぞれ4点（ほぼ正常）、2点（部分麻痺）、0点（高度麻痺）の3段階で評価して合計し40点を満点とする評価法で、簡便かつ予後をある程度推定できる点で優れる。他方、主観による評価者間のばらつきを完全に排除することは難しいが、できるだけ小さくするべきである。本セッションは本邦初の試みとして、顔面神経麻痺患者の表情筋運動を3Dビデオで供覧し、顔面神経診療に経験豊富なパネリストが評価、また聴衆もクリッカー（スマホ）を用いて評価に加わる。そしてその結果について特別コメンテーターに講評をいただく。また客観的評価法として、iPhoneを用いた顔面神経麻痺の評価アプリの開発についても紹介する。本セッションを通じて聴衆の先生方が柳原40点法での評価のコツをつかみ、その結果評価者間のばらつきが小さくなればこの企画は大成功である。是非多くの先生方に聴衆・評価者として参加していただきたい。

—— 教育セミナー 1【耳鼻咽喉科領域講習】 ——

第2会場（10：00～11：00）

第1日目 10月10日（木）

側頭骨手術解剖実習の基礎

演者：平海 晴一（岩手医科大学）



平海 晴一

—— 教育セミナー 2【耳鼻咽喉科領域講習】 ——

第2会場（14：30～15：30）

第1日目 10月10日（木）

顔面神経減荷術

演者：稲垣 彰（名古屋市立大学）



稲垣 彰

—— 教育セミナー 3【耳鼻咽喉科領域講習】 ——

第2会場（8：00～9：00）

第2日目 10月11日（金）

耳小骨形成（アブミ骨手術を含む）

演者：羽藤 直人（愛媛大学）



羽藤 直人

—— 教育セミナー 4【耳鼻咽喉科領域講習】 ——

第2会場（9：30～10：30）

第2日目 10月11日（金）

人工聴覚器手術

演者：野口 佳裕（国際医療福祉大学）



野口 佳裕

—— 教育セミナー 5【耳鼻咽喉科領域講習】 ——

第2会場（11：35～12：35）

第2日目 10月11日（金）

上半規管裂隙症候群，内耳瘻孔，外リンパ瘻の手術

演者：山内 大輔（東北大学）



山内 大輔

—— 教育セミナー 6【耳鼻咽喉科領域講習】 ——

第2会場（14：35～15：35）

第2日目 10月11日（金）

外耳道削除型鼓室形成術

演者：山本 裕（東京慈恵会医科大学）



山本 裕

—— 教育セミナー 7【耳鼻咽喉科領域講習】 ——

第2会場 (9:00 ~ 10:00)

第3日目 10月12日(土)

TEES

演者：伊藤 吏 (山形大学)



伊藤 吏

—— 教育セミナー 8【耳鼻咽喉科領域講習】 ——

第2会場 (10:15 ~ 11:15)

第3日目 10月12日(土)

外耳道後壁保存型鼓室形成術

演者：我那覇 章 (宮崎大学)



我那覇 章

—— 海外勤務セッション ——

My story as a Japanese ENT surgeon in the US medical society

第6会場 (9:30 ~ 10:30)

第3日目 10月12日 (土)

司会：池田 勝久 (順天堂大学)

FS-1. My experience as a Neurotologist in the US at UCLA School of Medicine

演者：石山 明 (UCLA School of Medicine, USA)

FS-2. 最近の米国耳鼻科事情：日本人の視点から

演者：牧嶋 知子 (テキサス大学メディカルブランチ)



池田 勝久



石山 明



牧嶋 知子

—— 受賞講演 ——

第1会場 (16:50 ~ 17:15)

第2日目 10月11日 (金)

司会：村上 信五 (名古屋市立東部医療センター)

羽藤 直人 (愛媛大学)

第2回日本耳科学会賞受賞者講演

幹細胞生物学と霊長類モデルを用いた内耳性難聴の治療法開発

演者：藤岡 正人 (慶應義塾大学)

第25回日本耳科学会奨励賞受賞者講演

数値解析に基づいた耳小骨固着部位判定法の検討

演者：李 信英 (電気通信大学 情報理工学研究科 / 日本学術振興会特別研究員)



村上 信五



羽藤 直人



藤岡 正人



李 信英

—— 会長講演 ——

第1会場 (17:30 ~ 17:55)

第1日目 10月10日 (木)

Ear Surgery - Now and in the Future

司会：村上 信五 (名古屋市立東部医療センター)

演者：欠畑 誠治 (山形大学)



村上 信五



欠畑 誠治

—— 共通講習 1 (倫理) 【専門医共通講習】 ——

第 1 会場 (17:45 ~ 18:45)

第 2 日目 10 月 11 日 (金)

司会：大森 孝一 (京都大学)

日常診療での医療倫理

演者：高橋 晴雄 (長崎みなとメディカルセンター)



大森 孝一



高橋 晴雄

—— 共通講習 2 (感染) 【専門医共通講習】 ——

第 1 会場 (14:00 ~ 15:00)

第 3 日目 10 月 12 日 (土)

司会：大島 猛史 (日本大学)

宿主病原体相互関係より考える感染症治療

演者：保富 宗城 (和歌山県立医科大学)



大島 猛史



保富 宗城

—— スイーツセミナー ——

第2会場 (15:45 ~ 16:45)

第2日目 10月11日 (金)

(共催：途上国耳科手術支援事業 (SPIO 承認))

司会：小川 郁 (慶應義塾大学)

6年間のブータン王国における耳科手術支援事業 (SPIO 承認) を終えて

演者：湯浅 涼 (仙台・中耳サージセンター)



小川 郁



湯浅 涼

—— ランチョンセミナー 1 ——

ヘッドアップサージャリーによる耳科手術 ～4K 3D イメージングがもたらす新たな可能性～

第1会場 (13:15 ~ 14:05)

第1日目 10月10日 (木)

(共催：オリンパス株式会社)

司会：小島 博己 (東京慈恵会医科大学)

LS1-1. 手術用顕微鏡システム ORBEYE (オーブアイ) の耳科手術に対する使用経験

演者：柿木 章伸 (神戸大学)

LS1-2. ORBEYE 使用経験 臨床上の有用性

演者：堤 剛 (東京医科歯科大学)



小島 博己



柿木 章伸



堤 剛

—— ランチョンセミナー 2 ——

第2会場 (13:15 ~ 14:05)

第1日目 10月10日 (木)

(共催: 株式会社モリタ製作所)

司会: 東野 哲也 (宮崎大学)

LS2. 移動式コーンビーム CT の耳科手術中における活用

演者: 山本 典生 (京都大学)



東野 哲也



山本 典生

—— ランチョンセミナー 3 ——

第4会場 (13:15 ~ 14:05)

第1日目 10月10日 (木)

(共催: メドエルジャパン株式会社)

司会: 宇佐美真一 (信州大学)

LS3. Cochlear Implantation: Pushing the Envelope

演者: George B. Wanna (New York Eye and Ear and Beth Israel of Mount Sinai, USA)



宇佐美真一



George B.
Wanna

—— ランチョンセミナー 4 ——

エキスパートに学ぶ手術用顕微鏡を用いた耳科手術

第5会場 (13:15 ~ 14:05)

第1日目 10月10日 (木)

(共催：カールツァイスメディテック株式会社)

司会：阪上 雅史 (兵庫医科大学)

LS4-1. 顕微鏡下中耳手術の若手教育

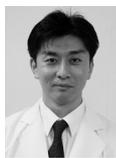
演者：大石 直樹 (慶應義塾大学)

LS4-2. 経外耳道的アプローチによる耳科手術

演者：湯浅 有 (仙台・中耳サージセンター)



阪上 雅史



大石 直樹



湯浅 有

—— ランチョンセミナー 5 ——

第6会場 (13:15 ~ 14:05)

第1日目 10月10日 (木)

(共催：グラクソ・スミスクライン株式会社)

司会：藤枝 重治 (福井大学)

LS5. 難治性中耳炎治療の工夫と課題—I型アレルギーとの関連も含めて—

演者：山田武千代 (秋田大学)



藤枝 重治



山田武千代

—— ランチョンセミナー 6 ——

第1会場 (12:50 ~ 13:40)

第2日目 10月11日(金)

(共催: 株式会社日本コクレア)

司会: 伊藤 壽一 (滋賀県立総合病院研究所)

**LS6. The Electro-Neural Interface: Perimodiolar Electrodes in Cochlear
Implantation**

演者: Blake C. Papsin (Hospital for Sick Children, Canada)



伊藤 壽一



Blake C.
Papsin

—— ランチョンセミナー 7 ——

第2会場 (12:50 ~ 13:40)

第2日目 10月11日(金)

(共催: ノーベルファーマ株式会社)

司会: 高橋 晴雄 (長崎みなとメディカルセンター)

LS7. スタンダードな治療へ進化する鼓膜再生療法 鼓膜再生療法の使用上の注意点とそのコツ

演者: 金丸 眞一 (北野病院/先端医療振興財団 臨床研究情報センター)



高橋 晴雄



金丸 眞一

—— ランチョンセミナー 8 ——

第4会場 (12:50 ~ 13:40)

第2日目 10月11日 (金)

(共催：カールストルツ・エンドスコーピー・ジャパン株式会社)

司会：池園 哲郎 (埼玉医科大学)

LS8. VITOM[®] 3D 外視鏡を用いた Heads-up Ear Surgery

演者：蓑田 涼生 (熊本総合病院)



池園 哲郎



蓑田 涼生

—— ランチョンセミナー 9 ——

第5会場 (12:50 ~ 13:40)

第2日目 10月11日 (金)

(共催：日本メドトロニック株式会社)

司会：飯野ゆき子 (東京北医療センター)

LS9. 側頭骨手術における Stealth Station ENT[™] の「九大式」使い方

演者：松本 希 (九州大学)



飯野ゆき子



松本 希

—— ランチョンセミナー 10 ——

第6会場 (12:50 ~ 13:40)

第2日目 10月11日 (金)

(共催: 日本光電工業株式会社)

司会: 土井 勝美 (近畿大学)

LS10. Relationship Between Cochlear Implant Electrode Positioning and Hearing Outcomes

演者: Alejandro Rivas (Vanderbilt University Medical Center, USA)



土井 勝美



Alejandro Rivas

—— ランチョンセミナー 11 ——

メディカルイラストレーション講座～伝わる手術記録～

第1会場 (11:45 ~ 12:35)

第3日目 10月12日 (土)

(共催: マキチエ株式会社)

司会: 小川 郁 (慶應義塾大学)

LS11-1. 手術記録における手術イラストの役割とその描き方

演者: 馬場 元毅 (東埼玉総合病院附属清地クリニック 脳神経外科)

LS11-2. 手術記録イラストレーション～デジタルの立場から～

演者: 二井 一則 (山形県立中央病院)

Commentator: Daniele Marchioni (University of Verona, Italy)



小川 郁



馬場 元毅



二井 一則



Daniele Marchioni

—— ランチョンセミナー 12 ——

第2会場 (11:45 ~ 12:35)

第3日目 10月12日 (土)

(共催: 富士フイルム富山化学株式会社)

司会: 村上 信五 (名古屋市立東部医療センター)

LS12. 薬剤耐性 (AMR) アクションプランに基づく急性中耳炎治療

演者: 保富 宗城 (和歌山県立医科大学)



村上 信五



保富 宗城

—— ランチョンセミナー 13 ——

第4会場 (11:45 ~ 12:35)

第3日目 10月12日 (土)

(共催: 第一医科株式会社)

司会: 武田 憲昭 (徳島大学)

LS13. メニエール病の段階的治療—中耳加圧装置による中耳加圧治療を中心に—

演者: 將積日出夫 (富山大学)



武田 憲昭



將積日出夫

—— ランチョンセミナー 14 ——

難治性中耳炎の新展開

第5会場 (11:45 ~ 12:35)

第3日目 10月12日(土)

(共催: 大鵬薬品工業株式会社)

司会: 原 潤 保明 (旭川医科大学)

LS14-1. 難治性中耳炎の診断のポイントと ANCA 関連血管炎性中耳炎 (OMAAV) の病態

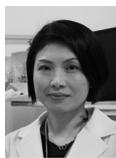
演者: 森田 由香 (新潟大学)

LS14-2. 難治性中耳炎の治療

演者: 吉田 尚弘 (自治医科大学附属さいたま医療センター)



原 潤 保明



森田 由香



吉田 尚弘

—— Dr.BABA のメディカルイラストレーションセミナー ——

第 6 会場 (13:00 ~ 15:00)

第 3 日目 10 月 12 日 (土)

司会：神崎 晶 (慶應義塾大学)

苦手なイラスト描画を克服し、短時間で手術イラストを完成させるために

講師：馬場 元毅 (東埼玉総合病院附属清地クリニック 脳神経外科)



神崎 晶



馬場 元毅

—— 英語論文ワークショップ ——

第 6 会場 (10:30 ~ 11:30)

第 3 日目 10 月 12 日 (土)

(共催：英文校正エナゴ)

司会：竹野 幸夫 (広島大学)

Academic Writing : The Human Face of Your Research

あなたの英語論文を磨くための 10 の原則

講師：Ron Read (Human Global Communications Co., Ltd.)



竹野 幸夫



Ron Read

—— 居合道入門 ——

第5会場（12：55～13：55）

第3日目 10月12日（土）

司会：佐藤 宏昭（岩手医科大学）

武士道精神に基づく思考による欠損と不足を補う侍の身体操法について

演者：阿部 吉宏（阿部派一刀流）



佐藤 宏昭



阿部 吉宏

—— 用語委員会報告 ——

第7会場 (9:10 ~ 10:30)

第3日目 10月12日(土)

司会：山本 裕 (東京慈恵会医科大学)

1. 中耳炎症性疾患に関する用語をめぐる諸問題

進行：伊藤 真人 (自治医科大学とちぎ子ども医療センター)

2. 国際術式分類と本邦の術式分類との整合性について

進行：東野 哲也 (宮崎大学)

—— 人工聴覚器ワーキンググループ報告 ——

人工聴覚器の適応拡大に向けて

第7会場 (12:55 ~ 13:55)

第3日目 10月12日(土)

WG 座長：岩崎 聡 (国際医療福祉大学三田病院)

司会：岩崎 聡 (国際医療福祉大学三田病院)

—— 国内学術委員会セッション I ——

第7会場 (10:30 ~ 11:40)

第3日目 10月12日(土)

① 耳科手術に関わる QOL 評価ワーキンググループ報告

WG 座長：神崎 晶 (慶應義塾大学)

司会：東野 哲也 (宮崎大学 / WG 理事)

1. 手術と QOL について

演者：神崎 晶 (慶應義塾大学)

2. COMQ の国際比較について

演者：Matthew Yung (Ipswich Hospital, United Kingdom)

② CI2004 の標準化と人工聴覚器成績評価検査検討ワーキンググループ報告

WG 座長：東野 哲也（宮崎大学）

司会：東野 哲也（宮崎大学）

宇佐美真一（信州大学）

1. 本邦における語音評価検査法の歴史

演者：城間 将江（国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科）

2. CI2004 の概要

演者：井脇 貴子（愛知淑徳大学 健康医療科学部 医療貢献学科 言語聴覚学専攻）

3. CI2004 と 67-S・57-S 語表との成績比較

演者：松田 悠祐（鹿児島市立病院）

4. CI2004 を用いた標準化研究結果と iCI2004 アプリの開発

演者：西尾 信哉（信州大学）

③ 薬剤性難聴ワーキンググループ報告

薬剤性難聴の予防に向けて

WG 座長：宇佐美真一（信州大学）

司会：宇佐美真一（信州大学）

1. ミトコンドリア遺伝子変異による難聴症例

演者：佐々木 亮（弘前大学）

2. ミトコンドリア遺伝子変異の迅速スクリーニング検査

演者：西尾 信哉（信州大学）

井坂 友一（信州大学）

3. 東北メガバンク遺伝情報回付事業における取り組み

演者：平塚 真弘（東北大学大学院 薬学研究科）

—— 国内学術委員会セッションⅡ ——

側頭骨形態学セッション

第7会場 (13:55 ~ 14:55)

第3日目 10月12日(土)

①側頭骨手術手技研修ワーキンググループ報告

WG 座長：羽藤 直人 (愛媛大学)
司会：平海 晴一 (岩手医科大学)

本邦における耳科 **cadaver surgical training (CST)** の現状

演者：羽藤 直人 (愛媛大学)
山本 裕 (東京慈恵会医科大学)
山本 典生 (京都大学)

②側頭骨組織病理研究教育ワーキンググループ報告

WG 座長：萩森 伸一 (大阪医科大学)
司会：萩森 伸一 (大阪医科大学)

1. 耳科手術に役立つヒト側頭骨組織解剖と病理

演者：假谷 伸 (岡山大学 / WG 副座長)

2. 世界におけるヒト側頭骨組織病理研究の潮流

—International Otopathology Meeting からの報告

演者：喜多村 健 (湘南医療大学 / WG アドバイザー)

3. 人工内耳埋込後の **Cogan** 症候群の内耳組織病理学的所見

演者：鎌倉 武史 (大手前病院)

4. 側頭骨病理で半規管膨大部の感覚上皮下に堆積層を認めた3症例について

—加齢の影響について—

演者：岡安 唯 (奈良県立医科大学 / Harvard 大学 Massachusetts Eye and Ear Infirmary)

—— 初めての耳科学会セッション 1 ——

第5会場（10：00～11：00）

第1日目 10月10日（木）

座長：黒野 祐一（鹿児島大学）
坂本 達則（京都大学）

FG1-1. 外耳道真珠腫手術症例の検討
演者：葛目 雅弓（高知大学）

FG1-2. 外耳道真珠腫に対する治療方針の検証
演者：栃木 康佑（獨協医科大学埼玉医療センター）

FG1-3. 鼓室形成術の既往のない鼓膜真珠腫9症例
演者：水野 敬介（神戸市立医療センター中央市民病院）

FG1-4. 当科における接着法での鼓膜形成術の検討
演者：坂本 めい（山口大学）

FG1-5. 電子ファイバースコープシステムを用いた外来診療での鼓膜切開術・鼓膜換気チューブ挿入術
演者：小林 正佳（三重大学）

FG1-6. 臨床からサイエンスへ サイエンスから臨床へ—鼓膜の持つ3つの機能—
演者：村上 力夫（村上医院）

—— 初めての耳科学会セッション 2 ——

第5会場 (11:00 ~ 12:00)

第1日目 10月10日 (木)

座長：兵頭 政光 (高知大学)

佐々木 亮 (弘前大学)

FG2-1. 内耳梅毒の一例

演者：岡 智哉 (愛媛大学)

FG2-2. MRI 検査の騒音に起因した急性音響性難聴の3例

演者：鈴木 英佑 (大阪医科大学)

FG2-3. 突発性難聴における初療機関選定による患者背景と治療成績の比較

演者：阿河 光治 (金沢大学／富山県立中央病院)

FG2-4. 極めて希少な遺伝子の病原性バリエーションが原因として疑われた難聴の1家系

演者：橋本 陽介 (東京医療センター)

FG2-5. 一般地域住民に対する調査による騒音性難聴の検討

—岩木健康増進プロジェクトにおける検討—

演者：三浦 栞 (弘前大学)

FG2-6. 慢性中耳炎による内耳への影響の評価

演者：古木 省吾 (北里大学)

—— 初めての耳科学会セッション 3 ——

第5会場 (12:00 ~ 13:00)

第1日目 10月10日 (木)

座長：折館 伸彦 (横浜市立大学)

片岡 祐子 (岡山大学)

FG3-1. 術中に鼓索神経を断端吻合し味覚機能回復を認めた2症例

演者：西村 理宇 (兵庫医科大学)

FG3-2. 真珠腫性中耳炎による顔面神経麻痺の3例

演者：松山 尚平 (奈良県総合医療センター)

FG3-3. 当科で経験した人工内耳埋込術後の遅発性顔面神経麻痺の一例

演者：石川 雄惟 (さいたま市立病院)

FG3-4. 耳科手術における手術操作と鼓索神経機能の術前後での検討

演者：福田 雅俊 (大阪大学)

FG3-5. 聴神経腫瘍術後における味覚低下の経時的評価

演者：大澤孝太郎 (筑波大学)

FG3-6. 当科における顔面神経麻痺症例の年齢別治療予後の検討

演者：藤川 直也 (北里大学)

—— 初めての耳科学会セッション 4 ——

第5会場（14：30～15：30）

第1日目 10月10日（木）

座長：梅野 博仁（久留米大学）

小田桐恭子（東海大学）

FG4-1. 顔面神経麻痺発症で診断に至った顔面神経神経線維腫に対し減荷術のみ施行した1例

演者：山本 光（東海大学八王子病院）

FG4-2. 短期間で両側の末梢性顔面神経麻痺（Bell 麻痺）と突発性難聴をきたした1症例

演者：岡村 誠司（祐愛会織田病院）

FG4-3. 発症から3か月を経過して顔面神経減荷術を施行した顔面神経麻痺症例

演者：齋川雄一郎（順天堂大学練馬病院）

FG4-4. ハント症候群に伴うめまいに関する検討

演者：白倉 典宏（日本医科大学）

FG4-5. 麻痺スコアと Electroneurography(ENoG) からみた末梢性顔面神経麻痺の予後

演者：野呂 恵起（大阪医科大学）

FG4-6. iPhone を用いた顔面神経麻痺評価アプリの開発

演者：長谷部孝毅（天理よろづ相談所病院）

—— 初めての耳科学会セッション 5 ——

第 5 会場 (15:40 ~ 16:40)

第 1 日目 10 月 10 日 (木)

座長：橋本 省 (仙台医療センター)
大谷真喜子 (和歌山県立医科大学)

FG5-1. 両側顔面神経麻痺をきたしたマイコプラズマ性中耳炎の一例

演者：吉田 興平 (横浜市立大学医学部附属病院)

FG5-2. 第 8 脳神経血管圧迫症候群と考えられた 2 症例

演者：千葉 裕人 (東京医科大学)

FG5-3. MRI 評価にて後半規管膨大部領域の内リンパ腔拡張を呈する症例の検討

演者：森岡 優 (名古屋大学／西尾市民病院)

FG5-4. 内リンパ嚢開放術直後のめまい回復期における自覚的視性垂直位検査所見の推移

演者：塩崎 智之 (奈良県立医科大学)

FG5-5. 感音難聴, 眩暈を認めなかった CTP 陽性の外傷性鼓膜穿孔症例

演者：米谷 公佑 (河北総合病院)

FG5-6. 当科における耳管ピン挿入術を施行した耳管開放症症例の検討

演者：河野 航 (日本大学)

—— 初めての耳科学会セッション 6 ——

第5会場 (8:00～9:00)

第2日目 10月11日(金)

座長：岩井 大 (関西医科大学)
金沢 弘美 (さいたま市民医療センター)

FG6-1. 緊張部型と弛緩部型真珠腫の合併が疑われた慢性中耳炎の1例
演者：西本 仁 (関西医科大学)

FG6-2. 小児の癒着性中耳炎に対する経外耳道的鼓室換気チューブ挿入術
演者：松下 大佑 (弘前大学)

FG6-3. 外リンパ瘻を生じた乳突腔障害に対し充填型中耳根本術を施行した1例
演者：上野 真史 (けいゆう病院)

FG6-4. 中耳炎を初発症状とした内頸動脈における血管炎例
演者：小松原靖聡 (姫路赤十字病院)

FG6-5. アブミ骨底板形成についての考察：耳小骨奇形の2症例
演者：石田 宏規 (京都大学)

FG6-6. アブミ骨手術の術後気骨導差に影響を与える因子についての検討
演者：藤田 裕人 (日本生命病院)

—— 初めての耳科学会セッション 7 ——

第5会場 (9:30 ~ 10:30)

第2日目 10月11日 (金)

座長：清水 猛史 (滋賀医科大学)
平海 晴一 (岩手医科大学)

FG7-1. 真珠腫性中耳炎の術後聴力と人工聴覚器への適応候補について

演者：近藤 悠子 (東京慈恵会医科大学)

FG7-2. 両側外耳道閉鎖症に対する人工中耳 (Vibrant Soundbridge:VSB) の一症例

演者：浜島 智秀 (茅ヶ崎中央病院)

FG7-3. 1.5TMRI 撮影により体内受信器のマグネットが逸脱した人工内耳装用 2 症例

演者：甲田 研人 (虎の門病院)

FG7-4. 人工内耳装用下で MRI 撮像を行った 4 症例

演者：長原 佳菜 (京都医療センター)

FG7-5. 当科での軟骨伝導補聴器の装用・評価の報告

演者：宮倉 裕也 (東北大学)

FG7-6. 没入型バーチャルリアリティ用いた側頭骨モデルの可能性

演者：山崎あやめ (東京医科歯科大学)

—— 初めての耳科学会セッション 8 ——

第5会場 (10:30～11:30)

第2日目 10月11日(金)

座長：坂田 英明 (川越耳科学クリニック)

高橋 辰 (高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック)

FG8-1. 自然消退した先天性真珠腫の3例

演者：川北 憲人 (滋賀医科大学)

FG8-2. TEES が有用であった両側先天性真珠腫に対する同時手術の2例

演者：上田 隆 (神戸大学)

FG8-3. 術前 non-EPI DWI MRI による真珠腫診断の検討

演者：田村 啓一 (日本赤十字社和歌山医療センター)

FG8-4. 耳垢腺腫瘍の2例

演者：石田航太郎 (聖隷横浜病院)

FG8-5. めまいを主訴に受診した外耳道悪性腫瘍症例

演者：大木 洋佑 (日本大学)

FG8-6. 顔面神経麻痺, めまい, 外耳道皮膚浸潤病変を呈した成人 T 細胞性白血病の1例

演者：廣田薫瑠子 (熊本大学)

—— 初めての耳科学会セッション 9 ——

第5会場 (11:35 ~ 12:35)

第2日目 10月11日 (金)

座長：志賀 清人 (岩手医科大学)
塚原 清彰 (東京医科大学)

FG9-1. 中耳顔面神経血管腫の1症例

演者：山野邊義晴 (東京医療センター)

FG9-2. 語音明瞭度低下で発症した頸静脈孔神経鞘腫の1例

演者：橘 茜 (東京警察病院)

FG9-3. S状静脈洞後方に発生した側頭骨類上皮腫の1例

演者：西山 潤 (横浜市東部病院)

FG9-4. 当科で経験した中耳神経内分泌腫瘍の1例

演者：大江 健吾 (大阪赤十字病院)

FG9-5. 中耳腺腫の1例

演者：御任 一光 (群馬大学)

FG9-6. 顔面神経鞘腫との鑑別が困難であった唾液腺基底細胞癌の1症例

演者：山野邊義晴 (慶應義塾大学)

—— 初めての耳科学会セッション 10 ——

第5会場 (14:00 ~ 15:00)

第2日目 10月11日 (金)

座長：星川 広史 (香川大学)

岡野 高之 (京都大学)

FG10-1. 好酸球性中耳炎モデルにおける CD11c 陽性樹状細胞の免疫組織学的検討

演者：原 隆太郎 (弘前大学)

FG10-2. 家兎外耳道上皮剥離モデルに対する自己由来口腔粘膜上皮細胞シート移植による治療効果の検討

演者：稲垣 太朗 (聖マリアンナ医科大学)

FG10-3. Daple の欠損は平面細胞極性と上皮面細胞骨格の構築に異常を示し、難聴をもたらす

演者：大藪 芳之 (市立東大阪医療センター)

FG10-4. 蝸牛ギャップ結合を指標とした加齢性難聴の初期病態解析

演者：田島 勝利 (順天堂大学)

FG10-5. BALB/c 亜系統を用いた新規難聴遺伝子の探索

演者：安田 俊平 (東京都医学総合研究所 哺乳類遺伝プロジェクト)

FG10-6. Gne V572L 点変異マウスにおける聴覚障害の病態

演者：康本 明吉 (京都大学)

一般演題

第1日目 10月10日(木)

第3会場 午前

【一般演題(口演)】

第1群(外耳・中耳基礎1)(10:00～11:00)

座長:室伏 利久

(帝京大学医学部附属溝口病院)

山本 和央

(東京慈恵会医科大学)

O1-1. 中耳真珠腫母膜増殖機構の解析:部分的上皮間葉移行の可能性

福田 智美, 他(東京慈恵会医科大学)

O1-2. ラット中耳陰圧モデル鼓膜上皮および中耳真珠腫上皮におけるILK-YAPシグナルの解析

穂山直太郎, 他

(東邦大学医療センター大橋病院)

O1-3. 16Sメタゲノム解析による真珠腫性中耳炎と慢性中耳炎の菌叢の多様性の比較

藤川 太郎, 他(東京医科歯科大学)

O1-4. インフルエンザウイルス重感染による肺炎球菌性中耳炎発症に関する基礎的検討

河野 正充, 他(和歌山県立医科大学)

O1-5. なぜ中耳炎によって難聴になっていくのか—動物中耳炎モデルにおける破骨細胞の発現について—

神崎 晶, 他(慶應義塾大学)

O1-6. なぜ中耳炎で骨が溶解するのか—中耳炎モデルにおける耳小骨の破骨細胞の解析—

神崎 晶, 他(慶應義塾大学)

【一般演題(口演)】

第2群(外耳・中耳基礎2)(11:00～11:50) 座長:岩崎 真一(東京大学)
角南貴司子(大阪市立大学)

- O2-1. Down 症児の中耳における側頭骨病理所見
野垣 岳稔, 他(昭和大学藤が丘病院)
- O2-2.earable 計測機を用いた最大開口量と外耳道運動についての検討
山野 貴史, 他(福岡歯科大学)
- O2-3. 耳小骨可動性の定量化:コンプライアンスの計測
小池 卓二, 他
(電気通信大学 機械知能システム学専攻)
- O2-4. 中耳有限要素モデルを用いたアブミ骨固着時における触診方向の検討
李 信英, 他
(電気通信大学 情報理工学研究科)
- O2-5. 医学部5年生に対する臨床解剖実習の有効性の検討
福島 久毅, 他(川崎医科大学)

【一般演題(口演)】

第3群(画像・手術支援機器)(11:50～13:00) 座長:春名 真一(獨協医科大学)
阿部 靖弘(山形大学)

- O3-1. 手術体位での矢状断 CT 画像の手術プランニングへの活用
門脇 嘉宣, 他(大分大学)
- O3-2. 3次元画像解析システムを利用した中耳手術における顔面神経と外側半規管の解剖学的解析
西崎 和則, 他(岡山大学)
- O3-3. 側頭骨 CT を用いた鼓室洞の計測:先天性外耳道閉鎖例における検討
後藤 隆史, 他(宮崎大学)
- O3-4. 一側小耳症における顔面神経並びにアブミ骨筋の走行の検討
日高 浩史, 他(関西医科大学)
- O3-5. 新しい Heads up Surgery 外視鏡耳科手術の長所と短所は何か?—顕微鏡と比較, 脳外科医の評価と比較—
神崎 晶, 他(慶應義塾大学)
- O3-6. 硬性内視鏡と VITOM 3-D 外視鏡を用いた Heads-up Cholesteatoma Surgery
蓑田 涼生(熊本総合病院)
- O3-7. 耳科手術における次世代型 O-arm ナビゲーション手術の有用性
伊藤 卓, 他(東京医科歯科大学)

第4会場 午前

【一般演題(口演)】

第4群(聴覚障害1)(11:00～11:50)

座長:鈴木 秀明(産業医科大学)

田淵 経司(筑波大学)

- O4-1. 予後不良因子を伴った突発性難聴に対するステロイド鼓室内投与療法の効果
鈴木 秀明, 他(産業医科大学)
- O4-2. 突発性難聴に対する鼓室内注入併用全身ステロイド療法
平賀 良彦, 他(静岡赤十字病院)
- O4-3. 突発性難聴に対するステロイドホルモン治療法別の各群における治療効果の比較
細川 誠二, 他(浜松医科大学)
- O4-4. 経鼓膜的鼓室内注入療法に関するアンケート集計結果報告
岡田 昌浩, 他(愛媛大学)
- O4-5. 突発性難聴に対して発症後早期から高気圧酸素治療を組み入れた当科治療プロトコールの有用性
杉浦 真(公立陶生病院)

【一般演題(口演)】

第5群(聴覚障害2)(11:50～12:40)

座長:鈴木 正志(大分大学)

曾根三千彦(名古屋大学)

- O5-1. 突発性難聴の予後予測因子の検討—治癒の予測について—
島貫茉莉江, 他(済生会宇都宮病院)
- O5-2. 突発難聴小児例の検討
相馬 裕太, 他(昭和大学)
- O5-3. 突発性難聴におけるFLAIR画像の定量的計測と聴力予後の関係
楊 承叡, 他(名古屋大学)
- O5-4. 耳鳴治療に対する漢方薬の使用経験
佐藤 輝幸(大曲厚生医療センター)
- O5-5. 混合難聴の伝音成分が語音明瞭度に与える影響について
栗岡 隆臣, 他(北里大学)

第6会場 午前

【一般演題(口演)】

第6群(真珠腫1)(10:00～11:00)

座長：福島 典之(県立広島病院)

稲垣 太郎(東京医科大学)

O6-1. 弛緩部型真珠腫に対する外耳道保存型鼓室形成術の有用性

福永 陽子, 他(帝京大学溝口病院)

O6-2. 中耳腔の含気が再形成, 聴力成績に与える影響について—弛緩部型真珠腫での検討—

茂木 雅臣, 他(東京慈恵会医科大学)

O6-3. 弛緩部型真珠腫性中耳炎に対する骨パテと薄切軟骨を使用した乳突腔充填術

田中 健, 他(神尾記念病院)

O6-4. 経外耳道的内視鏡下耳科手術での弛緩部型真珠腫における scutumplasty の検討

上塚 学, 他(大阪労災病院)

O6-5. 当科における弛緩部型真珠腫症例の検討

林 亮, 他(山梨大学)

O6-6. 当院の弛緩部型真珠腫新鮮例に対する鼓室形成術 III 型の治療成績

佐藤 進一, 他(倉敷中央病院)

【一般演題(口演)】

第7群(真珠腫2)(11:00～12:00)

座長：柿木 章伸(神戸大学)

内田 真哉(京都第二赤十字病院)

O7-1. 緊張部型真珠腫に対する外耳道保存型鼓室形成術の有用性

白馬 伸洋, 他(帝京大学溝口病院)

O7-2. 蝸牛瘻孔を伴った緊張部型真珠腫の一例

岡崎 鈴代, 他(大阪市立総合医療センター)

O7-3. 先天性真珠腫における遺残性再発リスク因子と術式選択の境界線

菊地 大介, 他(福島県立医科大学)

O7-4. 先天性真珠腫の臨床的特徴と術後成績

田中 康広, 他

(獨協医科大学埼玉医療センター)

O7-5. 内視鏡下耳科手術を行った二次性真珠腫症例の検討

宮下 武憲, 他(香川大学)

O7-6. 当科における二次性真珠腫の頻度と治療成績

松井 祐興, 他(山形大学)

【一般演題(口演)】

第8群(真珠腫3)(12:00～13:00)

座長: 田中 康広

(獨協医科大学埼玉医療センター)

小森 正博(高知大学)

- O8-1. 手術待機中に急激な骨導聴力の悪化を認めた真珠腫外側半規管瘻孔の1例
木下 慎吾, 他(上尾中央総合病院)
- O8-2. 真珠腫性中耳炎手術症例における内耳瘻孔の検討
小田桐恭子, 他(東海大学)
- O8-3. 当科における中耳真珠腫 Stage3 症例の検討
赤澤 幸則, 他(琉球大学)
- O8-4. 当院における口蓋裂を合併した真珠腫性中耳炎の検討
和田 忠彦, 他(関西電力病院)
- O8-5. ティンパノグラムと真珠腫性中耳炎の術後鼓膜再陥凹
遠藤 志織, 他(浜松医科大学)
- O8-6. 真珠腫性中耳炎術後の長期経過—再発を中心に—
裕田 猛真, 他(りんくう総合医療センター)

第7会場 午前

【一般演題(口演)】

第9群(聴覚障害3)(10:00～11:10)

座長:川瀬 哲明(東北大学)

内田 育恵(愛知医科大学)

- O9-1. 健常者に対する言葉の抑揚と言語理解の関連・脳機能の測定
神田 裕樹, 他(大阪市立大学)
- O9-2. 左半球の聴皮質あるいは聴放線損傷例の語音聴力検査所見について
穂吉 亮平, 他(東京医療センター)
- O9-3. 中枢における聴覚認知機能イメージング
浦田 真次, 他(東京大学)
- O9-4. 超高齢社会の耳鼻咽喉科外来での, 感音難聴患者の統計
前田 幸英, 他(岡山大学)
- O9-5. 東京都港区医師会独自事業「高齢者難聴早期発見のための無料聴力検診」第1報
望月 義也, 他(耳鼻咽喉科望月医院)
- O9-6. 認知症予防のための聴覚検診～1101症例の検討～
中澤 宏, 他(西東京市医師会)
- O9-7. 思春期の一側性難聴児の学校生活における問題の検討
片岡 祐子, 他(岡山大学)

【一般演題(口演)】

第10群(補聴器)(11:10～12:00)

座長:仲野 敦子(千葉県こども病院)

高橋真理子(愛知学院大学)

- O10-1. 骨導補聴器の装用が困難であったクルーゾン症候群児に対し, 軟骨伝導補聴器で良好な補聴が得られた1例
白倉 真之, 他(東北大学)
- O10-2. 当科における軟骨伝導補聴器使用の現状
浜本 真一, 他(川崎医科大学)
- O10-3. 当院における片耳難聴症例に対する軟骨伝導補聴器使用の経験
宮田 遼, 他(札幌医科大学)
- O10-4. 軟骨伝導補聴器の対象症例と装用効果についての検討
西村 忠己, 他(奈良県立医科大学)
- O10-5. 認知機能障害を伴う難聴患者に対する補聴器装用効果の検討
清水 謙祐, 他(建悠会吉田病院)

【一般演題(口演)】

第11群(人工聴覚器)(12:00～12:40)

座長: 佐藤 宏昭(岩手医科大学)

松田 圭二(宮崎大学)

O11-1. 皮下組織を保存した Baha 手術の3例

我那覇 章, 他(宮崎大学)

O11-2. 当科における Vibrant Soundbridge (VSB) 症例の検討

山田 悠祐, 他(宮崎大学)

O11-3. 先天性外耳道閉鎖症に対する人工中耳 VSB 症例の検討

高橋 優宏, 他(国際医療福祉大学三田病院)

O11-4. Vibrant Soundbridge 術後にインプラント抜去を要した二例の臨床的検討

森 安仁, 他(近畿大学)

第8会場 午前

【一般演題(口演)】

第12群(症例1)(10:00～11:00)

座長:西崎 和則(岡山大学)

竹内 万彦(三重大学)

- O12-1. 両側上下前庭神経系機能の同時障害を認めた急性両側前庭機能障害の一例
一條研太郎, 他(東京大学)
- O12-2. 梅毒により急性感音難聴, めまい, 顔面神経麻痺を生じた一症例
佐々木 亮, 他(弘前大学)
- O12-3. 中耳真珠腫に合併した高位頸静脈球症の二例
大河内喜久(赤穂中央病院)
- O12-4. 鼓膜切開で判明した内頸動脈走行異常
角田 篤信, 他(順天堂大学練馬病院)
- O12-5. 術中 petrosquamosal sinus からの出血により難渋した小児真珠腫の一例
岩波 朋子, 他(帝京大学)
- O12-6. 拍動性耳鳴を主訴に来院した硬膜動静脈瘻の2例
玉江 昭裕, 他(浜の町病院)

【一般演題(口演)】

第13群(症例2)(11:00～12:00)

座長:鳴原俊太郎(日本大学)

鈴木 幹男(琉球大学)

- O13-1. 鼓室形成術後に環軸椎回旋位固定をきたした2症例
深美 悟, 他(獨協医科大学)
- O13-2. 小児の鼓室形成術後に斜頸を生じた2症例
曾我 文貴, 他(関西電力病院)
- O13-3. 難聴とめまいを主訴に当科を受診した Engelmann 病が疑われる2症例
椎名 和弘, 他(秋田大学)
- O13-4. 真珠腫性中耳炎の急性増悪で鼓室形成術を施行し潜在性異物を認めた1例
平川 治男(広島赤十字・原爆病院)
- O13-5. Bow hunter 症候群症例
篠原 宏, 他(河北総合病院)
- O13-6. 酵素補充療法により難聴の進行を抑制できたムコ多糖症の1例
高野さくらこ, 他(大阪市立大学)

【一般演題(口演)】

第14群(症例3)(12:00～13:00)

座長: 武田 憲昭(徳島大学)

山下 拓(北里大学)

- O14-1. 完全な形でキヌタ骨が外耳道皮下に脱出した外傷性耳小骨離断の1例
山下 哲範, 他(奈良県立医科大学)
- O14-2. バルサルバ法により聴力改善を認めた外傷性耳小骨連鎖離断の1例
本田 圭司, 他(東京医科歯科大学)
- O14-3. 右前頭部外傷を契機とした contrecoup injury による左内耳障害例
竹内万理恵, 他(京都桂病院)
- O14-4. 小児に発症した内耳正常耳性髄液漏の1例
森岡 繁文, 他(京都市立病院)
- O14-5. 特発性髄液漏, フルオレセインの局所塗布が漏出部の同定に有効であった一例
野々村頼子, 他(新潟大学)
- O14-6. 髄液漏の処理に脂肪充填を要した再発中耳真珠腫症例
成尾 一彦, 他(奈良県総合医療センター)

第3会場 午後

【一般演題(口演)】

第15群(感染1)(14:30～15:30)

座長：折田 頼尚(熊本大学)

高橋 邦行(新潟大学)

O15-1. 悪性外耳道炎の7症例の検討

笹野 恭之, 他(聖マリアンナ医科大学)

O15-2. 頭蓋底骨髄炎の治療成績と予後因子

高橋 邦行, 他(新潟大学)

O15-3. 当院で治療を行った頭蓋底まで炎症が及んだ悪性外耳道炎の5例

北岡 杏子, 他(長崎大学病院)

O15-4. 当科で経験した悪性外耳道炎の3例

森下 大樹, 他(横浜市立大学)

O15-5. 硬膜下膿瘍を伴った悪性外耳道炎症例

小泉 弘樹, 他

(東京女子医科大学東医療センター)

O15-6. 悪性外耳道炎に対し高気圧酸素治療・Garenoxacin 長期投与と局所搔爬が著効した一例

木村百合香, 他(荏原病院)

【一般演題(口演)】

第16群(感染2)(15:40～16:50)

座長：川内 秀之(島根大学)

深美 悟(獨協医科大学)

O16-1. 頭蓋底骨髄炎に至ったが保存的治療で改善を得た悪性外耳道炎の1例

山本 陽平, 他(山口大学)

O16-2. 再発性真珠腫性中耳炎から頭蓋底骨髄炎へと進行した症例

小泉 洸, 他(秋田大学)

O16-3. 悪性外耳道炎を合併しない中心破壊型頭蓋底骨髄炎の臨床的特徴

立山 香織, 他(大分大学)

O16-4. 髄膜炎と敗血症をきたした側頭骨髄膜脳瘤の一例

丸山裕美子, 他(黒部市民病院)

O16-5. ムコーズ中耳炎により細菌性髄膜炎を発症した妊婦の一例

滝瀬由吏江, 他(獨協医科大学)

O16-6. 加齢に伴う上気道粘膜免疫応答の解析

平野 隆, 他(大分大学)

O16-7. 耳科領域のステロイド治療における de novo B 型肝炎対策

久保 和彦, 他(千鳥橋病院)

第6会場 午後

【一般演題(口演)】

第17群(真珠腫4)(14:30～15:30)

座長:高木 明(静岡県立総合病院)

小森 学

(東京慈恵会医科大学附属第三病院)

O17-1. 中耳真珠腫に対するTEES施行例の検討

内田 真哉, 他(京都第二赤十字病院)

O17-2. 中耳真珠腫に対する経外耳道的内視鏡下耳科手術における乳突削開時間の検討

西池 季隆, 他(大阪労災病院)

O17-3. 後天性真珠腫で3型耳小骨連鎖再建を施行した症例の聴力成績～聴力予後因子の解析～

佐藤 崇, 他(大阪大学)

O17-4. 真珠腫の個性から術式を選択する試みについて

水田 邦博, 他(浜松医療センター)

O17-5. 中耳真珠腫に対する外耳道後壁削除型鼓室形成術における軟素材再建の工夫とその成績

綾仁 悠介, 他(大阪医科大学)

O17-6. 当院の中耳真珠腫進展度と聴力の検討

西村 洋, 他(大阪医療センター)

【一般演題(口演)】

第18群(真珠腫5)(15:40～16:40)

座長:比野平恭之(神尾記念病院)

山田 啓之(愛媛大学)

O18-1. 外耳道後壁再建を断念した中耳真珠腫症例

呉 奎真, 他(県立広島病院)

O18-2. 中耳真珠腫進展度分類2015における複合型・分類不能型の検討

小森 学, 他(東京慈恵会医科大学)

O18-3. Down症に合併した中耳真珠腫症に対する鼓室形成術

菊地さおり, 他(東京北医療センター)

O18-4. 顕微鏡と内視鏡の併用下に摘出した錐体部真珠腫の一例

假谷 伸, 他(岡山大学)

O18-5. 後天性中耳真珠腫および慢性中耳炎例における鼻副鼻腔の解剖学的検討

荒井 康裕, 他(横浜市立大学)

O18-6. 真珠腫性中耳炎例の鼻腔通気度について

小森 正博, 他(高知大学)

第7会場 午後

【一般演題(口演)】

第19群(人工内耳1)(14:30~15:30)

座長: 岩崎 聡

(国際医療福祉大学三田病院)

南 修司郎(東京医療センター)

O19-1. 小児および成人の両側同時人工内耳手術の検討

吉田 忠雄, 他(名古屋大学)

O19-2. 両側同時人工内耳手術症例の検討

岡 晋一郎, 他

(国際医療福祉大学三田病院)

O19-3. 当科における両側人工内耳症例の検討

岡本 昌之, 他(福井大学)

O19-4. 人工内耳手術を施行した Charcot-Marie-Tooth 病の2症例

小林 万純, 他(名古屋大学)

O19-5. Charcot-Marie-Tooth 病と Warrdenburg 症候群を合併し内耳奇形と顔面神経高度肥厚を呈した例への人工内耳手術

大槻 好史, 他(福島県立医科大学)

O19-6. Cochlear implantation in Pendred syndrome and non-syndromic enlarged vestibular aqueduct - clinical challenges, surgical results and complications

Kristianna Mey, 他

(Copenhagen University Hospital, Denmark)

【一般演題(口演)】

第20群(人工内耳2)(15:40~16:40)

座長:河野 淳(東京医科大学)

櫻尾 明憲(東京大学)

- O20-1. 若年発症型両側性感音難聴に対して残存聴力活用型人工内耳(EAS)を施行した2症例
久保田瑛進, 他(旭川医科大学)
- O20-2. 好酸球性中耳炎の聾症例に対する人工内耳埋め込み術
杉本 寿史, 他(金沢大学)
- O20-3. Body balance function of cochlear implantation patients under with-and without-sound conditions
及川かおり, 他(岩手医科大学附属病院)
- O20-4. 遅発的に生じた人工内耳インプラント周囲の血腫への対応
富岡 亮太, 他(東京医科大学)
- O20-5. 当院での人工内耳植え込み術後合併症の検討
北野 雅子, 他(三重大学)
- O20-6. 人工内耳電極入れ替え症例の検討
西村 幸司, 他(京都大学)

第8会場 午後

【一般演題(口演)】

第21群(前庭1)(14:30～15:40)

座長: 肥塚 泉(聖マリアンナ医科大学)

伊藤 健(帝京大学)

O21-1. 内耳造影MRIによる内リンパ腔容積の測定—メニエール病確実例とメニエール病非定型例(蝸牛型)—

乾 洋史, 他(いぬい耳鼻咽喉科)

O21-2. 内リンパ嚢開放術のめまい長期成績と内耳造影MRI検査所見の推移

北原 糺, 他(奈良県立医科大学)

O21-3. メニエール病およびその類縁疾患におけるcVEMP tuning propertyによる内リンパ推定とMRI所見は一致するか?

室伏 利久, 他(帝京大学溝口病院)

O21-4. メニエール病非定型例(蝸牛型)の診断におけるフロセミドVEMPの役割

瀬尾 徹, 他

(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)

O21-5. メニエール病, 罹病期間別の同一聴力の予後

高橋 正紘

(横浜中央クリニックめまいメニエール病センター)

O21-6. メニエール病に対する内視鏡補助下の内リンパ嚢開放術

山中 敏彰, 他(奈良県立医科大学)

O21-7. 内リンパ嚢開放術におけるfiagon[®]ナビゲーションシステムの応用

佐々木 徹, 他(自治医科大学)

【一般演題(口演)】

第22群(前庭2)(15:40～16:40)

座長: 山中 敏彰(奈良県立医科大学)

大塚 康司(東京医科大学)

O22-1. 難治性遅発性内リンパ水腫に対する治療法の選択

小泉 敏三, 他(日本生命病院)

O22-2. ノイズ前庭電気刺激による立位体平衡の改善効果がより大きな被験者の特徴について

藤本 千里, 他(東京通信病院)

O22-3. 地震後めまい症候群:「平成30年北海道胆振東部地震」における苫小牧での経験

野村 泰之, 他(日本大学)

O22-4. 上半規管裂隙症候群の経乳突洞アプローチによる手術

高木 明, 他(静岡県立総合病院)

O22-5. Yamauchi法による上半規管裂隙症候群の治療—5症例の経験

川村 善宣, 他(東北大学)

O22-6. 上半規管裂隙が認められた症例の外科的治療について

荒井 真木, 他(浜松医療センター)

第2日目 10月11日(金)

第3会場 午前

【一般演題(口演)】

第23群(小児難聴)(8:00~9:00)

座長:小林 一女(昭科大学)

坂田 俊文(福岡大学)

- O23-1. 小児急性中耳炎軽症化の地域差に関する検討:北海道と千葉県の比較
林 達哉, 他(旭川医科大学)
- O23-2. 小児鼓膜穿孔手術の穿孔閉鎖と聴力についての検討
波多野 都, 他(金沢大学)
- O23-3. 新生児聴覚スクリーニングにより早期診断に至った先天性伝音難聴に対して手術治療を行なった3例の検討
中村 雄, 他(宮崎大学)
- O23-4. 当科を受診した先天性サイトメガロウイルス(CMV)感染症患者の臨床的特徴
宮之原郁代, 他(鹿児島大学)
- O23-5. MYO15A 遺伝子変異による小児難聴症例の聴力経過
石川浩太郎, 他
(国立障害者リハビリテーションセンター病院)
- O23-6. 前庭水管拡大症例の検討
仲野 敦子, 他(千葉県こども病院)

【一般演題(口演)】

第24群(腫瘍1)(9:30~10:30)

座長:猪原 秀典(大阪大学)

朝蔭 孝宏(東京医科歯科大学)

- O24-1. 当科における側頭骨扁平上皮癌103例の臨床的検討
小宗 徳孝, 他(九州大学病院)
- O24-2. 当科における外耳道癌症例の短期治療成績
堤 剛, 他(東京医科歯科大学)
- O24-3. 外耳道癌進行例の多施設共同研究による治療成績の検討
志賀 清人(岩手医科大学)
- O24-4. 再発外耳道癌に対するNivolumabの治療効果
野田 哲平, 他(九州大学)
- O24-5. 当科で経験した外耳道癌症例の検討
脇坂 理紗, 他(旭川医科大学)
- O24-6. 聴器扁平上皮癌に対するKORTUC, RALSの治療経験
淵脇 貴史, 他(島根大学)

【一般演題(口演)】

第25群(腫瘍2)(10:30～11:30)

座長:角田 篤信

(順天堂大学医学部附属練馬病院)

小川 恭生

(東京医科大学八王子医療センター)

O25-1. 外耳道腺様嚢胞癌の2例

小澤泰次郎, 他(豊橋市民病院)

O25-2. 中耳貯留液から診断できた耳管咽頭口原発の悪性黒色腫の一例

金沢 弘美, 他(さいたま市民医療センター)

O25-3. 右側頭骨巨細胞腫例

村尾 拓哉, 他(滋賀医科大学)

O25-4. 鼓膜に髄外再発した急性前骨髄球性白血病の1例

東 貴弘, 他(徳島大学)

O25-5. 頭蓋底と側頭骨内顔面神経鞘腫の手術療法と再建方法

山田武千代, 他(秋田大学)

O25-6. 外科的切除を行った外耳道良性腫瘍の検討

藤原 敬三, 他

(神戸市立医療センター中央市民病院)

【一般演題(口演)】

第26群(腫瘍3)(11:35～12:35)

座長:吉崎 智一(金沢大学)

堤 剛(東京医科歯科大学)

O26-1. 耳介に発生した石灰化上皮腫の一例

森 裕介, 他(名古屋市立大学)

O26-2. 外耳道内に発生した多形腺腫の一例

藤坂実千郎, 他(富山大学)

O26-3. 側頭骨を中心に存在したSFTの一例

園山 徹, 他(広島大学)

O26-4. 当科で経験した中耳腫瘍の1例

堀中 昭良, 他(奈良県総合医療センター)

O26-5. 耳管咽頭口まで突出した鼓室型グロームス腫瘍再発例に対して強度変調放射線治療を行った1例

大島 伸介, 他(新潟大学)

O26-6. 当科で経験した側頭骨線維性骨異形成症の1例

小川日出夫, 他(愛媛県立中央病院)

第6会場 午前

【一般演題(口演)】

第27群(外耳)(8:00~9:00)

座長:河田 了(大阪医科大学)

室野 重之(福島県立医科大学)

O27-1. 当科における外耳道外骨腫(サーファーズイヤー)及び外耳道狭窄症例に対する外耳道形成術の検討

峯川 明, 他(茅ヶ崎中央病院)

O27-2. 当科における先天性外耳道狭窄症例の検討

木谷 芳晴, 他(静岡県立総合病院)

O27-3. 病因に応じ対応した外耳道真珠腫の4症例

真鍋 恭弘, 他(真生会富山病院)

O27-4. 診断に難渋した真珠腫を合併する外耳道骨腫の一例

佐原 利人, 他(竹田総合病院)

O27-5. ナビゲーションを用いて手術を行なった外耳道閉鎖症の1例

ディアス茉莉, 他(自治医科大学)

O27-6. 治療に難渋した外耳道ポリープの一例

三浦康士郎, 他(神尾記念病院)

【一般演題(口演)】

第28群(中耳手術1)(9:30~10:30)

座長:小林 泰輔(高知大学)

谷口雄一郎(聖マリアンナ医科大学)

O28-1. 当科における内視鏡下耳科手術の臨床検討

吉田 尚生, 他(大阪赤十字病院)

O28-2. 当科における経外耳道的内視鏡下耳科手術の現状と成績

角南貴司子, 他(大阪市立大学)

O28-3. 内視鏡耳科手術における耳小骨連鎖保存症例での鼓室前方換気ルート開放術

水足 邦雄, 他(防衛医科大学校)

O28-4. 当科での経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)により施行した鼓室形成術1型(inlay法)症例の検討

北村 充, 他(慶應義塾大学)

O28-5. 非乾燥耳のまま日帰りTEESを行った症例について

森口 誠(森口耳鼻咽喉科)

O28-6. 内視鏡下耳科手術における70度斜視鏡の使用

高橋 昌寛, 他(東京慈恵会医科大学)

【一般演題(口演)】

第29群(中耳手術2)(10:30~11:30)

座長:西池 季隆(大阪労災病院)

宮下 武憲(香川大学)

O29-1. 当科における経外耳道的内視鏡下耳科手術(Transcanal Endoscopic Ear Surgery: TEES)導入の現況について

石田 克紀, 他(茅ヶ崎中央病院)

O29-2. 狭義の浅在化鼓膜に対するTEESの有用性

新川智佳子, 他(山形大学)

O29-3. TEES(経外耳道的内視鏡下耳科手術)にて手術を行ったadvanced otosclerosisの一症例

堀 文彦(堀耳鼻咽喉科クリニック)

O29-4. 内視鏡下耳科手術における機器先端の変位—手首支持による変化について—

國本 泰臣, 他(鳥取大学)

O29-5. 輸送システムを利用した培養上皮細胞シート移植による中耳粘膜再生治療

谷口雄一郎, 他(聖マリアンナ医科大学)

O29-6. 耳漏停止困難な慢性中耳炎に対する手術

鈴木 雅明, 他

(帝京大学ちば総合医療センター)

【一般演題(口演)】

第30群(中耳手術3)(11:35~12:25)

座長:長谷川賢作

(日本医科大学千葉北総病院)

武田 英彦(虎の門病院)

O30-1. 当院における経外耳道的顕微鏡下耳科手術(完全耳内法)

石井 賢治, 他(神尾記念病院)

O30-2. 顕微鏡下両手操作による耳科手術

比野平恭之, 他(神尾記念病院)

O30-3. 鼓室形成術I型後に鼓膜換気チューブ挿入術を施行した症例の検討

浜崎 泰佑, 他(昭和大学)

O30-4. 外耳道狭窄症, 浅在化鼓膜に対する外耳道・鼓室形成術

加瀬 希奈, 他(金沢大学)

O30-5. 当科における鼓室硬化症に対する鼓室形成術の検討

比嘉 輝之, 他(琉球大学)

第7会場 午前

【一般演題(口演)】

第31群(人工内耳3)(8:00~9:00)

座長: 吉田 忠雄(名古屋大学)

白井 杏湖(東京医科大学)

O31-1. 人工内耳装用児の実用的言語能力と対人関係能力

白井 杏湖, 他(東京医科大学)

O31-2. 人工内耳装用例における単音節語表の比較と検討—CI2004単音節リストと57-S語表の成績比較—

松田 悠佑, 他(鹿児島市立病院)

O31-3. 局所麻酔鎮静下にて施行した人工内耳手術例

小山田匠吾, 他

(国際医療福祉大学三田病院)

O31-4. 人工内耳埋め込み術を要した豚レンサ球菌による髄膜炎の一例

関谷 真二, 他(海南病院)

O31-5. 先天性サイトメガロウイルス感染症に対する人工内耳手術の成績

太田 有美, 他(大阪大学)

O31-6. 人工内耳埋め込み術を施行したミトコンドリア8296A>G変異症例

太田 陽子, 他(東京医科大学)

【一般演題(口演)】

第32群(鼓膜)(9:30~10:30)

座長:白馬 伸洋

(帝京大学医学部附属溝口病院)

今泉 光雅(福島県立医科大学)

O32-1. 当科での内視鏡下鼓膜形成術の検討

和田 昂, 他(横浜市立大学)

O32-2. 当科で施行した鼓膜接着法(湯浅法)症例の検討—顕微鏡下手術と内視鏡下手術の比較検討—

兵頭 純, 他(鷹の子病院)

O32-3. butterfly cartilage を用いた鼓膜形成術

木村 幸弘, 他(福井大学)

O32-4. 新しい鼓膜形成法(From Inside To Outside FITO)の提案

藤坂実千郎, 他(富山大学)

O32-5. 鼓膜形成術と周術期のめまい 当科における工夫

中上 桂吾, 他

(東京女子医科大学東医療センター)

O32-6. TEESにて鼓膜全体を薄切軟骨で再建した二次性真珠腫の一例

西村 信一, 他(三井記念病院)

【一般演題(口演)】

第33群(内耳(遺伝子)1)(10:30~11:30)

座長:石川浩太郎

(国立障害者リハビリテーションセンター病院)

高橋 優宏

(国際医療福祉大学三田病院)

O33-1. 霊長類蝸牛における高発現遺伝子群の探索

務台 英樹, 他(東京医療センター)

O33-2. 単一細胞網羅的遺伝子発現解析による鳥類聴覚感覚上皮における支持細胞から有毛細胞への分化転換機構解析

中川 隆之, 他(京都大学)

O33-3. GJB2変異型遺伝性難聴患者iPS細胞を用いた遺伝子治療および薬剤スクリーニング系の開発

神谷 和作, 他(順天堂大学)

O33-4. ヒト遺伝性難聴より見出したMYO6遺伝子変異の細胞学的解析

北尻真一郎, 他(信州大学)

O33-5. GJB2遺伝子変異のハプロタイプ解析

品川 潤, 他(信州大学)

O33-6. ゼブラフィッシュにおけるヒトTPRSS3遺伝子の発現と遺伝子改変について

樽本 俊介, 他(山口大学)

【一般演題(口演)】

第34群(内耳(遺伝子)2)(11:35~12:35)

座長:松原 篤(弘前大学)

松永 達雄(東京医療センター)

O34-1. 遅発性難聴患者の原因遺伝子解析

吉村 豪兼, 他(信州大学)

O34-2.TECTA遺伝子変異による日本人難聴者の検討

安川 梨香, 他(信州大学)

O34-3. 国際研究組織による164難聴遺伝子・疾患の組み合わせの臨床的妥当性評価

松永 達雄, 他(東京医療センター)

O34-4. TNCバリエントによる常染色体優性非症候群性遺伝性難聴

野口 佳裕, 他(国際医療福祉大学)

O34-5. m.1555A>G変異とm.3243A>G変異を共に認めたミトコンドリア難聴の一家系

石野 岳志, 他(広島大学)

O34-6. 日本人で初めて見出されたCLDN14変異による難聴症例

北野 友裕, 他(信州大学)

第8会場 午前

【一般演題(口演)】

第35群(顔面神経1)(8:00~9:00)

座長: 萩森 伸一(大阪医科大学)

濱田 昌史(東海大学)

- O35-1. 顔面神経切断モデルによる顔面神経核におけるグリア細胞の変化の検討
高相 裕司, 他(金沢大学附属病院)
- O35-2. 冷却顔面神経麻痺モデルにおけるIGF-1の鼓室内投与の検討
木村 拓也, 他(愛媛大学)
- O35-3. 顔面神経麻痺の原因ウイルス早期診断法の開発に向けた研究
和佐野浩一郎, 他(東京医療センター)
- O35-4. ハント症候群に対する経乳突的顔面神経減荷術術後成績—術前MRI所見と術中所見, 術後成績の関連—
熊井 良彦, 他(熊本大学)
- O35-5. Bell麻痺による顔面神経MRI検査の定量的解析
稲垣 彰, 他(名古屋市立大学)
- O35-6. 重症ハント症候群患者の顔面神経腫脹と造影MRI
南方 寿哉, 他(名古屋市立大学)

【一般演題(口演)】

第36群(顔面神経2)(9:30~10:40)

座長: 松代 直樹(大阪警察病院)

高野 賢一(札幌医科大学)

- O36-1. 当科における顔面神経減荷術の経験
久家 純子, 他(日本医科大学千葉北総病院)
- O36-2. 当科における顔面神経減荷術についての後ろ向き検討
グンデウス メーメット, 他
(和歌山県立医科大学)
- O36-3. bFGFを用いた顔面神経再生術
後藤 崇成, 他(山形大学)
- O36-4. 当科におけるウイルス性高度顔面神経麻痺症例の検討
近藤 俊輔, 他(琉球大学)
- O36-5. Ramsey Hunt症候群の予後に関する検討
寺岡 正人, 他(愛媛大学)
- O36-6. 反復性顔面神経麻痺の検討
豊田 貴一, 他(名古屋市立大学)
- O36-7. 顔面神経血管腫の1例
阿部 俊彦, 他(岩手医科大学)

【一般演題(口演)】

第37群(耳管)(10:40～11:30)

座長:伊勢 桃子(熊本大学)

池田 怜吉(仙塩利府病院)

O37-1. 耳管狭窄・閉塞症例への鼓室形成術

梅田 裕生, 他(細田耳鼻科 EAR CLINIC)

O37-2. 耳管開放症治療に関する全国アンケート調査

池田 怜吉, 他(仙塩利府病院)

O37-3. 中耳手術中の耳管抵抗測定

矢間 敬章, 他(鳥取大学)

O37-4. 座位CTによる耳管形態と耳管疾患との関連性についての検討

浅田 弥子, 他(福岡大学)

O37-5. 鼻すすり型耳管開放症を伴う真珠腫の蜂巢発育および含気の検討

小林 泰輔, 他(高知大学)

第3会場 午後

【一般演題(口演)】

第38群(聴神経腫瘍)(14:30~15:40)

座長:伊藤 真人

(自治医科大学とちぎ子ども医療センター)

須納瀬 弘

(東京女子医科大学東医療センター)

- O38-1. 聴力正常もしくは左右差のない聴神経腫瘍の検討
高橋真理子, 他(愛知学院大学)
- O38-2. ステロイド加療を行い一時的に聴力が改善した聴神経腫瘍症例の検討
白石 功, 他(近畿大学)
- O38-3. 神経線維腫症2型を呈する日本人症例におけるNF2遺伝子変異と臨床像の関係
野口 勝, 他(日野市立病院)
- O38-4. 当院における神経線維腫症II型に対する試み—稀少難治性遺伝性疾患として—
藤岡 正人, 他(慶應義塾大学)
- O38-5. 国内第1/2相臨床試験における神経線維腫症2型に対するVEGFR1/2ペプチドワクチン投与後の聴力経過の検討
長谷部夏希, 他(慶應義塾大学病院)
- O38-6. 聴神経腫瘍の臨床:聴力温存率向上を目指した取り組み
大石 直樹, 他(慶應義塾大学)
- O38-7. 刺激音の症例別最適化による聴神経腫瘍手術時の聴覚モニタリング改善の試み
細谷 誠, 他(慶應義塾大学)

第6会場 午後

【一般演題(口演)】

第39群(アブミ骨手術1)(14:30~15:30)

座長: 植田 広海(愛知医科大学)

田邊 牧人

(老木医院 山本中耳サージセンター)

O39-1. 当科における TEES アブミ骨手術の治療成績

窪田 俊憲, 他(山形大学)

O39-2. 当科での内視鏡下アブミ骨手術とその成績

堀 龍介, 他(天理よろづ相談所病院)

O39-3. 耳内内視鏡下アブミ骨手術における Reversal Steps Stapedotomy の有用性の検討

川島 慶之, 他(東京医科歯科大学)

O39-4. マレウスアタッチメントを使用した中耳奇形5例

平海 晴一, 他(岩手医科大学)

O39-5. スキャッタグラムを用いたアブミ骨術後聴力評価

美内 慎也, 他(兵庫医科大学)

O39-6. 耳硬化症の診断における聴覚機能検査の有用性の検討

菅 太一, 他(愛知医科大学)

【一般演題(口演)】

第40群(アブミ骨手術2)(15:40~16:40)

座長: 奥野 妙子(三井記念病院)

杉本 寿史(金沢大学)

O40-1. アブミ骨手術における顔面神経の解剖学的要因の影響

中島 崇博, 他(宮崎大学)

O40-2. アブミ骨手術を行った聾型混合性難聴2例の検討

青木 光広, 他(岐阜大学)

O40-3. van der Hoeve 症候群にアブミ骨手術が有効であった症例

田中 翔太, 他(山梨大学)

O40-4. アブミ骨手術を工夫して行った耳小骨奇形の2例

山田 浩之, 他(けいゆう病院)

O40-5. ビル内服により聴力悪化が疑われた臨床的耳硬化症例

小川 洋

(福島県立医科大学会津医療センター)

O40-6. 当科におけるアパタイト人工耳小骨を用いた内視鏡下アブミ骨手術症例の検討

細谷 誠, 他(慶應義塾大学)

第7会場 午後

【一般演題(口演)】

第41群(内耳基礎(障害・保護)1)(14:30~15:30)

座長: 五島 史行(東海大学)

菅原 一真(山口大学)

O41-1. ゼブラフィッシュ側線有毛細胞障害モデルを用いたオートファジー化合物のスクリーニング

廣瀬 敬信, 他(山口大学)

O41-2. Necroptosis in Gentamicin-induced Hair Cells death in Mice Cochlear Organotypic Cultures

Gao Ying, 他(東京大学医学部附属病院)

O41-3. 急性音響外傷におけるERKシグナルと聴覚機能

松延 毅, 他(日本医科大学付属病院)

O41-4. アルドース還元酵素阻害薬による蝸牛保護作用の検討

松本 信, 他(筑波大学附属病院)

O41-5. 内耳における酸化ストレス障害に対する転写因子NRF2の機能の解明

大石 哲也, 他(東北大学)

O41-6. P-type Ca²⁺-ATPase変異により誘起される長期的内耳細胞機能障害の解析

美野輪 治, 他(順天堂大学)

【一般演題(口演)】

第42群(内耳基礎(障害・保護)2)(15:40~16:40)

座長:北尻真一郎(信州大学)

稲垣 彰(名古屋市立大学)

O42-1. 一側性前庭障害モデルマウスの作製

西村 幸司, 他(京都大学)

O42-2. *Lrrc30*高発現によるマウス加齢性難聴の発症抑制効果

吉川 欣亮, 他

(東京都医学総合研究所 哺乳類遺伝PT)

O42-3. ラセン靭帯に着目した, ミトコンドリア機能異常による加齢性難聴の原因解明

三輪 徹(熊本総合病院)

O42-4. 色素性乾皮症の聴力障害とモデルマウスの聴覚解析

藤田 岳, 他(神戸大学)

O42-5. 内耳感覚細胞の過興奮性細胞死におけるTLR7-TRPA1相互作用

林 賢, 他(神尾記念病院)

O42-6. Circadian clock in the inner ear and related disorders

Chao-Hui Yang

(Kaohsiung Chang Gung Memorial Hospital, Kaohsiung, Taiwan)

第8会場 午後

【一般演題(口演)】

第43群(奇形)(14:30～15:40)

座長: 鈴鹿 有子(関西医科大学)

佐野 肇(北里大学)

O43-1. 先天性中耳奇形に対する内視鏡下耳科手術の検討

大木 雅文, 他

(埼玉医科大学総合医療センター)

O43-2. 聴力パターンからみた鼓膜正常伝音難聴

中江 進, 他(明石市立市民病院)

O43-3. 顔面神経管とキヌタ骨長脚, アブミ骨後脚が固着した耳小骨奇形の1例

沼倉 茜, 他(埼玉医科大学)

O43-4. アブミ骨上部構造固着の2例

山田光一郎, 他

(日本赤十字社和歌山医療センター)

O43-5. 耳介奇形を合併したツチ骨柄骨性固着の2例

柴田 敏章, 他(神戸中央病院)

O43-6. 先天性あぶみ骨上部構造固着の2症例

廣瀬 由紀, 他(筑波大学)

O43-7. 耳小骨奇形を合併したVATER連合の1例

北村 友理, 他(慶応義塾大学)

【一般演題(口演)】

第44群(外リンパ瘻)(15:40～16:50)

座長:堀井 新(新潟大学)

野村 泰之(日本大学)

O44-1. 当院にてCTP検査を施行した症例の検討

小林 由貴, 他(山口大学)

O44-2. 新規モノクローナル抗体ELISAによるCTP検査

池園 哲郎, 他(埼玉医科大学)

O44-3. 当科で内耳窓閉鎖術を行った症例の検討—手術適応, CTP検査結果, 治療成績を中心に

西嶋 文美, 他(翠明会山王病院)

O44-4. 久留米大学病院における内耳窓閉鎖手術症例の検討

三橋 亮太, 他(久留米大学)

O44-5. モノクローナル抗体ELISA測定で高値を示した外リンパ瘻の一例

大塚雄一郎, 他(千葉市立海浜病院)

O44-6. 耳かき外傷による外リンパ瘻および内耳異物の1例

篠森 裕介, 他(松山赤十字病院)

O44-7. 迷路気腫を伴った外傷性外リンパ瘻例

手塚 綾乃, 他(自治医科大学附属病院)

第3日目 10月12日(土)

第5会場 午前

【一般演題(口演)】

第45群(中耳手術4)(8:00~8:50)

座長:野中 学(東京女子医科大学)

太田 有美(大阪大学)

O45-1. 術前術後の語音聴力検査を用いて術後聴覚を評価した穿孔性慢性中耳炎の手術症例

池畑 美樹, 他(兵庫医科大学)

O45-2. 乳突腔充填における Periosteal-Pericranial Flap

物部 寛子, 他(日本赤十字社医療センター)

O45-3. 乳突開放型鼓室形成術(open法)における早期上皮化を目指した手術手技の工夫

古川 孝俊, 他(山形大学)

O45-4. 外耳道後壁削除再建型鼓室形成術・乳突腔充填術施行例に対する再手術

飯野ゆき子, 他(東京北医療センター)

O45-5. Open法に代用できるZ形成応用の入口部および外耳道の拡大と末梢充填

柘植 勇人, 他(名古屋第一赤十字病院)

【一般演題(口演)】

第46群(中耳手術5)(8:50~9:40)

座長:小川 洋

(福島県立医科大学会津医療センター)

物部 寛子

(日本赤十字社医療センター)

O46-1. 当科における高齢者中耳手術の検討

藤田 朋己, 他(京都第一赤十字病院)

O46-2. 中耳手術後10年経過症例の検討

渡部 佑, 他(鳥取大学)

O46-3. 鼓膜・鼓室形成術後の耳閉塞感について

鳴原俊太郎, 他(日本大学)

O46-4. 当院における局所麻酔下鼓室形成術に対する各種苦痛の検討

榎谷 将偉

(桂林耳鼻咽喉科・中耳サージックリニック)

O46-5. 高齢者耳科手術における問題点

木村 優介, 他(日本大学)

【一般演題(口演)】

第47群(難治性中耳炎3)(9:50~10:40)

座長:日高 浩史(関西医科大学)

森田 由香(新潟大学)

O47-1. 手術治療を施行した乳様突起炎の検討

金井 理絵, 他(北野病院)

O47-2. 中耳MRSA感染症に対する手術治療の検討

小島 綾乃, 他(名古屋市立大学)

O47-3. Cavity problemを伴う追加手術困難症例に対する自己洗浄フィードバック法の導入経験

今泉 光雅, 他(福島県立医科大学)

O47-4. 難治性中耳炎から脳膿瘍を来した1例

妻鳥敬一郎, 他(福岡大学)

O47-5. subannular tube留置とステロイド局所投与により治療した中耳コレステリン肉芽腫の1例

村井 尚子, 他(京都第二赤十字病院)

第6会場 午前

【一般演題(口演)】

第48群(難治性中耳炎1)(8:00~8:40)

座長: 林 達哉(旭川医科大学)

松延 毅(日本医科大学)

O48-1. 診断に時間を要した ANCA 関連血管炎性中耳炎 (otitis media with ANCA associated vasculitis; OMAAV) の 1 例

川脇 和世, 他(日本赤十字社医療センター)

O48-2. ANCA 関連疾患における IgG4 陽性率の検討

岸部 幹, 他(旭川医科大学)

O48-3. OMAAV 治療経過における鼓膜所見

齋藤 和也, 他(近畿大学)

O48-4. 日本耳科学会 ANCA 関連血管炎性中耳炎 (OMAAV) 全国調査ワーキンググループによる OMAAV の後追い調査 中間報告

岸部 幹, 他(旭川医科大学)

【一般演題(口演)】

第49群(難治性中耳炎2)(8:40~9:30)

座長: 太田 伸男(東北医科薬科大学)

岡野 光博(国際医療福祉大学)

O49-1. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に伴う中耳炎と好酸球性中耳炎における好中球細胞外トラップ測定の有用性

森田 真也, 他(北海道大学)

O49-2. 好酸球性中耳炎(EOM)と中耳炎を合併した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)の比較

福田 篤, 他(北海道大学)

O49-3. 鼓膜穿孔の残存した好酸球性中耳炎の検討

増田麻里亜, 他

(自治医科大学附属さいたま医療センター)

O49-4. 重症喘息に合併した好酸球性中耳炎に対する抗体薬の治療効果

鈴木 成尚, 他(慶應義塾大学)

O49-5. 気道症状を呈した再発性多発軟骨炎

原 聡, 他(順天堂大学)

第8会場 午前

【一般演題(口演)】

第50群(内耳基礎(機能・再生)1)(8:00~9:00) 座長:中川 隆之(京都大学)

蓑田 涼生(熊本総合病院)

O50-1. マウス蝸牛組織における自然免疫応答の検討

中西 啓, 他(浜松医科大学)

O50-2. 内耳性耳鳴における ERK シグナルの機能的役割

鈴木 宏隆, 他(日本医科大学)

O50-3. 外有毛細胞の聴毛回転が蝸牛増幅に及ぼす影響の数値解析

村越 道生, 他

(金沢大学 フロンティア工学)

O50-4. 前庭動眼反射検査と温度刺激検査を用いた Pendred 症候群モデルマウスの平衡障害の評価

渡邊 浩基, 他(東京医科歯科大学)

O50-5. ラット内耳の各平衡受容器への外科的アプローチと選択的前庭電気刺激による眼球運動

佐藤 豪, 他(徳島大学)

O50-6. マウスの ABR および DPOAE 記録時に用いる三種混合麻酔薬の評価

侯 雪含, 他

(東京都医学総合研究所 哺乳類遺伝 PT)

【一般演題(口演)】

第51群(内耳基礎(機能・再生)2)(9:00~10:00)

座長:假谷 伸(岡山大学)

大島 一男(大阪大学)

O51-1. マウス卵形嚢培養における終末糖化産物の生成

菅原 一真, 他(山口大学)

O51-2. 鳥類蝸牛器官培養モデルにおける有毛細胞再生プロセスの解析

松永 麻美, 他(京都大学)

O51-3. 内耳エンハンサーによるヒト iPS 細胞由来内耳前駆細胞のライブセルイメージング

栗原 渉, 他(東京慈恵会医科大学)

O51-4. 化合物を用いたヒト iPS 細胞から内耳蝸牛感覚上皮への分化誘導条件の検討

佐伯 翼, 他(慶應義塾大学 生理学)

O51-5. ヒト多能性幹細胞からの血管条辺縁細胞分化誘導系の確立

三枝 智香, 他(慶應義塾大学)

O51-6. 外有毛細胞共振説での蓋膜とヘンゼン条

森満 保(宮崎大学名誉教授)

第29回日本耳科学会総会・学術講演会を開催するにあたり、皆様より多大なご支援とご協力を賜りました。ここに謹んで御礼申し上げます。

公益財団法人国際耳鼻咽喉科学振興会



コストコホールセールジャパン株式会社



〈セミナー共催企業一覧〉

オリンパス株式会社
カールストルツ・エンドスコピー・ジャパン株式会社
カールツァイスメディテック株式会社
グラクソ・スミスクライン株式会社
第一医科株式会社
大鵬薬品工業株式会社
日本光電工業株式会社
株式会社日本コクレア
日本メドトロニック株式会社
ノーベルファーマ株式会社
富士フイルム富山化学株式会社
マキチエ株式会社
メドエルジャパン株式会社
株式会社モリタ製作所

(50音順, 敬称略)

第29回日本耳科学会総会・学術講演会
会長 欠畑 誠治

ハイクラススポンサー



山形満喫ツアーのご紹介

このたび、ご参加の先生方に学会の合間に楽しんでいただける「山形満喫ツアー」をご紹介します。

市街地には百円循環バスが走っていますので、ぜひバスに乗って山形巡りをしてみてください。

○観どころ

・霞城セントラル

会場である山形テルサのほど近くにある、24階建ての山形のランドマークです。最上階からは山形市内を一望できます。山形の名にふさわしい、美しい山々に囲まれた市内をぜひご覧ください。

・霞城公園

山形市民憩いの公園です。春には満開の桜を楽しむことができます。10月には少し木々の色づきが見られるかもしれません。朝の散歩やジョギングコースにしてみたいはいかがでしょうか。公園内やその近くには山形市郷土館（旧済生館本館）、山形県立博物館、山形美術館、最上義光歴史館など、多くの文化施設もあります。

・文翔館

大正初期の洋風建築を代表する貴重な遺構として、国の重要文化財に指定されました。現在は、山形県郷土館として一般に無料公開されています。さまざまなイベントもやっておりますので、チェックしてみてください。

○おいしいところ・お土産どころ

① Tsuki Cafe

吹き抜けがおしゃれなカフェです。特にコーヒーの種類が豊富で、好きな方にはおすすめです。山形の街並みを見ながらゆったりとした時間を過ごすのはいかがでしょうか。耳科学会オフィシャルカフェであり、ご参加の先生方へは優待券もあります。

②第2公園 山長

山形は蕎麦どころであり、市内にはたくさんのお蕎麦屋さんがあります。こちらの名物「名代箱そば」には、お蕎麦や天ぷら、卵焼きがついており、おなかいっぱいお蕎麦を楽しむことができます。

③山形まるごと館 紅の蔵

旧家の蔵屋敷を活用した複合施設です。館内にはイタリアンのお店とお蕎麦屋さんが入っており、どちらもとても美味しいです。お土産どころには、山形の美味しいものがたくさんそろっています。さらに裏の建物には直売所があり、山形の新鮮な野菜や果物が購入できます。また、観光案内所もありますのでご活用ください。

④栄屋本店

山形の名物のひとつが冷やしラーメンです。栄屋さんはその発祥のお店とされており、夏場にはいつも大行列ですが、一年中食べることができます。麺好きの方はぜひ一度味わってみてください。

⑤水の町屋 七日町御殿堰（なのかまちごてんぜき）

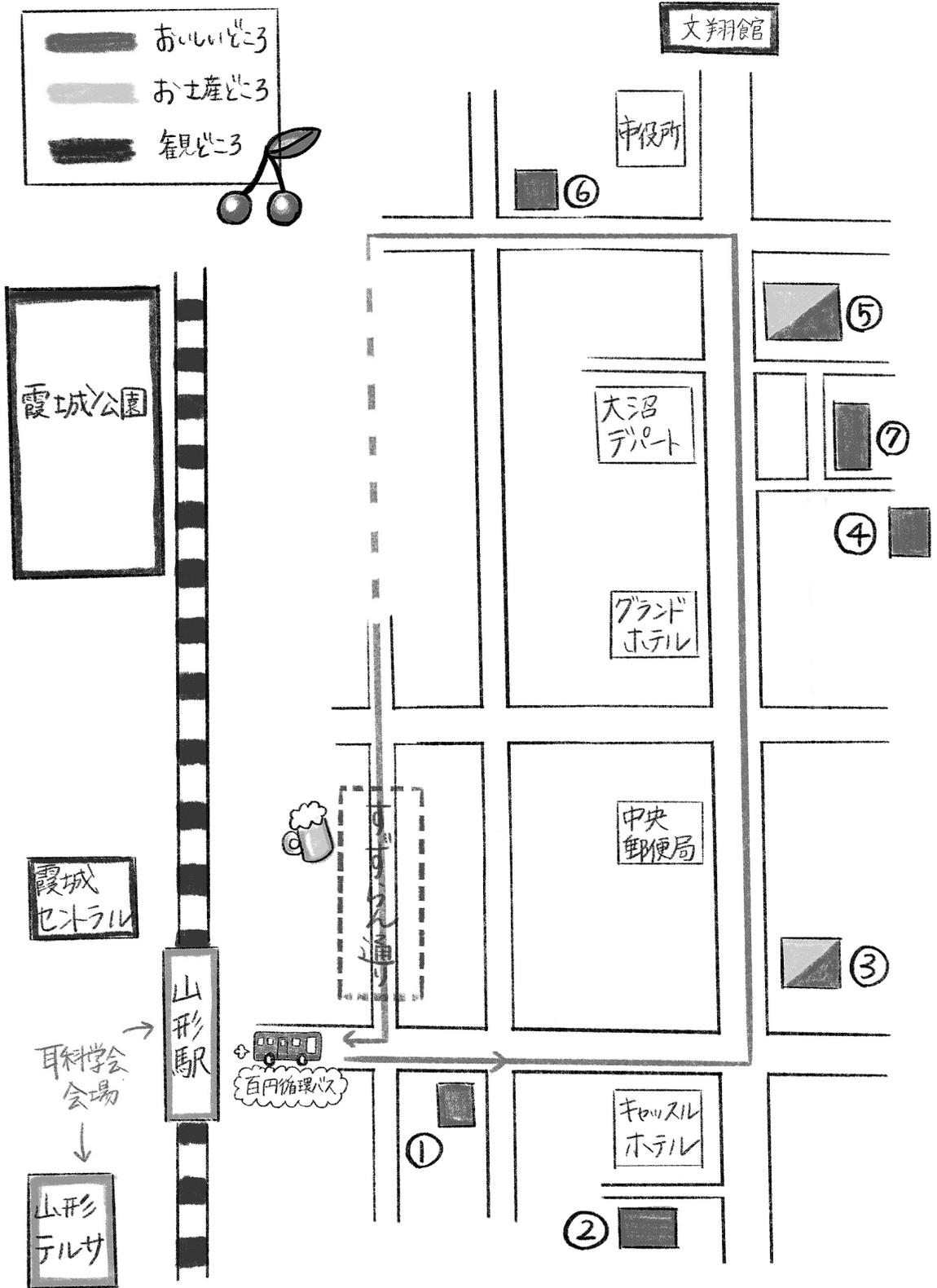
町屋風の2階建て複合施設です。施設にはお食事どころとお土産どころが軒を連ねています。日本人で初めてフェラーリをデザインした山形出身の奥山清行さんのショップや、米沢織、山形の伝統工芸を生かした雑貨屋さんなど、素敵なお土産を購入することができます。水の流れに癒されながらゆっくりと散策してみてください。

⑥榮玉堂

山形市で有名な老舗の和菓子屋さんです。名物のどらやきは宇治金どら、生クリームどら、カマンベールどらなど豊富な種類から選べます。どれも美味しく、早いと午前中には売り切れてしまうほどです。ぜひ早めに足を運んでみてください。

⑦山形屋台村 ほっとなる横丁

山形の飲み屋街である七日町にある屋台村です。16時から営業しているお店が多く、早いと昼からお酒を飲むことができます。山形牛や芋煮などの山形の名物や、山形の地酒を気軽に楽しむことができます。お酒がお好きな方はぜひ覗いてみてください。



医局員おすすめ ♪山形ほろよいマップ♪

駅前編

山形五十番飯店

丼のラーメンならこちらで。
味もあなるなかれ、酸辣
湯麺が有名ですが、何を頼
んでも美味しいです。

☎中華 ♀1-10人向け
☎023-623-0050
定休日曜 11:30-2:00

本場博多あぶり居酒屋

佐のちゃん

大人数でわいわい飲むなら
ココ。炙りもつ鍋はやみつ
きになります。

☎居酒屋 ♀大人数向け
☎023-665-4129
無休 17:00-0:00

BALLADE (バラード)

駅前随一のカクテルのお店。
おしゃれな店内で一流の
バーテンダーが作る美味し
いカクテルをどうぞ。

☎Bar ♀1-8人向け
☎023-623-2666
無休 18:00-2:00

わかしよう

繊細に作られた和食と山形
の地酒で至福の時間。大将
の人柄も素敵です。

☎和食 ♀1-10人向け
☎023-634-3114
定休日曜 17:00-23:00



あきよし

大きく贅沢に盛られたお刺身
が食べられます。山形の地酒
も豊富です。

☎和食 ♀1-10人向け
☎023-633-3133
定休日曜 17:00-23:30

Ritz Garden

カジュアルなBarですが、
美味しい洋食が食べられます。
女性におすすめ。

☎Bar ♀1-8人向け
☎023-608-5076
定休火曜 18:00-2:00

Enoteca (エノテカ)

ワインを飲むならこちら。
オーガニックワインも豊富。
ウニクリームパスタが絶品です。

☎洋食 ♀1-4人向け
☎023-623-5612
定休日曜 18:00-1:00

和酒スタンド 太郎's BAR

ライラ

日本酒好きにはココ。全国の
日本酒が思う存分飲めます。

☎Bar ♀1-4人向け
☎023-642-7502
定休日曜 18:00-0:00

焼肉くろげ

山形牛・米沢牛をリーズナブル
に楽しめます。ビールに焼肉は
いかが。

☎焼肉 ♀2-8人向け
☎023-623-8929
定休月曜 17:00-23:00

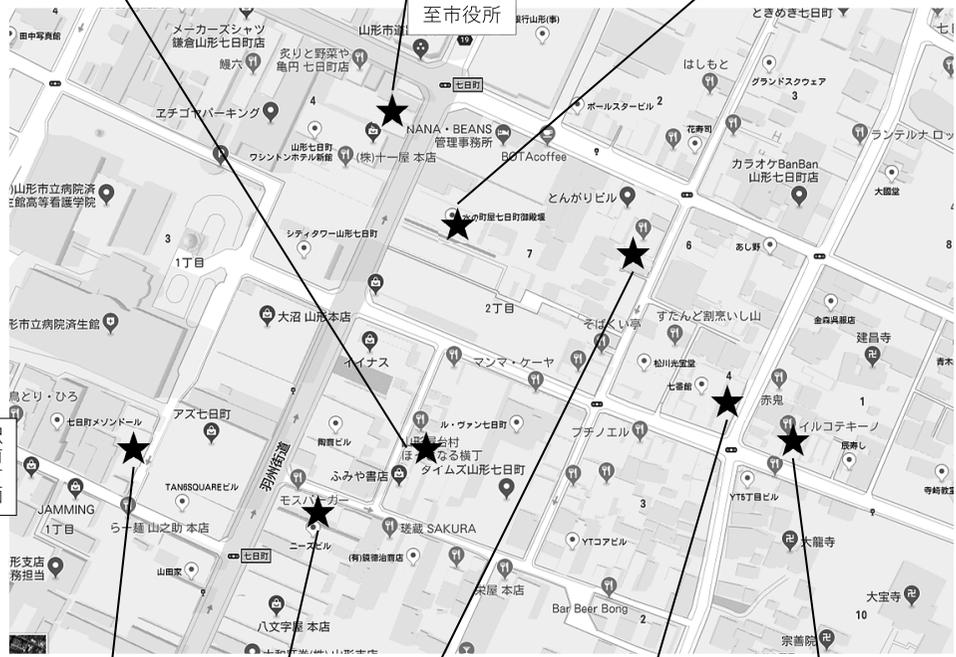
医局員おすすめ 山形ほろよいマップ

七日町編

山形屋台村ほっとなる横丁
山形唯一の屋台村。
和食やホルモン焼き、Bar
までさまざまなお店が軒を
連ねています。みんなで
ワイワイ楽しめます。
☎居酒屋 1-10人向け
☎023-666-7604
無休 16:30-0:00

酒縁しょう榮
全国の日本酒が飲み放題で楽
しめます。ここまでクオリ
ティの高い飲み放題は他に
ないでしょう。日本酒のアテ
もたくさんあります。
☎和食 1-4人向け
☎023-674-6905
定休日曜 17:30-0:00

**そば処司屋
御殿堰七日町店**
実は山形の名物は蕎麦です。
山形の老舗の蕎麦屋さんの
支店で、蕎麦はもちろん、
お酒も楽しめます。
☎和食 1-10人向け
☎023-673-9639
無休 11:30-21:00



串幸
高級串揚げのお店。
おまかせで出てくる串揚げ
はどれも絶品。ビール、
日本酒、ワイン、なんでも
合います。
☎和食 1-6人向け
☎023-641-0330
定休日曜 17:30-23:00

Beer Storage
ビール専門のBarで世界中の
ビールが楽しめます。
海外のビールが生で楽しめる
のはココだけです。
☎Bar 1-6人向け
☎023-625-2232
定休日曜 18:00-0:00

**IL COTECHINO
(イルコテキノ)**
本格イタリアンの有名店。
手作りハムの盛り合わせは一度
食べる価値あります。
予約必至です。
☎洋食 2-4人向け
☎023-664-0765
定休水曜 18:00-23:00

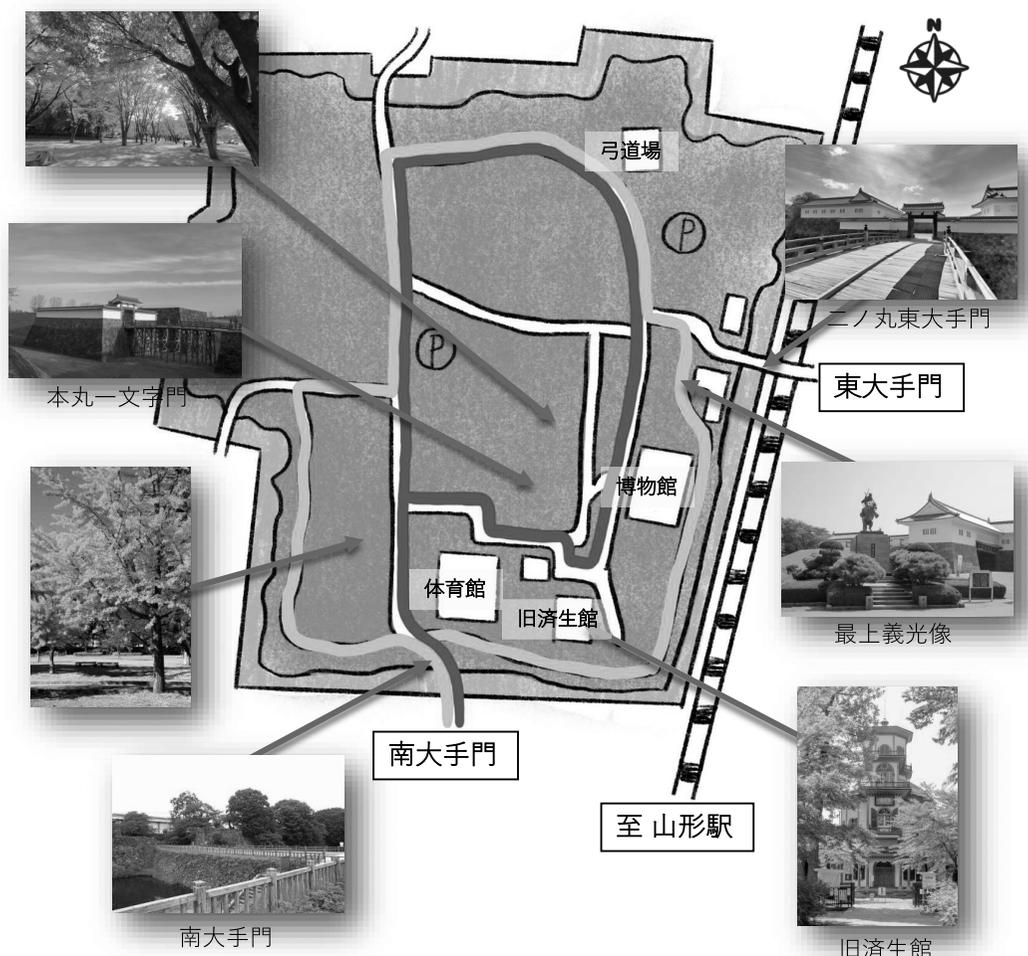
居酒屋 味山海
大人数で山形の日本酒を楽し
みたいならココ。冷蔵庫に
ある地酒の種類は圧巻です。
☎居酒屋 1-大人数向け
☎023-642-5402
定休水曜 18:00-0:00

やきとり小柳七日町店
安くてボリュームたっぷりの
焼き鳥が楽しめます。レバーが
おすすめ。駅前に本店が
ありますのでそちらもぜひどうぞ。
☎焼き鳥 1-4人向け
☎023-642-5005
定休日曜 18:00-0:00

霞城公園 Running MAP

耳科学会が開催される10月の山形は木々が色づき、ランニングや散歩にはぴったりです。会場ほど近くにある、山形市民憩いの場所「霞城公園」でのランニングはいかがですか。医局員おすすめのランニングコースをご紹介します。

—— 1kmコース —— 2kmコース





山形市民会館大ホール

特別優待料金:900円(1回券/山形市民会館チケット販売窓口にて「学会参加証」ご提示の方)



アジア初のドキュメンタリー映画に焦点を当てた国際映画祭として誕生してから30年。米アカデミー賞「長編ドキュメンタリー映画部門」の公認映画祭になるなど、「山形国際ドキュメンタリー映画祭」はいまや世界三大ドキュメンタリー映画祭と称されるほどの知名度を獲得しました。開催地である山形市は2017年にユネスコの「創造都市ネットワーク」に国内で初めて映画部門にて加盟認定を受け、映画祭を中心として映画文化に彩られたの街づくりを行っています。

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019には2つのコンペティション部門があります。世界の最新長編ドキュメンタリー映画を対象とした「インターナショナル・コンペティション」には、世界123の国と地域から1,428作品が応募され、予備選考を通過した15作品が上映されます。世界初公開作品も含むこのコンペ部門からは、のちに日本での一般公開がなされる作品も数多く出てきます。世界の話作を真っ先にご覧いただける貴重な機会です。

30周年という記念の年を迎える第16回目の開催にあたり、第29回日本耳科学会とのコラボレーションが実現いたしました。

この「インターナショナル・コンペティション」作品の山形市民会館大ホールでの上映について、日本耳科学会にご参加の皆さんに特別優待料金をご用意いたしました。チケット販売窓口にて「学会参加証」ご提示の方、当日料金1,300円のところ900円で1回券をご購入いただけます。

